

スマートフォン SIP クライアント

# SC210 取扱説明書

2024 年 11 月 第 2.14.1 版

本書はよく読み保管してください。

- ご使用前に、本書をよくお読みの上、十分理解してからお使いください。
- 本書はいつでも参照できるように、手近な所に保管してください。

株式会社 日立情報通信エンジニアリング

スマートフォン SIP クライアント SC210 取扱説明書 変更履歴(1/3)

日付	版数	章項節	内容	備考
2020/04/01	2.3	2.8.3	詳細設定の設定項目(SIP)に下記項目を追加 ・SIP 優先制御(QoS)有無/値	
		2.8.3	詳細設定の設定項目(メディア)に下記項目を追加 ・コーデック:Opus ・ビットレート(Opus) ・音声優先制御(QoS)有無/値 ・マイクミュート動作	
		4.1.2	プッシュ通知有効時にアプリケーションをOFFにした際の挙動について記載	
		4.3	Bluetooth 機器接続時の動作について追記	
		4.8.1	留意事項に会議と Bluetooth の注意事項を追記	
		4.20	会議についての章を追加	
		5	会議/Bluetooth についてトラブルシュートを更新	
		付録 A	各利用時の詳細設定-SIP に下記項目を追加 ・SIP 優先制御(QoS)有無/値	
		付録 A	各利用時の詳細設定-メディアに下記項目を追加 ・コーデック:Opus ・ビットレート(Opus) ・音声優先制御(QoS)有無/値 ・マイクミュート動作	
		付録 B	使用 OSS ライセンスについて記載	
2020/08/01	2.4	2.3	初期設定後の最初の通話時のマイクへのアクセス権限設定時の注意事項を追記	
2020/11/01	2.4.1	はじめに	クラウド型 PBX への読み替えの注意事項を追記	
2020/12/01	2.5	2.3	手順 13 ローカルネットワークアクセス確認を追加 (iOS14 以降)	
		2.5	表 2-2 にモバイルデータ通信利用時とし、表 2-3 に Wi-Fi⇄モバイルデータ通信切り替え利用時の設定項目を追記	
		2.6	手順 6 に手動で再接続(着信画面が数秒表示される)する手順を追記	
		2.8	表 2-7 No.2 選択肢に“VPNのみ【将来拡張機能用】”追記	
		3.6.1 4.3.4	iOS14 の場合の着信画面の説明を追加	
		5	トラブルシュート No.14、No.133、No.134 を追加	
		付録 A	Wi-Fi 利用時、モバイルデータ通信と切り替えて利用する場合、プロキシに内線アダプタの IP,ポートを設定するよう注記を追加 ヘッダ情報書き換えの設定値について注記追加 モバイルデータ通信利用時、トランスポートの推奨値を TCP 接続→UDP 接続に変更	
		付録 A	誤記訂正	
2021/05/01	2.6	付録 A	誤記訂正	
		6	表 6-4 No.10 のコーデック指定数誤りを修正	
		5	表 5-17 No.135 の対象方法に補足を追記	
2021/08/01	2.6.1	6	表 6-4 No.10 のコーデック指定数誤りを修正	
		1.3.2	(5)にテザリング使用中のスマホでの使用の注意を追記	

スマートフォン SIP クライアント SC210 取扱説明書 変更履歴(2/3)

日付	版数	章項節	内容	備考
2021/10/1	2.7	4.20	MX-01 対応を追記	
		はじめに	(注意 2)に、Web 電話帳は NTT テクノクロス社製「ProgOffice Enterprise」との連携を記載	
		4.19	4.19.1 に「PhoneAppli」を記載し、 4.19.2 に「ProgOffice」を記載	
		2.8.3	表 2-12 は ProgOffice 項目に変更	
		6	表 6-2 の Web 電話帳関連を ProgOffice に変更	
		付録 A	Web 電話帳項目を ProgOffice に変更	
		6	Web 電話帳のメッセージを追加	
2021/12/03	2.7.1	2.3	留意事項に SC210 の自動バックアップの不可設定を追記	
2022/04/18	2.8	4.19.2	留意事項 電話番号に使用できる文字を明確化	
		5	表 5-17 No.136 に電話番号に使用できる文字を明確化	
2022/06/01	2.9	4.2.3	留意事項の発信電話番号を構成する数字・文字の扱いは 1.3.2 の(7)参照を追加	
		4.19.2	留意事項の Web 電話帳からの発信電話番号を構成する数字・文字の扱いは 1.3.2 の(7)参照を追加	
		1.3.2	(7)の発信電話番号を構成する数字・文字の扱いを追加	
2022/11/11	2.10	全体	integral 記載箇所に「integral X」を追加	
2023/01/30	2.10.1	付録 A	パラメータシートの記載見直し	
		全体	設定項目「プロキシ」の説明を見直し	
		全体	ビジネスホン使用時の SC210 設定 「DTMF の種類」は、設定変更が必要であることを強調して記載	
2023/03/01	2.11	はじめに	関連マニュアル、本書記載の留意事項の記載を見直し	
		1.2	表 1-1 の備考欄を見直し	
		—	旧 1.3 章「OS の設定」は内容を見直して 2.1 章に移動	
		1.3	留意事項と制限事項に整理して記載見直し	
		2.1	内容を整理して、記載見直し	
2023/08/01	2.12	4.14.3	着信サイレントモード設定を追加	
		全体	着信サイレントモード設定の追加により、設定画面画像を差替え	
2023/09/20	2.12.1	付録 A	表 A-2 の No.32,33 の補足説明の誤記修正	
2023/10/10	2.12.2	4.13.2	バイブレーション設定方法が特定の iOS バージョンでの設定メニューで記載のため、汎用的な記載に見直し	
2024/01/12	2.12.3	全体	「CX-01/MX-01」を「IP-PBX」に略す 「integral」を「ビジネスホン」に略す	
		4.19.1	PhoneAppli 連携は販売終了を記載	

スマートフォン SIP クライアント SC210 取扱説明書 変更履歴(3/3)

日付	版数	章項節	内容	備考
2024/03/01	2.13	1.3.2	(5)のテザリング注意事項を変更	
		2.8.3	表 2-7 No. 5「ネットワーク状態不安定時警告表示」を追加	
			表 2-8 No. 2の初期値をONからOFFに変更	
			表 2-10 No. 1の初期値をOFFからONに変更 No. 2「帯電話着信音利用」を追加 No. 15の初期値をOFFからONに変更	
		4.16.1	メモによく使う連絡先の登録数変更方法を追加	
付録 A	表 A-1と表 A-2の記載内容を見直し No. 16「ネットワーク状態不安定時警告表示」を追加 No. 18の初期値をONからOFFに変更 No. 32の初期値をOFFからONに変更 No. 33「携帯電話着信音利用」を追加 No. 46の初期値をOFFからONに変更			
2024/04/01	2.13.1	2.8.3	表 2-9 No.4~7の説明を見直し	
2024/07/01	2.13.2	—	「3G/4G/LTE」記載を「4G/5G」に統一	
2024/08/30	2.14	2.8.3	表 2-7にNo. 3とNo. 7を追加	
		付録 A	表 A-1と表 A-2にNo. 14「SIM回線使用継続機能」、 No. 18「発信前レジスト機能」を追加	
		—	CX-01記載箇所に「CX-01 V3」を追加	
2024/11/01	2.14.1	2.1	No. 19に留意事項を追加	
		2.3	手順 No. 3に留意事項を追加 手順 No. 4にメモを追加	

# 重要なお知らせ



- 本書、本製品の一部または全部を、無断で複製・複写・転載・改変することは、法律で禁じられています。
- 本書および本製品の内容については、改良・仕様変更のため予告なく変更することがあります。
- 当社は、本製品を運用した結果によるお客さまの損害・利益逸失・第三者の請求につきまして、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。
- 本製品は日本国内での使用を前提としております。日本国外で使用する場合、外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規則をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。

## <他社所有商標または登録商標に関する表示>

- Apple、iPhone 等の名称およびそのロゴは、Apple Inc.の商標です。iPhone の商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- Bluetooth® は米国 Bluetooth SIG,Inc.の登録商標です。
- その他本書に記載されている会社名・商品名・製品名等は、各社の商標、もしくは登録商標です。

## <本文中の表記について>

- 本書において、特記すべき事項の表記方法を以下に示します。

No.	本書の表記	記容	備考
1	太文字または、赤文字	運用または、設定上、厳守しなければならない事項	
2		運用または、設定上、留意すべき事項	
3		運用または、設定上のトピックス	

# はじめに

本書は、当社製 IP テレフォニーシステムにおいて、iPhone を内線化する VoIP アプリ「SC210」の使用方法について説明するものです。

スマートフォンの操作については、ご使用端末付属のマニュアル等をお読みください。

## ■関連マニュアル

No.	マニュアル名称	対象	備考
1	SC210 取扱説明書	SC210 利用者	本書
2	ご利用のスマートフォンのマニュアル	SC210 利用者	
3	SC210 管理者マニュアル	SC210 導入ユーザー内のシステム管理者	
4	SC210 SE マニュアル	IP テレフォニー構築業者	
5	スマートフォン内線アダプタⅡ SE マニュアル	IP テレフォニー構築業者	
6	スマートフォン内線アダプタⅡ 運用マニュアル	IP テレフォニー構築業者	
7	スマートフォン内線アダプタ コマンドレファレンス	IP テレフォニー構築業者	

## ■本書の記載の留意事項

- (1) 当社製 IP-PBX「CX-01」「CX-01V2」「CX-01V3」「MX-01」「クラウド型 PBX」は、「IP-PBX」と略します。
- (2) 当社製ビジネスホン「integral-F」「S-integral」「integral X」は、「ビジネスホン」と略します。
- (3) 本書の版数により、Web 電話帳連携に関する記載が異なります。

No.	本書の版数	記載されている Web 電話帳
1	第 2.6 版以前	PhoneAppli 社製「PhoneAppli」
2	第 2.7 版以降	NTT テクノクロス社製「ProgOffice Enterprise」

- (4) SC210 をクラウド型 PBX で利用する場合のシステム構成/ネットワーク構築は、クラウド型 PBX のマニュアルを参照してください。クラウド型 PBX(Ver.01-00)は、会議通話機能は非対応です。

# 目次

---

---

<b>1</b>	<b>製品概要</b> .....	<b>10</b>
1.1	SC210 とは.....	10
1.2	主な機能.....	10
1.3	留意事項と制限事項 .....	11
1.3.1	留意事項.....	11
1.3.2	制限事項.....	12
<b>2</b>	<b>設定</b> .....	<b>14</b>
2.1	スマートフォンの設定.....	14
2.2	SC210 インストール.....	16
2.3	初期設定 .....	19
2.4	ビジネスホンで使用する場合の設定追加手順.....	25
2.5	スマートフォン内線アダプタ設定手順.....	28
2.6	プッシュ通知による着信設定手順 .....	30
2.7	アプリケーション設定後の確認.....	34
2.8	設定項目一覧 .....	35
2.8.1	設定画面.....	35
2.8.2	簡単設定画面 .....	35
2.8.3	詳細設定画面 .....	36
2.9	アドレス帳を読み込む .....	43
2.10	通知センターの設定.....	44
2.11	アップデート .....	45
2.12	アンインストール.....	47
<b>3</b>	<b>基本画面</b> .....	<b>48</b>
3.1	ダイヤル画面 .....	48
3.2	よく使う連絡先画面 .....	51
3.3	履歴画面 .....	52
3.4	設定画面 .....	53
3.5	メニュー画面 .....	54
3.6	iOS 標準電話アプリ画面 .....	55
3.6.1	内線着信画面.....	55
3.6.2	内線通話中画面.....	56
3.6.3	内線通話中の携帯着信画面.....	57
3.6.4	内線転送通話中の携帯着信画面.....	57

# 目次

3.6.5	携帯通話中の内線着信画面.....	58
3.6.6	携帯通話中かつ内線保留中画面.....	59
3.6.7	履歴画面.....	60
<b>4</b>	<b>基本操作.....</b>	<b>61</b>
<b>4.1</b>	<b>アプリケーションの起動と終了.....</b>	<b>61</b>
4.1.1	アプリケーションの起動.....	61
4.1.2	アプリケーションの終了.....	63
<b>4.2</b>	<b>電話をかける.....</b>	<b>64</b>
4.2.1	ダイヤルパッドから電話をかける.....	64
4.2.2	リダイヤルで電話をかける.....	65
4.2.3	アドレス帳(連絡先)から電話をかける.....	66
4.2.4	よく使う連絡先から電話をかける.....	68
4.2.5	履歴から電話をかける.....	69
4.2.6	iOS 標準電話アプリから電話をかける.....	71
<b>4.3</b>	<b>電話にでる.....</b>	<b>74</b>
4.3.1	SC210 画面で電話にでる.....	75
4.3.2	ホーム画面などで電話にでる.....	76
4.3.3	自動ロック状態で着信する.....	79
4.3.4	iOS 標準電話アプリ画面で電話にでる.....	80
<b>4.4</b>	<b>スピーカーフォンで通話する.....</b>	<b>84</b>
4.4.1	スピーカーモードに切り替える.....	84
4.4.2	スピーカーモードを解除する.....	84
4.4.3	コントロールセンターでの切り替え手順.....	84
<b>4.5</b>	<b>保留する.....</b>	<b>85</b>
4.5.1	SC210 画面で保留する.....	85
4.5.2	iOS 標準電話アプリ画面で保留する.....	87
<b>4.6</b>	<b>転送する.....</b>	<b>89</b>
4.6.1	IP-PBX の場合.....	89
4.6.2	ビジネスホンの場合.....	92
<b>4.7</b>	<b>転送中の操作.....</b>	<b>94</b>
4.7.1	転送中に電話を切る.....	94
4.7.2	転送中に通話相手を切り替える.....	98
<b>4.8</b>	<b>内線通話中に携帯発信/着信する.....</b>	<b>100</b>
4.8.1	携帯発信時の動作を設定する.....	100
4.8.2	iOS 標準電話アプリ画面で動作を設定する.....	102
<b>4.9</b>	<b>携帯通話中に内線着信する.....</b>	<b>107</b>
4.9.1	iOS 標準電話アプリ画面で動作を設定する.....	107
<b>4.10</b>	<b>電話を切る.....</b>	<b>109</b>
4.10.1	SC210 画面で電話を切る.....	109
4.10.2	iOS 標準電話アプリ画面で電話を切る.....	109
<b>4.11</b>	<b>通知センターの不在着信を確認する.....</b>	<b>110</b>



# 目次

4.12	発着信履歴を確認する	111
4.12.1	SC210 画面の発着信履歴	111
4.12.2	iOS 標準電話アプリ画面の発着信履歴	120
4.13	音量を調整する	121
4.13.1	音量の調整について	121
4.13.2	着信音量を調整する	122
4.13.3	スピーカー音量を調整する	122
4.13.4	受話音量を調整する	122
4.13.5	マイク音量を調整する	122
4.13.6	その他音量調整	123
4.14	着信音の設定をする	124
4.14.1	SC210 の着信音について	124
4.14.2	SC210 の着信音を設定する	126
4.14.3	SC210 の着信音を鳴らさなくする	128
4.15	SC210 の再表示と非表示	129
4.15.1	SC210 を再表示する	129
4.15.2	SC210 を非表示にする	129
4.16	よく使う連絡先を使用する	130
4.16.1	よく使う連絡先を登録する	130
4.16.2	よく使う連絡先を編集する	132
4.17	IP-PBX/ビジネスホンへ再接続する	135
4.18	プロフィールを利用する	136
4.18.1	プロフィールを作成する	136
4.18.2	プロフィールの切り替えをする	138
4.18.3	プロフィール名を変更する	140
4.19	Web 電話帳と連携をする	141
4.19.1	PhoneAppli 社製「PhoneAppli」との Web 電話帳連携	141
4.19.2	NTT テクノクロス社製「ProgOffice Enterprise」との Web 電話帳連携	141
4.20	会議に参加する	144
4.20.1	会議の開始／参加	144
4.20.2	会議の終了	148
4.20.3	会議通話中の内線着信通知	149
4.20.4	マイクミュート機能	151
5	トラブルシューティング	152
6	表示メッセージ	169
付録 A	パラメータシート	179
①	Wi-Fi 接続利用時の詳細設定	179
②	モバイルデータ通信接続利用時の詳細設定	182

# 目次

---

---

付録 B OSS ライセンスについて .....	185
■ BSD 3-Clause "New" or "Revised" License .....	185
■ BSD 2-Clause "Simplified" or "FreeBSD" License without disclaimer .....	187
■ GNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.....	187
■ GNU Lesser General Public License Version 2.1 .....	195
■ GNU Library General Public License Version .....	206
■ The License by "Jutta Degener and Carsten Bormann, Technische Universitaet Berlin" .....	216
■ The MIT License .....	218
■ License: permissive-long-disclaimer .....	218
■ The License by "Massachusetts Institute of Technology" .....	219
■ Cisco Systems, License.....	220
■ Info-ZIP license (version 2009-Jan-02).....	221
■ zlib/libpng license .....	222

# 第 1 章 製品概要

## 1 製品概要

### 1.1 SC210 とは

SC210 は、当社製 IP テレフォニーシステム(IP-PBX、ビジネスホン)において、iPhone を内線化する VoIP アプリです。

SC210 は、社内の Wi-Fi 環境、または通信事業者が提供するモバイルデータ通信(4G/5G)環境において、会社の内線電話としてご利用いただけます。

モバイルデータ通信環境で使用する場合は、スマートフォン内線アダプタが必要となります。

### 1.2 主な機能

本製品の主な機能を下記に示します。

表 1-1 SC210 の主な機能一覧

No.	機能分類	機能	備考
1	音声通話	発信	
2		着信	
3		バックグラウンド着信	プッシュ通知着信未使用時は、SC210 を常時起動中であること(SC210 画面がバックグラウンドにある状態)
4		プッシュ通知着信	スマートフォン内線アダプタが必要 SC210 を停止していても可能(SC210 画面がバックグラウンドにない状態)
5		不在着信通知	
6		通話	
7		保留	
8		転送	簡易転送、完全転送
9		DTMF 送信	IP-PBX 利用時: Inband 方式 ビジネスホン利用時: RCF2833 方式
10		リダイヤル	
11		受話音量/マイク音量調節	
12		スピーカーモード	
13	管理	アドレス帳	
14		よく使う連絡先	
15		発着信履歴	
16	カスタマイズ	通話相手の電話番号表示	
17	ネットワーク	Wi-Fi アクセスポイント接続制限	
18		STUN 機能	
19		優先制御(QoS)	
20		音声コーデック選択	Wi-Fi 接続利用: PCMU モバイルデータ通信利用: PCMU、Speex、Opus
21		自動プロファイル切り替え	

# 第 1 章 製品概要

## 1.3 留意事項と制限事項

本アプリケーションの留意項と制限事項をご理解の上、ご使用ください。

### 1.3.1 留意事項

- (1) 利用するネットワークの電波状況や輻輳状況により、音声の遅延、途切れ等発生する場合があります。
- (2) プッシュ通知着信機能を使用しない場合は、SC210 をバググランドで常時起動しておく必要があるため、スマートフォンのバッテリー消費が早くなります。また、スマートフォンを再起動後は、必ず SC210 を再起動させてください。
- (3) モバイルデータ通信(4G/5G)環境で使用時、通話中にデータ通信方式の切替え(4G⇄5G 等)に遭遇した場合は通話が切断される場合があります。  
切断された場合は、かけ直してください。発信/着信が不可となった場合は、SC210 を再起動してください。
- (4) スマートフォンを耳に当てて通話する場合、誤操作を防止するためにスマートフォンの近接センサーが動作して画面を消灯させますので、  
スマートフォンの近接センサーはシール等で塞がないでください。
- (5) 通話中に近接センサー動作以外にスマートフォンの画面が消灯になる場合があります。消灯となった場合は下記の操作を実施してください。
  - ・セキュリティロック設定しているスマートフォンの場合 : 電源ボタンを押下してロックを解除
  - ・セキュリティロック設定していないスマートフォンの場合 : 電源ボタンを押下
- (6) Bluetooth 機器(ヘッドセット/ハンドセット)を利用する場合は、必ずお客さま環境にて動作確認の上、利用してください。
  - ・スマートフォンと Bluetooth 機器の接続/設定方法については、それぞれの取扱説明書を参照してください。
  - ・Bluetooth 機器の性能により、通話音質の劣化、遅延および、音量が変化する場合があります。
  - ・スマートフォン 1 台につき、Bluetooth 機器 1 台にてご利用ください。
  - ・Bluetooth 機器のボタン操作は、事前確認の上、利用してください。
- (7) 通話中に異音や残響音など異常と思われる現象が発生した場合は、SC210 の利用を一旦終了し、端末の再起動を実施してください。
- (8) プッシュ通知利用の場合、以下ケースでは SC210 設定画面の再接続ボタンをタップして、プッシュ通知が受信することを確認してください。

#### ■ ケース:

- ・SC210 設定を設定/変更した後または、SC210 をバージョンアップした場合
- ・スマートフォン内線アダプタがバージョンアップされた場合
- ・長期休暇等で 1 週間以上、SC210 画面を表示していなかった場合

#### ■ 再接続ボタンタップによるプッシュ通知受信確認:



タップ後、数秒後



※左記画面は約 2 秒間表示

# 第 1 章 製品概要

## 1.3.2 制限事項

- (1) 他アプリが起動している場合、SC210 の動作は保証できません。また、SC210 の発着信中/通話中に他アプリの操作および、スマートフォンのボタン操作をした場合も動作が保証できません、特に、他の VoIP アプリおよび、マイク/スピーカーを使用するアプリ(音楽/動作再生アプリ等)との同時使用はできません。
- (2) SC210 は、転送時の PB 送出に対応していません。
- (3) 社内の Wi-Fi 環境で使用する場合、スマートフォンの特性により、SC210 で使用する無線アクセスポイント以外に接続されてしまい、SC210 の利用不可となる場合があります。  
Wi-Fi 再接続した場合でも SC210 で使用する無線アクセスポイントに必ず接続するように、スマートフォン設定を見直してください。
- (4) 公衆 Wi-Fi および、会社内/個人宅の Wi-Fi アクセスポイントなどから接続し、インターネット経由でのご利用は、サポートしていません。また、VPN 環境での利用もサポートしていません。
- (5) テザリング使用中のスマートフォンで SC210 を使用した場合、ザリング通信を行っている PC などのデータ通信量により音声パケットが圧迫され、通話品質の低下(音切れ、切断)が発生する場合があります。SC210 はテザリング通信状態を把握することができないため、**テザリング利用中スマートフォンでの使用は推奨しません。**
- (6) SC210 設定の「基本通話と統合」が”OFF”で使用する場合、SC210 通話中に携帯電話着信があると通話先相手は即時に保留となります。携帯電話応答終了後は、SC210 にて保留解除操作が必要となります。
- (7) 発信電話番号を構成する数字・文字に対する SC210 の扱いを以下に示します。  
(SC210 Ver.1.22 から”+”の扱いが変更)

表 1-2 発信電話番号を構成する数字・文字の扱い

#	電話番号を構成する数字・文字	発信方法 (○:入力可能、×:入力不可)			SC210 発信時の扱い (○:扱い可能文字、 ×:扱い不可文字)	
		SC210 ダイヤル 画面発信	SC210 電話帳 発信(*1)	他アプリから の発信 (例:Web 電話 帳)(*2)	Ver.1.21 以前	Ver.1.22 以降
1	半角 0~1、*、#	○	○	○	○	○
2	半角 ”、”、”;	×	○	○	×	×
3	半角 ”+”	×	○	○	○ 削除して発信	○ 表 1-3 参照
4	半角 ”-“、” (“、”)	×	×	○	○(*3) 削除して発信	○ 削除して発信
5	半角スペース	×	×	○	○	○

# 第 1 章 製品概要

					削除して発信	削除して発信
6	上記以外の文字	×	×	×	×	×

(\*1)SC210 の電話帳は iPhone の標準電話帳を参照しているため、iPhone 標準電話帳に登録可能な数字・文字を示す。なお、スマートフォン機種によっては登録可否に差異があります。

(\*2)他アプリでの入力可否および、注意事項は、他アプリのマニュアルを参照。

(\*3)SC210 Ver.1.20 以前は、扱い不正文字。

表 1-3 SC210 Ver.1.22 からの“+”付き電話番号の扱い

#	“+”付き電話番号 パターン	SC210 の扱い	例	
			電話帳登録電話番号	SC210 発信電話番号
1	”+81”で始まる電話番号	”+81”を”0”に変換	+81312345678	0312345678
2	”+81(0)”で始まる電話番号	”+81(0)”を”0”に変換	+81(0)9012345678	09012345678
3	先頭”+”の次が”81”以外の 電話番号	“+”を“010”に変換	+112345678 (+の次が国番号 1)	010112345678
4	先頭以外に”+”がある電話番号	“+”を削除	03+1234+5678	0312345678

※海外発信は、IP-PBX/ビジネスホン側にて「マイライン」「マイラインプラス」の契約を推奨します。

# 第 2 章 設定

## 2 設定


### 2.1 スマートフォンの設定

本アプリケーションを使用する前に、以下のスマートフォンの設定を確認してください。

スマートフォンの設定項目は、スマートフォン端末や OS バージョンにより項目名や設定名が異なりますので、スマートフォンの取扱説明書も合わせて参照してください。

表 2-1 スマートフォン設定

※iOS16 の設定項目で記載

No.	設定メニュー	項目名	設定値	備考
1	機内モード	—	OFF	
2	Wi-Fi	—	ON	※画面上部のステータスバーに Wi-Fi マーク  が表示されていること
3	【Wi-Fi 接続利用の場合】	SSID	指定のアクセスポイント	
4		自動接続	ON	※IP アドレスを手動設定で Wi-Fi マークが未表示の場合は、「アドレス」「サブネットマスク」「ルーター」「DNS」に設定誤りがないか確認
5	Wi-Fi 【モバイルデータ通信利用の場合】	—	OFF (*1)	(*1)ON の場合は、どのアクセスポイントに接続されていないこと
6	モバイル通信	モバイルデータ通信	ON	Wi-Fi 接続利用は OFF でも可
7		Wi-Fi アシスト	OFF	モバイルデータ通信利用は ON
8	インターネット共有	—	OFF	SC210 はテザリング使用中の端末での使用は非推奨
9	通知	SC210	4.11 章を参照	
10	サウンドと触覚	着信モードで触覚を再生	ON	
11		消音モードで触覚を再生	ON	
12	集中モード	各設定	OFF	
13	スクリーンタイム	各設定	OFF	
14	一般	ソフトウェア・アップデート ⇒自動アップデート	OFF	
		自動アップデート ⇒セキュリティ対応とシステムファイル	OFF	
		VPN とデバイス管理	VPN: 未接続	
15	画面表示と明るさ	外観モード	ライト	「ダーク」にすると SC210 設定の一部項目が見えにくくなります
		明るさ	本アプリ画面が見やすい明るさに調整	
17	アクセシビリティ	各設定	OFF	SC210 は VoiceOver を含むアクセシビリティには非対応
18	バッテリー	省電力モード	OFF	

## 第 2 章 設定

19	電話	着信	フルスクリーン	<p><b>留意事項</b></p> <p>「フルスクリーン」以外の場合 は、着信通知バナー表示と本 アプリ画面表示が干渉するた め、操作性が低下します (特定の iPhone 機種は iOS バージョンによっては、転送発 信操作画面がバックグラウンドで 表示されてしまう)</p>
20	SC210	連絡先	ON	
		ローカルネットワーク	ON	
		マイク	ON	
		通知	通知を許可:ON	<p><b>留意事項</b></p> <p><b>OFF の場合はプッシュ通知着 信が不可となる</b></p>
		App のバックグラウンド 更新	OFF	
		モバイルデータ通信	「オン」	



## 第2章 設定

### 2.2 SC210 インストール

SC210 を「App Store」よりダウンロードし、スマートフォンにインストールします。アプリケーションのダウンロード前に下記の要件を確認・準備してください。

- ✓ アプリケーションをインストールするスマートフォンで安定したインターネット接続が可能なこと
- ✓ ご使用の端末に Apple ID を登録していること  
(詳細については、Apple 社のホームページにてご確認ください)

SC210 のバージョンアップ手順については「2.11 アップデート」に記載します。

※SC210 をインストール後、SC210 を含むアプリケーションにアップデートがあると「App Store」アイコンにアイコンバッジが表示されます。

1.		スマートフォン上の「App Store」アイコンをタップします。
2.		「検索」をタップします。
3.		検索画面に「SC210」、「Hitachi」などを入力し、検索をタップします。

## 第2章 設定

4.





検索結果に表示された「スマートフォン SIP クライアント SC210」をタップします。

5.




SC210 の紹介画面を下方方向にスクロールし、「使用許諾契約」をタップします。表示した「アプリケーション使用許諾に関する利用規約」の記載内容をお読みください。

同意する場合、**入手** をタップすると、**インストール** に変化します。再度タップすると、インストールが開始します。

※  が表示の場合、インストール経験がある端末に表示されます。 タップ後、インストールが開始します。

6.



 の表記が「インストール中」を表します。アイコンが **開く** に変化すれば、インストール終了です。

Apple ID のパスワードを入力画面が表示された場合は、「ユーザ ID/パスワード」を入力してください。インストールが再開されます。

## 第 2 章 設定

---

### 留意事項

- SC200 より移行して利用する場合は、SC200 の設定項目を参照して入力してください。
- SC200 との併用利用はできません。SC210 の設定完了後、SC200 はアンインストールしてください。アンインストールについては、「2.12 アンインストール」の手順を参考にしてください。

# 第2章 設定

## 2.3 初期設定

1.



ホーム画面から「SC210」をタップし、アプリケーションを起動します。

2.



連絡先と履歴との連携を行うため、「OK」を選択します。

初回起動のみメニューが表示します。

「許可しない」を選択すると、

- ・よく使う連絡先の登録
- ・履歴からの連絡先の登録
- ・発着信番号から名前の表示
- ・よく使う連絡先、履歴の名前表示

ができなくなります。

「許可しない」を選択した場合は、OS「設定」「SC210」にて変更してください。

3.



通知センターと連携し、不在着信など表示を行うため、「OK」を選択します。

初回起動のみメニューが表示します。

「許可しない」を選択すると、不在着信などで表示を行いません。

「許可しない」を選択した場合は、OS「設定」「SC210」にて変更してください。

### 留意事項

iOS 18 以降は、「どのように連絡先を共有しますか？」を求められるため、「フルアクセスを許可」を選択してください。

4.



初回起動のみ確認を表示します。

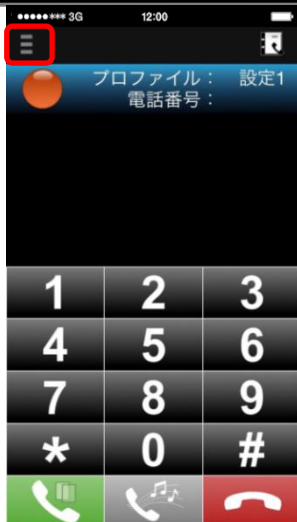
記載内容をご覧のうえ、「OK」をタップしてください。


### メモ

iOS バージョンによっては、左記メッセージが表示されません。

## 第2章 設定

5.



画面左上の  アイコンを押下します。

6.



「設定」をタップして、設定画面を表示します。

7.



プロフィール名「設定1」に初期設定します。  
プロフィール名「設定1」が表示されたことを確認し、「詳細設定」をタップします。

## 第 2 章 設定

8.



「アカウント」をタップします。

9.



設定画面が表示されます。使用する IP-PBX の環境に従い、設定します。

- ユーザ ID
- 認証 ID
- パスワード
- ドメイン

設定値については、システム管理者に問い合わせのうえ、半角英数で入力してください。

入力後、「詳細設定」をタップします。

10.



「一般」をタップします。

## 第2章 設定

11.



- ① 「BG 着信を許可する」がオンに設定されていることを確認します。
- ② au 端末(VoLTE 対応機種を除く)を使用の場合は「携帯発着信時の動作」をタップし、「SC210 を切断」を選択します。設定終了後、「一般」をタップします。
- ③ 設定終了後、「詳細設定」をタップします。

12.



設定が完了しましたら「完了」をタップします。

13.



### 【iOS14 以降】

IP-PBX への接続など、SC210 でのネットワーク通信を許可するため、「OK」を選択します。

初回起動のみメニューが表示される場合があります。

「許可しない」を選択すると、SC210 でのネットワーク通信が不可となります。


「許可しない」を選択した場合は、OS「設定」「SC210」にて変更してください。

## 第2章 設定

14.



設定などが問題なければ、自動で IP-PBX に接続します。  
画面上部のアイコンが緑になったら内線発信/着信が可能な状態です。

設定に問題があった場合、画面左上の  アイコンを押下して表示される画面切り替えメニューに問題点が指摘されることがあります。その際は、表示を参考にして設定を見直してください。

※スマートフォン内線アダプタ接続を利用される場合は、「2.5 スマートフォン内線アダプタ設定手順」の設定を必ず行ってください。

15.



初期設定後の最初の通話時のみメニューを表示します。  
マイクへのアクセスは必須であり、「OK」を選択します。

「許可しない」を選択すると、マイク機能が使えなくなります。  
「許可しない」を選択した場合は、OS「設定」「プライバシー」にて変更してください。

(注意)

SC210 の設定にて、「基本通話と統合」設定または、「プッシュ通知」設定を ON にし、画面ロックした状態で着信した場合は、左記メニューが表示されません。画面ロックを解除した状態で通話確認を実施し、マイクへのアクセスを「OK」にしてください。



## 第 2 章 設定

---

### 留意事項

- OS のアプリケーション設定(OS「設定」-「SC210」)にて「App のバックグラウンド更新」は OFF に変更してください。  
ON になっている場合、AppStore に SC210 の新バージョンが公開されると自動的にバージョンアップしてしまいます、SC210 のバージョンアップは運用管理者の指示のもと、手動で実施してください。
  
- OS のアプリケーション設定(OS「設定」-「SC210」)にて連絡先の ON ⇔ OFF を変更すると SC210 が OS により、強制再起動されます。このため、通話中などに変更を行わないでください。  
上記連絡先の設定が OFF になっている場合、
  - ・よく使う連絡先の登録
  - ・履歴からの連絡先の登録
  - ・発着信番号から名前の表示
  - ・よく使う連絡先、履歴の名前表示は利用できません。SC210 を利用する場合は必ず本設定を ON にしてください。
  
- SC210 のアップデート実行後、再度#2~#4 の初回起動時画面が表示される場合があります。  
表示された場合、各画面にて再度 OK ボタンをタップしてください。

## 第2章 設定

### 2.4 ビジネスホンで使用する場合の設定追加手順

ビジネスホンで使用する場合の追加設定について説明します。

1.



設定画面の「詳細設定」をタップします。

2.



「メディア」をタップします。

3.



「DTMFの種類」をタップし、「RFC2833」選択してください。  
設定終了しましたら、「メディア」「詳細設定」タップします。

## 第2章 設定

4.



詳細設定の「一般」をタップします。

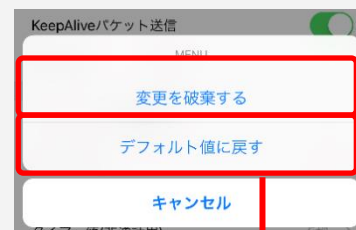
5.



- ① 「携帯発着信時の動作」をタップし、「SC210 を切断」を選択します。設定終了後、「一般」をタップします。
- ② 設定終了後、「詳細設定」をタップします。
- ③ もし、設定を破棄するか、またはデフォルト値に戻したい場合は、右上の「メニューボタン」を押下し、「変更を破棄する」、「または「デフォルト値に戻す」をタップします。「デフォルト値に戻す」場合は確認画面が表示されますので「OK」をタップします。

※携帯発着信時内線が切断されます。

「変更を破棄」あるいは  
「デフォルト値に戻す」の場合



6.



設定が終わりましたら「完了」をタップします。

## 第2章 設定


7.



### 「接続状況を確認する」

設定などが問題なければ、自動で IP-PBX に接続します。画面上部のアイコンが緑の表示になっていれば、内線発信/着信が可能な状態です。

もし、アイコンが他の色の場合は入力値を再確認してください。「5 トラブルシュート」なども参考にしてください。

問題点があった場合、画面左上の  を押下して表示される画面切り替えメニューに問題点が指摘される場合もありますので、そちらも参考にしてください。

## 第 2 章 設定

### 2.5 スマートフォン内線アダプタ設定手順

**【オプション】** スマートフォン内線アダプタ接続は、オプションです。利用可否および設定値は、システム管理者へご確認ください。

スマートフォン内線アダプタ接続を利用するときの設定手順について説明します。本手順は「2.3 初期設定」を実施した後に行います。設定画面から「詳細設定」をタップして、各カテゴリーから設定項目を設定します。設定画面の開き方は、「3.4 設定画面」を参照してください。



#### ■モバイルデータ通信のみを利用する場合

各カテゴリーから設定項目を「表 2-2 スマートフォン内線アダプタの設定値(モバイルデータ通信利用)」の通り設定します。

表 2-2 スマートフォン内線アダプタの設定値(モバイルデータ通信利用)

No.	カテゴリー	設定項目	設定値
1	アカウント	プロキシ	スマートフォン内線アダプタの IP アドレスおよび通信ポート (例) 126.225.XX.XX:15060
2	ネットワーク	使用するネットワーク	『モバイルデータ通信のみ』を選択
3		STUN 有効	ON
4		STUN サーバ	STUN サーバアドレス(例: 126.225.XX.XX)
5	一般	KeepAlive パケット送信	ON
6		送信間隔	下記推奨値を設定ください。 UDP 接続時: 15(秒) TCP 接続時: 15(秒)(固定)

## 第 2 章 設定

### ■ 社内 Wi-Fi⇄モバイルデータ通信を切り替えて利用する場合

各カテゴリから設定項目を「表 2-3 スマートフォン内線アダプタの設定値(社内 Wi-Fi⇄モバイルデータ通信切り替え利用)」の通り設定します。

社内 Wi-Fi 用、モバイルデータ通信用のプロファイルそれぞれに設定が必要です。

表 2-3 スマートフォン内線アダプタの設定値(社内 Wi-Fi⇄モバイルデータ通信切り替え利用)

No.	カテゴリ	設定項目	プロファイル	
			(社内 Wi-Fi 用) 設定 1	(モバイルデータ通信用) 設定 2
1	アカウント	プロキシ	スマートフォン内線アダプタの IP アドレスと通信ポート (例)192.168.XX.XX:15060	スマートフォン内線アダプタの IP アドレスと通信ポート (例) 126.225.XX.XX:15060
2	ネットワーク	使用するネットワーク	『Wi-Fi のみ』を選択	『モバイルデータ通信のみ』を選択
3		STUN 有効	OFF	ON
4		STUN サーバ	—	STUN サーバアドレス (例:126.225.XX.XX)
5	一般	KeepAlive パケット送信	OFF	ON
6		送信間隔	—	下記推奨値を設定ください。 UDP 接続時:15(秒) TCP 接続時:15(秒)(固定)

### 留意事項

- 設定値詳細については、システム管理者へご確認ください。

## 第 2 章 設定

### 2.6 プッシュ通知による着信設定手順

プッシュ通知による着信を利用する場合、スマートフォン内線アダプタ接続が必要となります。  
利用可否および設定値は、システム管理者へご確認ください。

プッシュ通知による着信利用するときの設定手順について説明します。本手順は「2.3 初期設定」「2.5 スマートフォン内線アダプタ設定手順」を実施した後に行います。設定画面の開き方は、「3.4 設定画面」を参照してください。

1.



設定画面を開きます。

「発信不可」が OFF になっていることを確認します。

2.



設定画面の「詳細設定」をタップします。

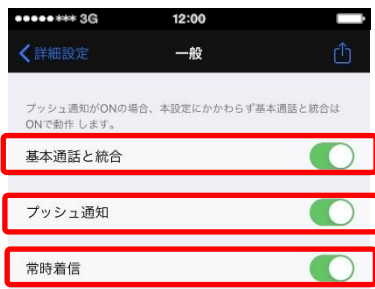
## 第2章 設定

3.



「一般」をタップします。

4.



下記を設定します。

- ・基本通話と統合 : ON
- ・プッシュ通知 : ON
- ・常時着信 : ON

設定終了後、「詳細設定」をタップします。

(注意)SC210 Ver.1.16 より、「プッシュ通知」を ON すると、「基本通話と統合」は ON/OFF 設定に関係なく、ON の動作となります。

5.



設定が終わりましたら「完了」をタップします。

6.



「再接続する」

設定が完了しましたら「再接続」ボタンをタップすると「着信可能な環境です。」メッセージ通知が表示されます。本メッセージ通知表示にて、プッシュ通知利用が可能な状態であることを確認します。(本メッセージ通知は数秒間表示されます。)

本メッセージ通知が表示されない場合は、手順 7-2 を確認してください。

※iOS 14 以降のスマートフォンにて、1.3 章(37)の設定変更を行わないと、左記メッセージ通知は画面上部にバナーで表示されます。必ず設定変更して、フルスクリーン表示で使用してください。



## 第2章 設定

着信可能な環境です。  
SC210オーディオ...



7-1



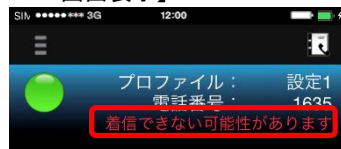
「接続状況を確認する」

設定などが問題なければ、IP-PBX に接続します。

画面上部のアイコンが緑の表示になっており、画面切り替えメニューに警告表示が出ていない場合、プッシュ通知による着信が可能な状態です。

7-2

【SC210 画面表示】



【SC210 画面切り替えメニュー】



下記のエラーメッセージ表示がある場合、プッシュ通知による着信設定が正しく設定できておらず、着信できない可能性があります。

- ・【SC210 画面上部】  
[着信できない可能性があります] 表示
- ・【SC210 画面切り替えメニュー】  
[プッシュモード遷移エラー] 表示

本章に記載した各種設定が正しく設定されていること、2.10 章の通知センター設定の確認、およびネットワーク接続環境を確認し、IP-PBX/ビジネスホンへの再接続を行ってください。

※表示が出た場合、表示が消えるまで、2～3分かかる場合があります。表示が消えるまで数分待ってください。表示が消えない場合、再接続してください。

※上記対応を実施してもプッシュ通知による着信設定ができない場合は、システム管理者へご確認ください。

留意事項

## 第2章 設定

---

- 発信／キャンセル操作を頻発に行うと、プッシュ通知による着信ができなくなる場合がありますので、発信／キャンセル操作を頻繁に実施しないでください。
  
- プッシュ通知による着信設定を中止し、従来通りの着信動作とする場合は、下記手順にて各設定を行ってください。
  - ① [一般画面]の下記設定項目を全て“オフ”に設定します。
    - ・プッシュ通知
    - ・常時着信
  - ② 各画面にエラーメッセージが表示されていないこと、着信が可能であることをご確認ください。
  
- 内線アダプタ(Ver02-04 未満)を使用している状態で、エラーメッセージが表示されている場合にSC210はIP-PBX/ビジネスホンに再接続を行います。

## 第2章 設定

---

### 2.7 アプリケーション設定後の確認

SC210 の設定完了後、下記項目をご確認ください。

(1)通話は可能か、音質に乱れがないか。

音質の乱れ、通話が双方向できないなどの症状がある場合は、「1.3 留意事項と制限事項」を確認してください。

(2)着信音は鳴動するか。

端末によって着信音を変更した場合、指定した着信音が鳴動しない場合があります。その場合は着信音を標準音に戻してご利用ください。

## 第 2 章 設定

### 2.8 設定項目一覧

各設定画面で設定する項目を下記に説明します。

#### 2.8.1 設定画面

設定画面で設定する項目は下記の通りです。設定画面は、画面切り替えメニューの「設定」をタップして開きます。画面イメージについては、「3.4 設定画面」を参照してください。

表 2-4 設定画面の設定項目

No.	カテゴリー	設定項目	説明	初期値
1	プロフィール	プロフィール選択	プロフィールとは、IP-PBX/ビジネスホンの接続に関する設定情報です。SC210 では 2 つのプロフィールを切り替えて使用することができます。	設定 1
2		プロフィール自動切り替え	SC210 で IP-PBX/ビジネスホンへ接続性がない(接続先が障害中や NW 障害など)と判断したときに、プロフィールを自動で切り替えて、電話サービスの継続を実現することができます。	OFF
3	発着信	発着信不可	SC210 での発信／着信を不可とします。	OFF
4	音量調整	マイク音量	設定画面の(マイク音量調整バー)を左右にスライドさせることで、マイク音量(内線通話時の相手へ聞こえる自分の音声)を調整することができます。 マイク音量は「0～100」の範囲で数値表示されます。	50
5	着信音	着信音	着信時に再生する着信音を設定します。	標準音

#### 2.8.2 簡単設定画面

簡単設定画面で設定する項目は下記の通りです。簡単設定画面は、設定画面から「簡単設定」ボタンをタップして開きます。

表 2-5 簡単設定の設定項目

No.	カテゴリー	設定項目	説明	初期値
1	アカウント	ユーザ ID	使用する内線電話番号を指定します。	空白
2		認証 ID	端末登録時に必要な認証 ID を指定します。	空白
3		ドメイン	使用する SIP ドメインを指定します。	空白
4		パスワード	端末登録時に必要な認証パスワードを指定します。	空白
5	SIP	トランスポート	SIP トランスポートプロトコル(UDP/TCP)を指定します。	UDP 接続
6	一般	BG 着信を許可する	着信を受けるために SC210 の画面が非表示時に動作を維持する機能を利用するか否かを設定します。	ON

## 第 2 章 設定

### 2.8.3 詳細設定画面


詳細設定画面で設定する項目は下記の通りです。詳細設定画面は、設定画面から「詳細設定」ボタンをタップして開きます。

表 2-6 詳細設定の設定項目(アカウント)

No.	カテゴリ	設定項目	説明	初期値
1	アカウント	ユーザ ID	使用する内線電話番号を指定します。	空白
2		表示名	発信先相手端末に表示する表示名を指定します。	空白
3		認証 ID	端末登録時に必要な認証 ID を指定します。	空白
4		パスワード	端末登録時に必要な認証パスワードを指定します。	空白
5		ドメイン	使用する SIP ドメインを指定します。	空白
6		プロキシ	使用するスマートフォン内線アダプタの IP アドレスとポート番号を指定します。 入力形式「IP アドレス:ポート番号」	空白
7		レジストラ	使用するレジストラサーバのアドレスとポート番号を指定します。 入力形式「レジストラサーバアドレス:ポート番号」	空白
8		レジスター間隔	レジスターの登録期間を指定します。 設定範囲: 60~3600(秒)	3600
9		タイマー間隔	利用する SIP サービスのセッション間隔を設定します。 設定範囲: 90~1800(秒)	300
10		付加する番号	発信するときに外線番号と判断した発信番号の先頭に設定した番号を自動で付加します。	空白
11		0	発信番号の先頭の番号が、「0」の場合に外線発信と判断するかどうかを指定します。	オフ
12		1	発信番号の先頭の番号が、「1」の場合に外線発信と判断するかどうかを指定します。	オフ
13		2	発信番号の先頭の番号が、「2」の場合に外線発信と判断するかどうかを指定します。	オフ
14		3	発信番号の先頭の番号が、「3」の場合に外線発信と判断するかどうかを指定します。	オフ
15		4	発信番号の先頭の番号が、「4」の場合に外線発信と判断するかどうかを指定します。	オフ
16		5	発信番号の先頭の番号が、「5」の場合に外線発信と判断するかどうかを指定します。	オフ
17		6	発信番号の先頭の番号が、「6」の場合に外線発信と判断するかどうかを指定します。	オフ
18		7	発信番号の先頭の番号が、「7」の場合に外線発信と判断するかどうかを指定します。	オフ
19		8	発信番号の先頭の番号が、「8」の場合に外線発信と判断するかどうかを指定します。	オフ
20		9	発信番号の先頭の番号が、「9」の場合に外線発信と判断するかどうかを指定します。	オフ

## 第 2 章 設定

表 2-7 詳細設定の設定項目(ネットワーク)

No.	カテゴリ	設定項目	説明	初期値
1	ネットワーク	接続許可アクセスポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接続を許可するアクセスポイントの SSID を指定します。</li> <li>・指定したアクセスポイント以外に接続しているときは、IP-PBX/ビジネスホン登録完了になりません。また、このとき、プロファイル自動切り替え機能も動作しません。</li> <li>・[編集]ボタンタップ後、下記手順により SSID の追加、表示順入れ替え、削除が可能となります。(*1)</li> <li>・【追加】[+]ボタンをタップし、表示された画面の入力フィールドへ SSID を入力します。iOS 13 以降は位置情報の利用許可設定が必要となります。(*2)</li> <li>・入力の際、現在接続されている SSID の頭文字と一致する文字が入力された場合、予測入力として、現在接続されている SSID が入力されます。</li> <li>・現在接続されているアクセスポイント以外の SSID を設定する場合は、バックスペースで削除して入力する必要があります。</li> <li>・【表示順入れ替え】SSID 名の左にある  ボタンをタップしたまま上下に移動させ、順番を入れ替えます。</li> <li>・【削除】SSID 名の右にある[-]ボタンをタップします。(*3)</li> <li>・アクセスポイント名は 10 個まで登録可能です。</li> </ul>	空白
2		使用するネットワーク	複数のネットワーク接続がある場合、利用するネットワークを設定します。 <選択肢> <ul style="list-style-type: none"> <li>・WiFi のみ</li> <li>・モバイルデータ通信のみ</li> <li>・VPN のみ【将来拡張機能用:選択不可】</li> <li>・全て【将来拡張機能用:選択不可】</li> </ul>	WiFi のみ
3		SIM 回線使用継続機能	Wi-Fi 圏外で SIM 回線(モバイルデータ通信)を使用していた場合、Wi-Fi 圏内に移動(Wi-Fi に接続したスマートフォン)でも、SIM 回線の利用を継続します。	OFF
4		STUN 有効	STUN の有効/無効を指定します。 STUN は NAT 越えを行うために使用する技術です。 NAT 環境で利用する場合は、通常この STUN を有効にし、STUN サーバアドレスを指定する必要があります。 SC210 が利用できる STUN サーバは当社製「スマートフォン内線アダプタ」です。	OFF
5		STUN サーバ	使用する STUN サーバのアドレスを指定します。	空白
6		ネットワーク状態不安定時警告表示	通話中にネットワーク状態が不安定(パケットロスや遅延が発生)となった場合、終話時にメッセージを表示するかを指定します。	OFF
7		発信前レジスト機能	SC210 起動時に取得したキャリアグローバル IP アドレスが変更されても SC210 発信が不可とならないようにするために、発信前に IP-PBX へレジスト処理を実施します。	OFF

(\*1) SSID の表示順入れ替え、削除を行う場合は、設定ごとに一度[完了]ボタン、「戻る」をタップし、設定値を保存してください。

## 第 2 章 設定

(\*2) iOS 13 以降では、接続許可アクセスポイントの初回登録後、もしくは、バージョンアップ後に位置情報設定のダイアログが表示されますので、次の手順で、位置情報設定を「常に許可」に設定してください(本設定をしない場合は、SC210 が IP-PBX/ビジネスホンに接続できず、SC210 メニュー画面にエラーが表示されます)。

- 「App の使用中は許可」をタップします。(図 A)
- iPhone の設定画面を開き、設定画面の「SC210」アイコン(図 B)を選択してください。
- SC210 画面の「位置情報」(図 C)を選択してください。
- 位置情報画面で「常に」を選択(図 D)してください。

なお、「常に許可」を設定すると、iPhone のバッテリー消費が通常よりも早くなります。



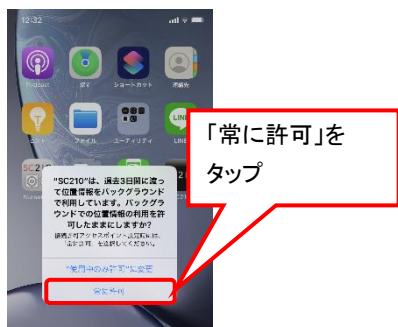
図 A. 位置情報設定のダイアログ

図 B. iPhone の設定画面

図 C. SC210 のアクセス許可画面

図 D. 位置情報の利用許可選択画面

「常に許可」を設定すると、数日毎に位置情報設定の再確認ダイアログが表示されますが、毎回「常に許可」をタップしてください。




(\*3) 接続許可アクセスポイントの登録を削除した場合は、図 C「位置情報」は「次回確認」を設定してください。

表 2-8 詳細設定の設定項目(SIP)

No.	カテゴリ	設定項目	説明	初期値
1	SIP	SIP ポート	使用する SIP ポートを指定します。 トランスポートを TCP 接続選択時は 5060 を指定してください。	5060
2		ヘッダ情報書き換え	NAT 越えのために Contact ヘッダの書き換えを許可します。	OFF
3		トランスポート	SIP トランスポートプロトコル(UDP/TCP)を指定します。	UDP 接続
4		SIP 優先制御 (QoS)有無	SIP 優先制御(QoS)が指定できます。 OFF を指定した場合の優先制御値は 0 となります。	OFF
5		SIP 優先制御 (QoS)値		0

## 第 2 章 設定

表 2-9 詳細設定の設定項目(メディア)

No.	カテゴリー	設定項目	説明	初期値						
1	メディア	コーデック選択	<p>使用するコーデックの種類と優先順位を指定します。 使用するコーデックの変更は、スライダーボタン  をタップしたまま上下に移動させて行います。 「以下は無効です」より上位に使用するコーデックを 1 つだけ設定してください。</p> <p>&lt;選択肢&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PCMU</li> <li>・Speex/8000</li> <li>・Opus</li> </ul> <p>使用するネットワークにおいて下記を設定します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>使用ネットワーク</th> <th>コーデック</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>モバイルデータ通信</td> <td>Speex/8000、PCMU、Opus</td> </tr> <tr> <td>Wi-Fi</td> <td>PCMU</td> </tr> </tbody> </table>	使用ネットワーク	コーデック	モバイルデータ通信	Speex/8000、PCMU、Opus	Wi-Fi	PCMU	PCMU
使用ネットワーク	コーデック									
モバイルデータ通信	Speex/8000、PCMU、Opus									
Wi-Fi	PCMU									
2		DTMF の種類	<p>DTMF の送信方法を指定します。 ご利用の IP-PBX に対応した選択が必要です。システム管理者へご確認ください。</p> <p>&lt;選択肢&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・RFC2833</li> <li>・Inband</li> </ul> <p><b>(注意)</b> 本アプリをビジネスホンで使用する場合は、「RFC2833」に変更が必要です。初期値の場合は、保留転送が不可となります。</p>	Inband						
3		エコーキャンセル	端末のエコーキャンセル機能の有効/無効を指定します。	有効						
4		ジッタバッファ	本設定を使用する場合はネットワーク SE の検証が必要です。	40 ミリ秒						
5		会話継続優先		OFF						
6		ビットレート (Speex)		8 kbps						
7		ビットレート (Opus)		16 kbps						
8		音声優先制御 (QoS)有無	音声優先制御(QoS)が指定できます。OFF を指定した場合の優先制御値は 0 となります。	OFF						
9		音声優先制御 (QoS)値		0						
10		マイクミュート動作	会議通話開始時にマイクをミュートにするかを指定します。	OFF						



## 第 2 章 設定

表 2-10 詳細設定の設定項目(一般)

No.	カテゴリ	設定項目	説明	初期値
1	一般	基本通話と統合	SC210 の発着信動作を iOS 標準電話アプリと統合するか否かを設定します。	ON
2		携帯電話着信音利用	スマートフォンの標準電話アプリの着信音の使用を指定します。 「基本通話と統合」が ON の場合のみ有効。	OFF
3		プッシュ通知	プッシュ通知機能を利用するか否かを設定します。	ON
4		常時着信	プッシュ通知が有効の場合、SC210 終了後も着信を有効にするか否かを設定します。	ON
5		BG 着信を許可する	着信を受けるために SC210 の画面が非表示時に動作を維持する機能を利用するか否かを設定します。	ON
6		BG 着信時の操作(*2)	SC210 の画面が非表示時の着信通知画面の動作を設定します。	表示
7		BG 着信時の着信音設定	SC210 の画面が非表示時の着信の着信音設定を無効にするか、有効にするかを設定します。 〈選択肢〉 ・無効にする(標準音) ・有効にする	無効にする
8		携帯発着信時の動作(*2)	内線通話中に携帯発信または着信が発生した際の動作を指定します。 ※ご利用の通信網によっては指定に関わらず内線通話を切断する場合があります。 〈選択肢〉 ・SC210 を保留 ・SC210 を切断	SC210 を保留
9		KeepAlive パケット送信	着信を受けるため KeepAlive パケットを送信する間隔(秒)を指定します。	OFF
10		送信間隔	この機能を有効にすると、バッテリーが通常よりも早く消費します。設定値は「レジスター間隔」設定値の半分未満の値に設定してください。	15
11		ネットワーク変化検知(*1)	指定したタイマー時間で通話中にネットワークの変化を検知するか否かを設定します。 〈選択肢〉 ・5 秒 ・10 秒 ・15 秒 ・20 秒	OFF
12		タイマー値		5 秒
13		ネットワーク変化検知(非通話用)(*1)	指定したタイマー時間で非通話中にネットワークの変化を検知するか否かを設定します。 〈選択肢〉 ・5 秒 ・10 秒 ・15 秒 ・20 秒	OFF
14		タイマー値(非通話用)		5 秒
15		圏内外通知	サービス接続状態が変化したときにバイブレーションするか	ON

## 第 2 章 設定

			否かを指定します。	
16		発信/着信履歴の保存	SC210 での発信/着信履歴を端末の履歴に保存するか否かを設定します。	ON

(\*1) ネットワーク変化検知タイマー/ネットワーク変化検知タイマー(非通話用)の適用範囲を下記に示します。

**表 2-11 ネットワーク変化検知タイマーの適用範囲**

状態	設定	ネットワーク変化検知タイマー	ネットワーク変化検知タイマー(非通話用)
待機中		—	○
発信中/呼出中/着信中		—	○
通話中/保留中/転送中		○	—
切断中		—	○

○:適用される状態、— :適用されない状態

- ・ネットワーク検知タイマーは Wi-Fi 接続時のみ有効であり、モバイルデータ通信では動作しません。
- ・ネットワーク検知タイマーにより、通話中に圏外に移動した場合も通話の継続は可能ですが、圏外である間は、音声の送受信はできません。

(\*2) 「基本通話と統合」設定が ON(有効)の場合、下記の設定項目については、設定無効となり、記載の動作となります。

- ・BG 着信時の操作  
BG 着信時、iOS 標準電話アプリの着信画面が表示され、応答/拒否が選択可能となります。
- ・携帯発着信時の動作  
携帯発着信時、SC210 を保留/切断が選択可能となります。

**表 2-12 詳細設定の設定項目(Web 電話帳設定:ProgOffice)**

No.	カテゴリ	設定項目	説明	初期値
1	Web 電話帳 設定 (ProgOffice)	Web 電話帳	使用する Web 電話帳を指定します。	使用しない
2		ログイン ID	Web 電話帳サーバにログインするログイン ID を入力します。	空白
3		API トークン	Web 電話帳サーバから払い出される当該ユーザの API トークンを入力します。	空白
4		サーバ	Web 電話帳サーバのドメイン名を入力します。	空白
5		テナント ID	Web 電話帳サーバのテナント ID を入力します。	空白

### 留意事項

- Wi-Fi 接続時は Wi-Fi 環境への接続・切り替えが可能となります。4G/5G などのモバイルデータ通信環境への接続切り替えを行う場合は Wi-Fi 接続を切断した状態で設定を実施してください。
- モバイルデータ通信環境で継続的に着信の待ち受けを行う場合は下記設定としてください。設定が正しく実施されない場合、着信を受けられなくなる場合があります。  
「KeepAlive パケット送信間隔」:ON ※タイマー値についてはシステム管理者に問い合わせください。
- ネットワーク変化検知タイマーにて、タイマー値内のネットワーク変化の通話は継続されますが、Wi-Fi のアクセスポイントの切り替え時に、保留・保留解除、セッション更新(自動)が行われると通話が切断されてしまう場合があります。
- トランスポート設定を TCP 接続にした状態で、SC210 をバックグラウンドにした場合、ネットワーク変化

## 第2章 設定

---

検知において、下記の制限が発生する場合があります。

- ・Wi-Fi⇔4G/5G との切り替えに時間がかかる場合があります(最大 10 分)。
- ・TCP が切断された場合、検出に時間がかかります(最大 10 分)。
- ・ネットワークの切り替えに失敗した場合、再検出に時間がかかります(最大 10 分)。

- モバイルデータ通信の設定は、SIM 未装着の場合、表示されないことがあります。  
また、SIM 装着後、設定が表示されていなくともモバイルネットワークでの接続は可能です。  
※モバイルデータ通信の設定は SIM 装着後、OS の再起動にて表示される場合があります。
- アプリケーション使用中に SIM カードを抜き差ししてしまった場合は、再度アプリケーションを使用する前に端末を再起動してください。
- 簡単設定画面、詳細設定画面、プロフィール設定画面表示中は下記動作となります。
  - ・着信を受けることができません。
  - ・ネットワーク切り替えなどで動作する再接続処理を実行しません。
- 設定中に、電源ボタンを押してディスプレイをオフにした場合や設定途中で放置すると、画面が切り替わって設定が反映され、IP-PBX/ビジネスホンに再接続します。  
設定は必ず「完了」をタップし設定画面を完了させてください。設定の途中で画面が切り替わってバックグラウンドとなった場合は、再度設定を行ってください。

## 第2章 設定

### 2.9 アドレス帳を読み込む

端末標準の連絡先に登録されている、データを読み込みます。これによって、「履歴」や「よく使う連絡先」に、登録名が表示されます。

通常、連絡先の読み込みは自動的に行います。

本ボタンは連絡先の登録内容がよく使う連絡先や履歴に反映されない場合に使用します。



画面左上の ≡ アイコンをタップすると、画面切り替えメニューが表示されます。

「設定」をタップします。



設定画面が開きます。

「アドレス帳読み込み」をタップします。  
処理中はアドレス帳読み込みボタンが非活性となります。

※アドレス帳の読み込み中に、ホームボタンを押下など割り込みが発生すると中断します。

※アドレス帳の件数が多いと数秒かかります。ただし、アドレス帳のデータ容量や端末の状態により読み込み時間は変動します。

## 第2章 設定

### 2.10 通知センターの設定

SC210 がバックグラウンド時に、動作を通知するため、通知センターを設定します。  
OS「設定」>「通知」>「SC210」で設定します。推奨値は全て初期値としてください。



#### 通知を許可

「オン/オフ」

オフにすると、着信音やバナーなど表示されません。

#### サウンド

「オン(初期値)/オフ」

着信音を指定します。オフにすると、SC210 画面非表示かつ BG 着信時の着信音設定:”無効にする”が選択されている場合に着信音が鳴りません。「バナー」表示の時間が短くなります。

#### バッジ

「オン(初期値)/オフ」

SC210 のアイコンにバッジを表示し、不在着信の件数を表示します。履歴を表示するまで表示します。オフにするとSC210のアイコンにバッジを表示しません。

#### [通知]

##### ロック画面

画面を点灯しロック画面に着信通知の表示を指定します。オフにすると画面オフのままとなります。

##### 通知センター

「オン(初期値)/オフ」

通知センターに不在着信通知を表示します。オフにすると不在着信通知が通知センターに表示されなくなります。

##### バナー/バナースタイル

「オン(初期値)/オフ」および「一時的(初期値)/持続的」

画面上部に着信通知を表示します。

・一時的:画面上部に着信通知を表示します。数秒後に表示が消えます。

・持続的:画面上部に着信通知を表示します。通知をタップするまで表示が消えません。

#### [オプション]

##### プレビューを表示

「常に(初期値)/ロックされていないときのみ/しない」

通知センターでの相手先の記載が変更になります。

・常に:(通常時/ロック時)〇〇さんから着信

・ロックされていないときのみ:(通常時)〇〇さんから着信、(ロック時)1件の通知

・しない:(通常時/ロック時)1件の通知

##### 通知のグループ化

「自動(初期値)/App 別/オフ」

・自動:OS が自動的に通知をグループ化します。

・App 別:アプリケーションへの通知を1つのグループとします。

・オフ:通知をグループ化しません。

(※) 通知方式の変更による着信音の動作は 4.13.1 を参照してください。

## 第 2 章 設定

### 2.11 アップデート

App Store の通知により SC210 をアップデートする方法を説明します。なお、念のため設定値をお控えのうえで作業をお願いします。

#### 留意事項

- 最新版 SC210 を公開後、インターネット環境に接続している端末であれば AppStore からアップデートが通知されます。こちらは最新版の案内であり、インストールの合図ではありません。また、SC210 のアップデートを一旦実施しますと、旧バージョンに戻すことができません。システム管理者に連絡し、アップデートが可能かを確認したうえで実施してください。

1.		端末のホーム画面で「App Store」をタップします。
2.		「アップデート」をタップします。
3.		SC210 がアップデート対象であれば、一覧に表示されます。「アイコン」をタップすると内容を表示します。

## 第2章 設定

4.



掲載内容の内容をご確認ください。  
また、システム管理者に連絡し、アップデートが可能かをご確認ください。  
「アップデート」をタップし、インストールが開始します。

5.



SC210 再起動後、SC210 設定画面の再接続ボタンをタップし、サービス状態ランプが緑点灯することを確認してください。

プッシュ通知を利用している場合は、2.6章の手順6以降を実施してください。

その後、発信操作と着信操作が可能であることを確認してください。

## 第2章 設定

### 2.12 アンインストール

SC210 をアンインストールする方法を説明します。OS の「設定」からも削除可能です。アンインストールを実施すると、SC210 の履歴などの情報は削除されます。

※SC200 をアンインストールする場合は手順 1 にて SC200 を選択してください。

1.

The image shows the SC210 application icon on a home screen. The icon is a dark rounded square with 'SC210' written in white and red. Below it, the text 'SC210' is visible on the home screen background.

ホーム画面で「SC210」を長押しします。
2.

The image shows the SC210 application icon with a red square highlighting a small blue circle with a white 'X' in the top-left corner.

「SC210」アイコンの左上のⓧをタップします。
3.

The image shows a dialog box with the title "SC210"を削除. The text inside says "SC210"を削除すると、そのすべてのデータも削除されます. At the bottom, there are two buttons: "削除" (Delete) and "キャンセル" (Cancel). The "削除" button is highlighted with a red square.

「削除」をタップし、SC210 を削除します。  
「キャンセル」をタップすると中止します。
4.

The image shows the home button on the device, which is a small square with a white circle in the center, highlighted with a red square.

アイコン削除後、ホームボタンを押します。



# 第3章 基本画面

## 3 基本画面

SC210 の基本画面を下記に説明します。

### 3.1 ダイヤル画面

SC210 を起動すると、「ダイヤル画面」が表示されます。

	<p>1 現在の画面(ダイヤル画面)を表示 ☰ をタップすると画面切り替えメニューを表示します。</p> <p>2 連絡先を表示 端末やアカウントに登録されている連絡先情報をもとに発信操作を行います。 ☒ をタップすると連絡先選択画面を表示します。</p> <p>3 サービス状態を表示 ● IP-PBX/ビジネスホンへ未登録のため通話できません。 ● IP-PBX/ビジネスホンへの登録処理中のため通話できません。 ● IP-PBX/ビジネスホンへ登録完了し通話できます。</p> <p>4 使用中のプロファイル情報とこの端末の内線番号を表示。</p> <p>5 ダイヤルパッドで入力した番号を表示 ☒ をタップすると一文字ずつ消去します。</p> <p>6 ダイヤルパッド</p> <p>7 発信/応答ボタン 電話番号未入力時は下図のリダイヤルボタンを表示します。 リダイヤルボタン: </p> <p>8 保留ボタン</p> <p>9 切断ボタン</p>
--	---

## 第3章 基本画面

### <状態アイコン>

ダイヤル画面上部に通話相手の番号/登録名、アイコン、通話時間を画面に表示します。

表示エリア	アイコン	説明
		内線通話中です。
		内線発信中、または内線着信中です。
		内線保留中です。
		内線通話を切断しました。 ※内線発信キャンセルや通話相手が切断した場合、上段に切断理由、下段に電話番号が表示されます(電話番号の桁数が多い場合、通話時間表示と重なる場合があります)。 

## 第3章 基本画面



### ■ ダイアル画面の着信情報表示

内線着信時、ダイアル画面上部に相手の情報を表示します。

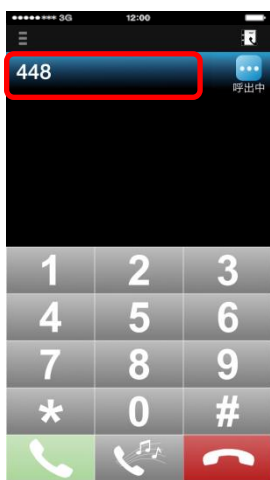
- (1) アドレス帳登録がない場合: ユーザ ID を表示します。
  - (2) アドレス帳登録がある場合: 上段にアドレス帳の登録名、下段にユーザ ID を表示します(\*1)(\*2)。
  - (3) 非通知の場合: 「非通知」表示し、ユーザ ID は表示しません。
- ※非通知で転送されてきた場合は、「不明」表示となります。

(\*1) SC210 では、表示名を設定した端末から着信した場合でも、端末のアドレス帳に登録されている連絡先からの着信であれば、アドレス帳に登録されている名前を表示します。アドレス帳に登録されていない連絡先からの着信であれば、ユーザ ID を表示します。

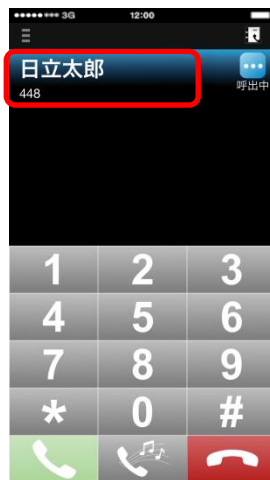
(\*2) アドレス帳登録がある場合でも、端末の初回起動後、初回のロック解除前の着信の場合には(1)アドレス帳登録がない場合と同様にユーザ ID のみの表示となります。

Web 電話帳と連携している場合、Web 電話帳にのみ登録されている連絡先からの発着信であれば、上段に Web 電話帳の登録名、下段にユーザ ID を表示します。

(1)アドレス帳登録なし



(2)アドレス帳登録あり



(3)非通知

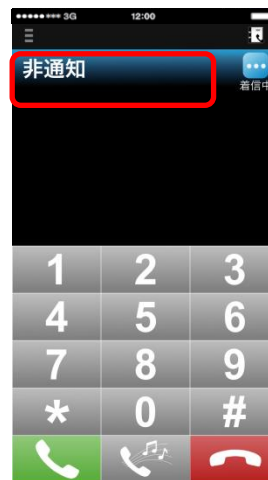


図 3-1 ダイアル画面-着信情報表示

## 第3章 基本画面

### 3.2 よく使う連絡先画面

画面切り替えメニューから「よく使う連絡先」を選択すると、よく使う連絡先を表示します。

	<table border="1"><tr><td data-bbox="815 383 885 510">1</td><td data-bbox="885 383 1401 510">現在の画面(よく使う連絡先画面)を表示 ☰ をタップすると画面切り替えメニューを表示 します。よく使う連絡先画面を開くにはメニューで 「よく使う連絡先」を選択します。</td></tr><tr><td data-bbox="815 510 885 584">2</td><td data-bbox="885 510 1401 584">編集ボタン</td></tr><tr><td data-bbox="815 584 885 658">3</td><td data-bbox="885 584 1401 658">よく使う連絡先追加ボタン</td></tr><tr><td data-bbox="815 658 885 732">4</td><td data-bbox="885 658 1401 732">よく使う連絡先一覧を表示</td></tr><tr><td data-bbox="815 732 885 1144"></td><td data-bbox="885 732 1401 1144"></td></tr></table>	1	現在の画面(よく使う連絡先画面)を表示 ☰ をタップすると画面切り替えメニューを表示 します。よく使う連絡先画面を開くにはメニューで 「よく使う連絡先」を選択します。	2	編集ボタン	3	よく使う連絡先追加ボタン	4	よく使う連絡先一覧を表示		
1	現在の画面(よく使う連絡先画面)を表示 ☰ をタップすると画面切り替えメニューを表示 します。よく使う連絡先画面を開くにはメニューで 「よく使う連絡先」を選択します。										
2	編集ボタン										
3	よく使う連絡先追加ボタン										
4	よく使う連絡先一覧を表示										



- よく使う連絡先には、SC210 でのよく使う連絡先を保存します。

## 第3章 基本画面

### 3.3 履歴画面

画面切り替えメニューから「履歴」を選択すると、発着信履歴を表示します。

	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="821 414 869 481">1</td> <td data-bbox="893 380 1391 504">現在の画面(履歴画面)を表示 ☰ をタップすると画面切り替えメニューを表示します。履歴画面を開くにはメニューで「履歴」を選択します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="821 526 869 593">2</td> <td data-bbox="893 515 1391 616">表示履歴選択 表示する履歴を選択します。 「着信」、「発信」、「全て」を選択可能です。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="821 638 869 705">3</td> <td data-bbox="893 616 1391 952">履歴一覧を表示  <table border="1"> <tr> <td></td> <td>発信履歴</td> </tr> <tr> <td></td> <td>着信履歴</td> </tr> <tr> <td></td> <td>不在着信履歴</td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="821 1142 869 1209">4</td> <td data-bbox="893 952 1391 1232">履歴編集モード選択 履歴の削除、連絡先への追加が行えます。 詳細は、「4.12 発着信履歴を確認する」を参照してください。</td> </tr> </table>	1	現在の画面(履歴画面)を表示 ☰ をタップすると画面切り替えメニューを表示します。履歴画面を開くにはメニューで「履歴」を選択します。	2	表示履歴選択 表示する履歴を選択します。 「着信」、「発信」、「全て」を選択可能です。	3	履歴一覧を表示 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>発信履歴</td> </tr> <tr> <td></td> <td>着信履歴</td> </tr> <tr> <td></td> <td>不在着信履歴</td> </tr> </table>		発信履歴		着信履歴		不在着信履歴	4	履歴編集モード選択 履歴の削除、連絡先への追加が行えます。 詳細は、「4.12 発着信履歴を確認する」を参照してください。
1	現在の画面(履歴画面)を表示 ☰ をタップすると画面切り替えメニューを表示します。履歴画面を開くにはメニューで「履歴」を選択します。														
2	表示履歴選択 表示する履歴を選択します。 「着信」、「発信」、「全て」を選択可能です。														
3	履歴一覧を表示 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>発信履歴</td> </tr> <tr> <td></td> <td>着信履歴</td> </tr> <tr> <td></td> <td>不在着信履歴</td> </tr> </table>		発信履歴		着信履歴		不在着信履歴								
	発信履歴														
	着信履歴														
	不在着信履歴														
4	履歴編集モード選択 履歴の削除、連絡先への追加が行えます。 詳細は、「4.12 発着信履歴を確認する」を参照してください。														



- 履歴の保存有無を選択することが可能です。  
「2.8.3 詳細設定画面」の「表 2-10 詳細設定の設定項目(一般)」を参照してください。
- 履歴は SC210 での内線発着信を保存します。

#### 留意事項

- SC210 設定「基本通話と統合」が”OFF”の場合、携帯通話中は着信履歴が残りません。
- 設定画面表示中は着信履歴が残りません。

## 第3章 基本画面

### 3.4 設定画面

画面切り替えメニューから「設定」を選択すると、設定画面を表示します。本画面の設定項目一覧は、「2.8.1 設定画面」を参照してください。

	<p>1 現在の画面(設定画面)を表示 ☰ をタップすると画面切り替えメニューを表示します。設定画面を開くにはメニューで「設定」を選択します。</p> <p>2 プロファイル選択 プロファイルを変更した場合、再接続ボタンをタップして IP-PBX/ビジネスホンへ再登録すると通話できる状態になります。</p> <p>3 再接続ボタン</p> <p>4 プロファイル自動切り替え</p> <p>5 発信不可</p> <p>6 着信音のサイレントスイッチ(4.14.3を参照)</p> <p>7 マイク音量調整バー</p> <p>8 簡単設定画面を表示する。(2.8.2 簡単設定画面を参照)</p> <p>9 詳細設定画面を表示する。(2.8.3 詳細設定画面を参照)</p> <p>10 アドレス帳読み込み</p> <p>11 着信音変更ボタン (4.14 着信音の設定をするを参照)</p> <p>12 SC210 のバージョン番号</p>
--	---

# 第3章 基本画面

## 3.5 メニュー画面

各画面から「☰」を選択すると、メニュー画面を表示します。

 <p>1 ダイアル よく使う連絡先 履歴 設定</p> <p>2 ⓧドメイン: 設定してください</p> <p>3 ⚠コーデック: Speexのみ選択</p> <p>4 マイク音量: 50</p> <p>5 Version SC210-1.***</p>	<p>1 画面切り替えボタン</p> <p>2 警告表示 最大3件表示 (表示内容に関しては6表示メッセージを参照)</p> <p>ⓧ エラーアイコン</p> <p>⚠ ワーニングアイコン</p> <p>■設定誤りの場合 エラーアイコン ・正しい値が入力されるまで表示継続 ワーニングアイコン ・推奨値が入力されるまで表示継続</p> <p>■遅延/パケットロスの警告の場合 ワーニングアイコン ・通話切断時は表示継続 ・新たな通話が開始時に表示削除 ・サービス再起動時に表示削除</p> <p>3 マイク音量</p> <p>4 スピーカー音量</p> <p>5 SC210のバージョン番号</p>
<p>■遅延/パケットロスの警告の場合</p> <p>2 ⚠ロスパケット数: 744 ⚠最大遅延時間: 894(ms) マイク音量: 50 スピーカー音量: 100</p> 	

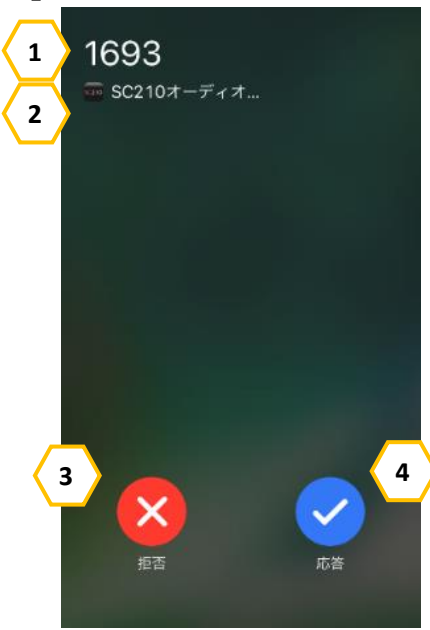
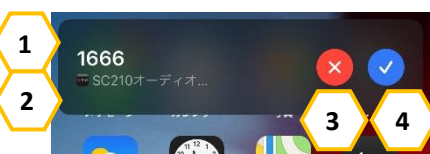
# 第3章 基本画面

## 3.6 iOS 標準電話アプリ画面

SC210 設定「基本通話と統合」が”ON”の場合、着信時／通話中に本画面が表示されます。

### 3.6.1 内線着信画面

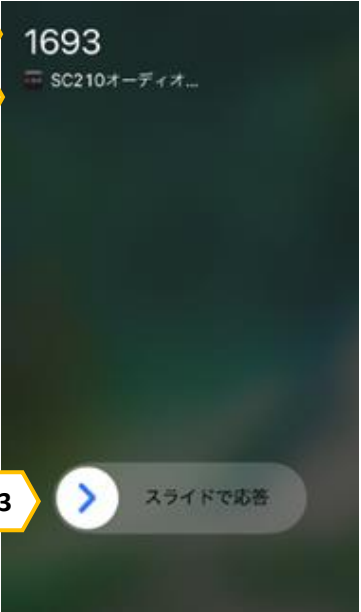
■端末の画面ロック解除状態で着信した場合

<p><b>【iOS13】</b></p> 	<p>1 着信番号を表示          ・着信番号がアドレス帳にある場合、その名前を表示し、登録がない場合はユーザ ID を表示します。          ・非通知着信などはユーザ ID が表示されません。          ・電話番号表示については「3.1 ダイヤル画面」を参照してください。</p> <p>2 アプリケーションのアイコン、名前を表示          ・SC210 着信の場合、アプリケーションの名前は「SC210 オーディオ」と表示されます。</p> <p>3 拒否ボタン          ■【iOS14】(SC210 画面表示中に着信)の場合          SC210 画面の切断ボタンによる拒否も可能です。</p> <p>4 応答ボタン          ■【iOS14】(SC210 画面表示中に着信)の場合          SC210 画面の応答ボタンによる応答も可能です。</p>
<p><b>【iOS14】</b>          (SC210 画面表示中に着信)</p>  <p>(SC210 画面非表示時に着信)</p> 	



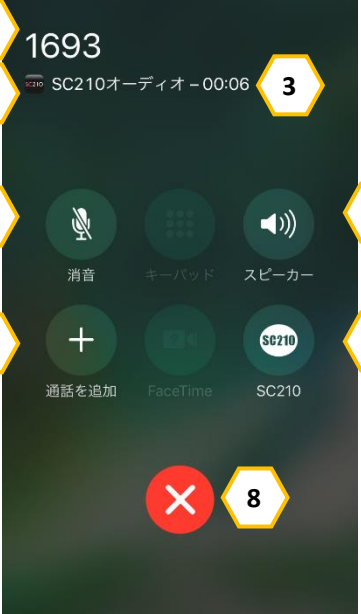
## 第3章 基本画面

### ■端末の画面ロック状態で着信した場合

	1	着信番号を表示 ・着信番号がアドレス帳にある場合、その名前を表示し、登録がない場合はユーザ ID を表示します。 ・非通知着信などはユーザ ID が表示されません。 ・電話番号表示については「3.1 ダイアル画面」を参照してください。
	2	アプリケーションのアイコン、名前を表示 ・SC210 着信の場合、アプリケーションの名前は「SC210 オーディオ」と表示されます。
	3	スライドで応答ボタン

### 3.6.2 内線通話中画面

#### ■端末の画面ロック状態で着信した場合

	1	着信番号を表示 ・着信番号がアドレス帳にある場合、その名前を表示し、登録がない場合はユーザ ID を表示します。 ・非通知着信などはユーザ ID が表示されません。 ・電話番号表示については「3.1 ダイアル画面」を参照してください。
	2	アプリケーションのアイコン、名前を表示 ・SC210 着信の場合、アプリケーションの名前は「SC210 オーディオ」と表示されます。
	3	通話時間を表示
	4	消音ボタン ・ボタン長押しにより通話を保留することができません。手順は「4.5.2 iOS 標準電話アプリ画面で保留する」を参照してください。 <b>注) ボタンタップによる消音機能は未サポートです。</b>
	5	スピーカーボタン
	6	通話を追加ボタン
	7	SC210 ボタン
	8	切断ボタン

※各ボタンタップ時の動作については、「4.3.4 iOS 標準電話アプリ画面で電話にでる」の「(2) 端末の画面ロック状態で着信し、電話にでる方法」を参照ください。

## 第3章 基本画面

### 3.6.3 内線通話中の携帯着信画面

	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>着信番号を表示 ・着信番号がアドレス帳にある場合、その名前を表示し、登録がない場合は電話番号を表示します。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>あとで通知ボタン</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>メッセージを送信ボタン</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>終了して応答ボタン</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>保留して応答ボタン</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>留守番電話に転送ボタン</td> </tr> </table>	1	着信番号を表示 ・着信番号がアドレス帳にある場合、その名前を表示し、登録がない場合は電話番号を表示します。	2	あとで通知ボタン	3	メッセージを送信ボタン	4	終了して応答ボタン	5	保留して応答ボタン	6	留守番電話に転送ボタン
1	着信番号を表示 ・着信番号がアドレス帳にある場合、その名前を表示し、登録がない場合は電話番号を表示します。												
2	あとで通知ボタン												
3	メッセージを送信ボタン												
4	終了して応答ボタン												
5	保留して応答ボタン												
6	留守番電話に転送ボタン												

※各ボタンタップ時の動作については、「4.8.2 iOS 標準電話アプリ画面で動作を設定する」を参照ください。


### 3.6.4 内線転送通話中の携帯着信画面

	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>着信番号を表示 ・着信番号がアドレス帳にある場合、その名前を表示し、登録がない場合は電話番号を表示します。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>あとで通知ボタン</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>メッセージを送信ボタン</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>終了して応答ボタン</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>保留を終了して応答ボタン</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>留守番電話に転送ボタン</td> </tr> </table>	1	着信番号を表示 ・着信番号がアドレス帳にある場合、その名前を表示し、登録がない場合は電話番号を表示します。	2	あとで通知ボタン	3	メッセージを送信ボタン	4	終了して応答ボタン	5	保留を終了して応答ボタン	6	留守番電話に転送ボタン
1	着信番号を表示 ・着信番号がアドレス帳にある場合、その名前を表示し、登録がない場合は電話番号を表示します。												
2	あとで通知ボタン												
3	メッセージを送信ボタン												
4	終了して応答ボタン												
5	保留を終了して応答ボタン												
6	留守番電話に転送ボタン												

※各ボタンタップ時の動作については、「4.8.2 iOS 標準電話アプリ画面で動作を設定する」を参照ください。

## 第 3 章 基本画面

### 3.6.5 携帯通話中の内線着信画面

	<p>1</p> <p>着信番号を表示</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・着信番号がアドレス帳にある場合、その名前を表示し、登録がない場合はユーザ ID を表示します。</li><li>・非通知着信などはユーザ ID が表示されません。</li><li>・電話番号表示については「3.1 ダイアル画面」を参照してください。</li></ul>
	<p>2</p> <p>終了して応答ボタン</p>
	<p>3</p> <p>保留して応答ボタン</p>
	<p>4</p> <p>拒否ボタン</p>

※各ボタンのタップ時の動作については、「4.9.1 iOS 標準電話アプリ画面で動作を設定する」を参照ください。

## 第3章 基本画面

### 3.6.6 携帯通話中かつ内線保留中画面

下記操作により、携帯通話中かつ内線通話が保留中となった場合に表示されます。

- ・内線通話中の携帯着信時、“保留して応答”・“保留を終了して応答”により携帯通話を開始した場合
- ・携帯通話中の内線着信時、“保留して応答”により内線通話開始後、携帯通話に切り替えた場合

	<table border="1"><tr><td>1</td><td>着信番号を表示 ・携帯通話、内線通話相手の番号がそれぞれ表示されます。 ・着信番号がアドレス帳にある場合、その名前を表示し、登録がない場合は着信番号を表示します。 ・非通知着信などはユーザ ID が表示されません。 ・電話番号表示については「3.1 ダイヤル画面」を参照してください。</td></tr><tr><td>2</td><td>通話状態・通話時間を表示</td></tr><tr><td>3</td><td>消音ボタン</td></tr><tr><td>4</td><td>キーパッドボタン</td></tr><tr><td>5</td><td>スピーカーボタン</td></tr><tr><td>6</td><td>切替ボタン(※)</td></tr><tr><td>7</td><td>連絡先ボタン</td></tr><tr><td>8</td><td>切断ボタン(※)</td></tr></table>	1	着信番号を表示 ・携帯通話、内線通話相手の番号がそれぞれ表示されます。 ・着信番号がアドレス帳にある場合、その名前を表示し、登録がない場合は着信番号を表示します。 ・非通知着信などはユーザ ID が表示されません。 ・電話番号表示については「3.1 ダイヤル画面」を参照してください。	2	通話状態・通話時間を表示	3	消音ボタン	4	キーパッドボタン	5	スピーカーボタン	6	切替ボタン(※)	7	連絡先ボタン	8	切断ボタン(※)
1	着信番号を表示 ・携帯通話、内線通話相手の番号がそれぞれ表示されます。 ・着信番号がアドレス帳にある場合、その名前を表示し、登録がない場合は着信番号を表示します。 ・非通知着信などはユーザ ID が表示されません。 ・電話番号表示については「3.1 ダイヤル画面」を参照してください。																
2	通話状態・通話時間を表示																
3	消音ボタン																
4	キーパッドボタン																
5	スピーカーボタン																
6	切替ボタン(※)																
7	連絡先ボタン																
8	切断ボタン(※)																

(※)IP-PBX の製品種別により、「切替」ボタン／「切断」ボタンをタップした場合の動作が異なります。ご利用の製品を確認のうえ、参照してください。

・IP-PBX の場合：

携帯通話が保留(\*1)／切断となり、内線通話に切り替わります。

・ビジネスホンの場合：

携帯通話が保留(\*1)／切断となり、内線通話に切り替わります。

切り替わり後の内線通話では、ビジネスホンの保留音(セカンドダイヤルトーン「プププ」音が鳴動した後、ビジートーン「ツーツーツー」音が鳴動)が鳴動しています。

通話を再開する場合は、「消音」ボタンをタップし、保留音鳴動を停止してください。

(\*1) 通話の切り替えについては、ご利用の通信キャリアにより、オプションサービスの契約が必要な場合があります。対応していない場合は、携帯通話が切断となりますので、ご注意ください。

# 第3章 基本画面

## 3.6.7 履歴画面

 <p>すべて 不在着信 編集</p> <h3>履歴</h3> <ul style="list-style-type: none"><li>1 宮崎紅 (電話) 20:18 5</li><li>2 神奈川太郎 (18) (SC210オーディオ) 20:16</li><li>3 1678 (SC210オーディオ) 18:57</li><li>4 日立花子 (SC210オーディオ) 18:56</li><li>5 1673 (SC210オーディオ) 18:53</li></ul>	<p>1 アイコン表示 ・着信／発信、応答／拒否を示すアイコンを表示します。</p> <p>2 着信番号を表示 ・着信番号がアドレス帳にある場合、その名前を表示し、登録がない場合は電話番号を表示します。</p> <p>3 アプリケーション名を表示 ・SC210 で着信／発信した場合、「SC210 オーディオ」と表示されます。</p> <p>4 着信／発信の時刻を表示</p> <p>5 詳細表示ボタン</p>
---	---

# 第4章 基本操作

## 4 基本操作

SC210 の基本的な操作について説明します。

### 4.1 アプリケーションの起動と終了

#### 4.1.1 アプリケーションの起動

起動前に端末のネットワーク設定をしてネットワーク環境に接続していることを確認してください。端末のネットワーク設定については、端末の取扱説明書を参照してください。

1.



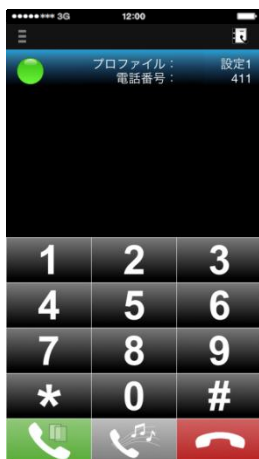
ホーム画面上の「SC210」アイコンをタップします。

2.



アプリケーション開始時、起動中に左の画面を表示します。

3.



ダイヤル画面が表示されます。

サービス状態のアイコンが緑になっていれば、通話が可能な状態です。

サービス状態のアイコンが赤の場合、「4.17IP-PBX/ビジネスホンへ再接続する」を参照してください。

## 第 4 章 基本操作

---



### ■ 自動起動について

#### 【SC210 Ver.1.11 以下をご利用の場合】

自動起動: 対応

SC210 には端末の電源投入時に自動でサービスを起動する機能があります。(iOS 標準仕様)

SC210 を起動したまま電源 OFF した場合、端末の電源投入時に自動でサービスを起動します。

Wi-Fi 接続で使用している場合、端末起動時、上記により SC210 が自動起動しても、一度、ロック画面を解除しないと、Wi-Fi が ON にならないため、端末起動時、一度ロック画面を解除し、ステータスバーの Wi-Fi マークを確認し、Wi-Fi が使用可能となっていることを確認してからご使用ください。

#### 【SC210 Ver.1.12 以上をご利用の場合】

自動起動: 非対応

iOS 標準仕様の変更により、端末の電源投入時に自動でサービスを起動する機能が非対応となりました。

そのため、SC210 を起動したまま電源 OFF した場合も、端末の電源投入時の自動でサービスは起動されません。端末起動後、手動で SC210 を起動してからご使用ください。

## 第 4 章 基本操作

### 4.1.2 アプリケーションの終了 アプリケーションを終了します。

1.  ホームボタンをダブルクリックします。
2.  左または右にスワイプし、SC210 の「アイコン&画面」を上へスワイプします。
3.  ホームボタンを 1 回押し、ホーム画面に戻ります。

### 留意事項

- プッシュ通知の利用設定時は、アプリケーションを終了しても約 30 分後に自動起動されます。その時に一瞬着信画面が表示されます。
- プッシュ通知の利用設定に応じて、アプリケーション終了後の動作が異なります。

表 4-1 アプリケーション終了後の動作

#	SC210 設定		アプリケーション終了後の SC210 動作		備考
	プッシュ通知	常時着信	IP-PBX/ビジネスホン登録	着信	
1	OFF	—	登録解除(*1)	着信不可	(*2) (*3) (*4)
2	ON	OFF	登録解除(*1)	着信不可	(*2) (*3)
3	ON	ON	登録解除しない	着信可	

(\*1) アプリケーション終了後、3 秒間 IP-PBX/ビジネスホンに対し、登録解除処理を実施しますが、ネットワーク状況により、登録解除処理に失敗する場合があります。

(\*2) (iPhoneX, XS, XS Max ご利用時) 端末の再起動を行う場合は、SC210 を前面に表示した状態で SC210 を終了させてから、実施してください。

その他の手順にて端末を再起動した場合、登録解除処理に失敗する場合があります。

(\*3) 登録解除処理に失敗した端末へ内線発信を行った場合、以下の事象が発生する場合があります。

- ・発信元の端末にて呼出音が鳴動しない(セカンドダイヤルトーン「プププ」音がしばらく鳴動した後、切断され、ビジートーン「ツーツーツー」音が鳴動となる)。

- ・iPhone の機種によっては着信不可設定にもかかわらず、着信してしまう。

事象が発生した場合、SC210 を手動で起動し、SC210 を前面に表示した状態で SC210 を終了させてください。

(\*4) プッシュ通知: OFF の場合、アプリケーション終了後、「SC210 が終了されました。」のメッセージが通知される場合があります。SC210 の利用を継続する場合は通知をタップし SC210 を起動してください。継続しない場合は通知を消すか、通知をそのままにしてください。



## 第4章 基本操作

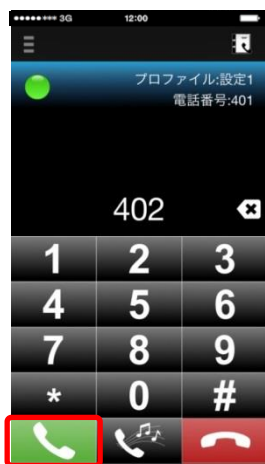
### 4.2 電話をかける

#### 留意事項

- SC210 では携帯電話発信する機能がありません。  
携帯電話発信する際は、端末標準の電話アプリケーションを使用してください。
- SC210 は通話中に音楽/動画の再生はできません。  
音楽/動画の再生中に通話を行うと音楽/動画が停止します。
- SC210 では電話発信後、相手無応答のまま 90 秒を経過すると、発信を中止(切断)します。  
※IP-PBX/ビジネスホンの設定により、90 秒経過前に発信中止となる場合があります。詳しくは、システム管理者にお問い合わせください。
- 通話中に音声の乱れがあった場合は、メニューの警告表示を確認してください。(警告表示については「表 6-10 通話中の遅延/パケットロス発生時警告表示」「表 6-11 回線異常発生時警告表示」を参照してください。)

#### 4.2.1 ダイヤルパッドから電話をかける

1.



ダイヤル画面で相手の番号を入力して(発信/応答)ボタンをタップします。

呼出をキャンセルするときは、 ボタンをタップします。

#### メモ

- 外線発信について
  - ・外線へ発信する場合は、ダイヤルプレフィックスの設定が必要です。設定については、「2.8.3 詳細設定画面」の「表 2-6 詳細設定の設定項目(アカウント)」を参照してください。
  - ・IP-PBX に外線発信機能がない場合に外線へ発信する場合は、端末標準の電話アプリケーションを使用してください。

## 第4章 基本操作

### 4.2.2 リダイヤルで電話をかける

1.



直前にかけたダイヤルへ再度電話をかけるには、(発信/応答)ボタンをタップします。

2.



直前に電話した番号が表示されますので、再度(発信/応答)ボタンをタップします。

呼出をキャンセルするときは、 ボタンをタップします。



#### ■ (発信/応答)ボタンについて

発信したことがない場合は、リダイヤルできません。リダイヤルが可能な場合は、下図のようにボタン表示が異なります。



(リダイヤル不可)

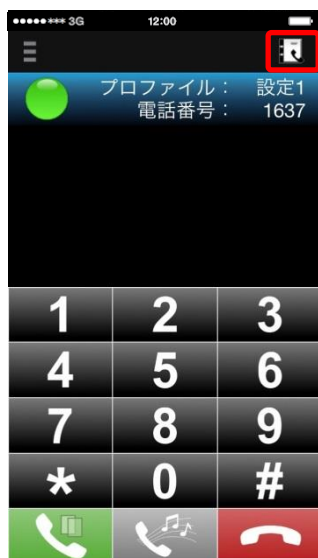


(リダイヤル可)

## 第4章 基本操作

### 4.2.3 アドレス帳(連絡先)から電話をかける

1.



ダイヤル画面で右上の  アイコンをタップします。

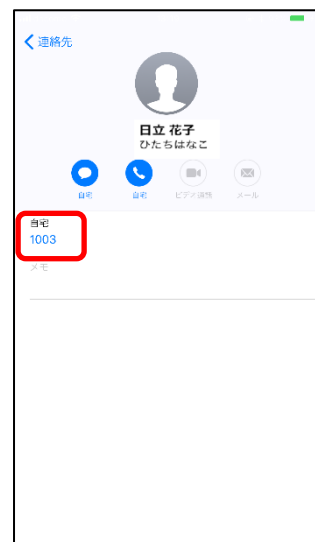
2.



アドレス帳(連絡先)が開いたら、相手の名前をタップします。

「キャンセル」をタップすると、ダイヤル画面に戻ります。

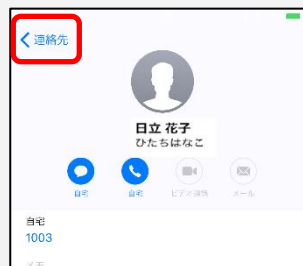
3.



アドレス帳(連絡先)の詳細が表示されます。かけたい電話番号をタップすることで電話がかかります。

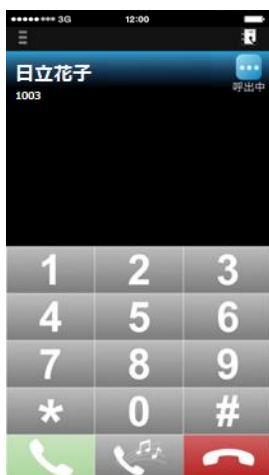
中止する場合、「連絡先」をタップします。

「連絡先」をタップすると、手順 2「アドレス帳の画面」に戻ります。



## 第 4 章 基本操作

4.



発信開始。ダイヤル画面に切り替わります。

呼出をキャンセルするときは、 ボタンをタップします。

### 留意事項

- 番号以外の文字付きの電話番号の扱いについて  
SC210 のアドレス帳は、iPhone の標準電話帳を使用しています。  
iPhone の標準電話帳は、“\*”、“#”以外に、“,”(一時停止)、“;”(待機)、“+”(国際発信)の文字を含んだ電話番号が登録可能ですが、それらの文字に対する SC210 の扱いは、表 1-2、表 1-3 を参照してください。【SC210 Ver.1.22 から一部扱いを変更】

## 第4章 基本操作

### 4.2.4 よく使う連絡先から電話をかける

1.



画面左上の ≡ アイコンをタップすると、画面切り替えメニューが表示されます。

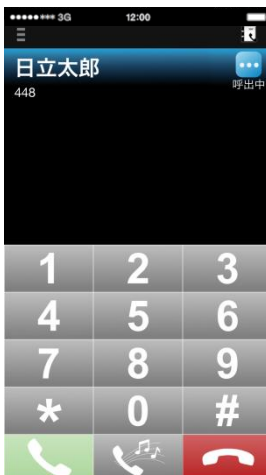
「よく使う連絡先」をタップします。

2.



よく使う連絡先が開いたら、相手の名前をタップします。

3.



発信開始。ダイヤル画面に切り替わります。

呼出をキャンセルするときは、 ボタンをタップします。

## 第4章 基本操作

### 4.2.5 履歴から電話をかける

1.



画面左上の ≡ アイコンをタップすると、画面切り替えメニューが表示されます。

「履歴」をタップします。

2.



履歴一覧が表示されたら、電話をかけたい相手の履歴をタップします。

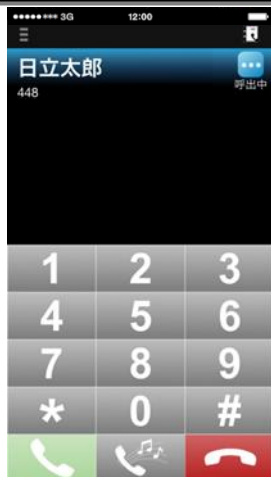
3.



履歴項目を長押しした場合、「MENU」が表示されます。  
「\*\*\*\*に発信」をタップすると電話がかかります。

## 第4章 基本操作

4.



発信開始。ダイヤル画面に切り替わります。

呼出をキャンセルするときは、 ボタンをタップします。

## 第4章 基本操作

### 4.2.6 iOS 標準電話アプリから電話をかける

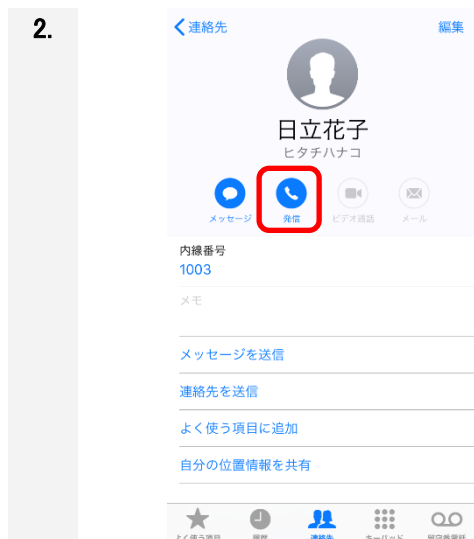
SC210 設定「基本通話と統合」が「ON」の場合、本操作により電話をかけることができます。

#### (1) アドレス帳(連絡先)から電話をかける



iOS 標準電話アプリにてアドレス帳(連絡先)画面を開きます。

アドレス帳(連絡先)が開いたら、相手の名前をタップします。



アドレス帳(連絡先)の詳細が表示されます。

画面上部の発信アイコンを長押しします。



## 第4章 基本操作

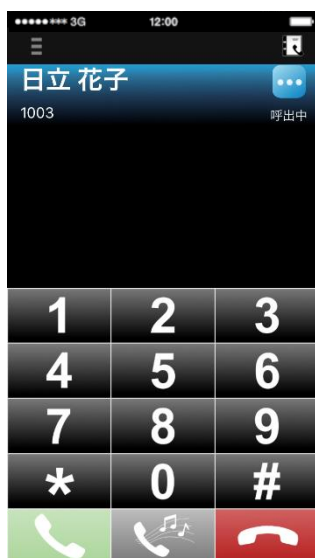
2.



発信に使用するアプリケーションを選択する画面が表示されます。

SC210 をタップし、発信する電話番号をタップします。

3.



発信開始。ダイヤル画面に切り替わります。

呼出をキャンセルするときは、 ボタンをタップします。

3.



発信に使用するアプリケーションに SC210 が設定されます。

以後、発信ボタンをタップすることで SC210 から電話をかけることができます。

## 第4章 基本操作

### (2) 履歴から電話をかける

1.

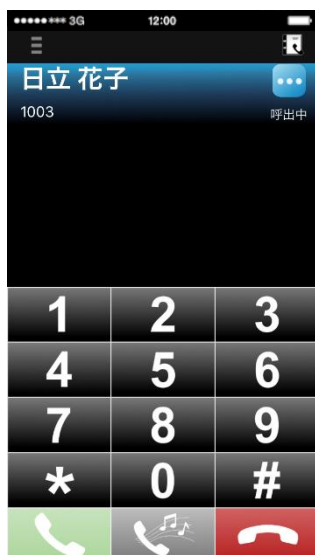


iOS 標準電話アプリにて履歴画面を開きます。

履歴一覧が表示されたら、電話をかけたい相手の履歴をタップします。

※アプリケーション名が「SC210 オーディオ」となっている場合、タップによる発信が可能です。

2.



発信開始。ダイヤル画面に切り替わります。

呼出をキャンセルするときは、 ボタンをタップします。

## 第 4 章 基本操作

### 4.3 電話にでる

#### 留意事項

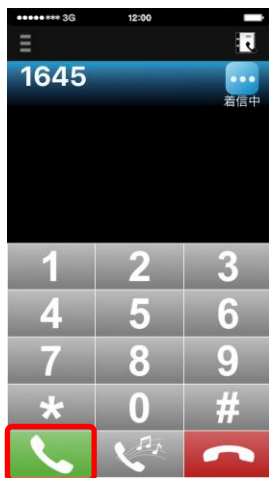
- SC210 は通話中に音楽/動画の再生はできません。  
音楽/動画の再生中に通話を行うと音楽/動画が停止します。  
連絡先登録中に着信を受けた場合、登録中の連絡先画面が非表示となり着信画面が表示されます。  
SC210 通話中はイヤホンマイクの中央ボタン押下による音楽再生は無効となります。
- SC210 画面表示/非表示および設定により、着信音の鳴動動作が異なります。  
詳細については、「4.14 着信音の設定をする」を参照してください。
- IP-PBX 鳴り分け設定により、着信音の鳴動動作が異なります。  
IP-PBX 設定により、鳴動する着信音が異なります。  
詳細については、「4.14 着信音の設定をする」を参照してください。
- ビジネスホン接続時は、外線着信と内線着信で鳴動する着信音が異なります。  
内線着信時は標準音、外線着信時は外線着信用の着信音が鳴動されます。  
SC210 の着信音を設定した場合 (4.14.2 章参照) は内線着信、外線着信ともに設定した着信音が鳴動されます。  
詳細については、「4.14 着信音の設定をする」を参照してください。
- SC210 では電話着信後、応答/拒否しないまま 90 秒を経過すると、着信中止(拒否)となります。  
※IP-PBX/ビジネスホンの設定により、90 秒経過前に着信中止となる場合があります。詳しくは、システム管理者にお問い合わせください。
- 通話中に音声の乱れがあった場合は、メニューの警告表示を確認してください。(警告表示については「表 6-10 通話中の遅延/パケットロス発生時警告表示」「表 6-11 回線異常発生時警告表示」を参照してください。)
- Bluetooth 機器接続時の動作について
  - ・SC210 設定「基本通話と統合」が“ON”である場合、マルチ機能ボタン押下により、着信に応答、通話を切断することができます。
  - ・通話中、Bluetooth 機器との接続が切断された場合、音声の入出力が Bluetooth 機器から端末のマイク、スピーカーに切り替わります。Bluetooth が再接続した場合は音声の入出力は Bluetooth 機器に戻ります。
  - ・SC210 設定「基本通話と統合」が“ON”である場合、着信中に Bluetooth 機器との接続が切断されると、着信音が聞こえなくなる場合があります。着信音が聞こえない場合、再度、Bluetooth 機器を接続するようお願いいたします。
  - ・Bluetooth 機器使用中にスピーカーモードへの切換えはできません。

## 第 4 章 基本操作

### 4.3.1 SC210 画面で電話にでる

SC210 設定「基本通話と統合」が”OFF”の場合、本操作による着信応答が可能です。

1.



内線着信すると、ダイヤル画面が表示されます。

着信番号がアドレス帳にある場合、その名前を表示し、登録がない場合はユーザ ID を表示します。  
非通知着信などはユーザ ID が表示されません。  
電話番号表示については「3.1 ダイヤル画面」を参照してください。

応答するときは、 ボタンをタップします。

拒否するときは、 ボタンをタップします。

## 第4章 基本操作

### 4.3.2 ホーム画面などで電話にでる

SC210 設定「基本通話と統合」が”OFF”の場合、本操作による着信応答が可能です。

端末のホーム画面や他アプリケーション使用中、SC210 画面が非表示時に内線着信した場合、画面などで内線着信をお知らせします。お知らせする手段については「2.10 通知センターの設定」を参照してください。

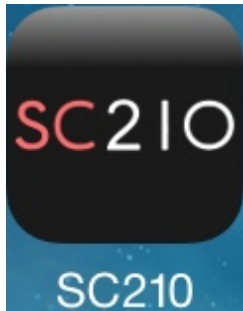
また、SC210 の「設定」 「BG 着信時の操作」の設定により、電話の操作手順が若干変わります。本書では下記の分類で分け説明します。

- (1)着信を画面に表示せず、電話にでる方法
- (2)「BG 着信時の操作:表示」の設定で電話にでる方法
- (3)「BG 着信時の操作:応答」の設定で電話にでる方法

なお、ホーム画面などで内線着信するためには、SC210 の詳細設定「BG 着信を許可する:オン」が前提です。

#### (1) 着信を画面に通知しないで電話にでる方法

1-1



「アイコンより応答する」

ホームボタンを押し、ホーム画面の SC210 アイコンをタップし、SC210 を起動します。

1-2

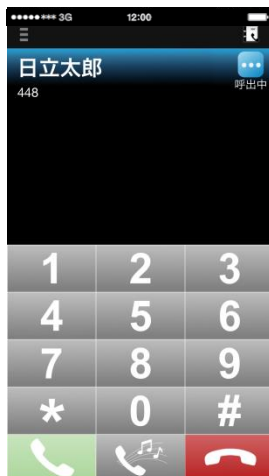


「通知センターより着信確認する」

着信中に端末画面上部から下にスワイプし、「通知センター」を表示します。タグ「通知」の項目に着信内容が表示します。着信項目をタップすることで、SC210 が起動します。SC210 に遷移すると着信イベントは削除されます。

着信イベント右上部 ⊗ は項目を削除するだけで、応答動作とは関係ありません。

2.



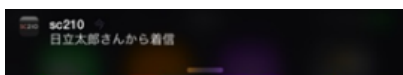
応答するときは、 ボタンをタップします。

拒否するときは、 ボタンをタップします。

## 第4章 基本操作

### (2) BG着信時の操作:表示にて電話にでる方法

1-1



「通知のスタイル:バナー」の場合、内線着信が画面上部にバナーで表示されます。着信番号がアドレス帳にある場合、その名前を表示します。非通知着信などは電話番号が表示されません。

バナーは一定時間経つと消えます。バナーが消えた場合は、SC210 アイコンをタップするか、項番 1-2 の手順にて SC210 を起動します。

バナーの最大表示行数は 2 行です。

1-2

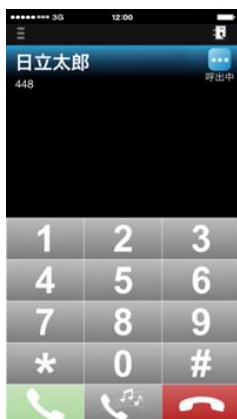


「通知センターより着信確認する」

着信中に端末画面上部から下にスワイプし、「通知センター」を表示します。タグ「通知」の項目に着信内容が表示します。着信項目をタップすることで、SC210 が起動します。SC210 に遷移すると着信イベントは削除されます。

着信イベント右上部 ⊗ は項目を削除するだけで、応答動作とは関係ありません。

2.



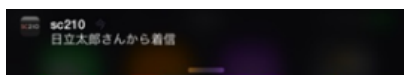
応答するときは、 ボタンをタップします。

拒否するときは、 ボタンをタップします。

## 第4章 基本操作

### (3) BG着信時の操作:応答にて電話にでる方法

1-1



「通知のスタイル:バナー」の場合、内線着信が画面上部にバナーで表示されます。着信番号がアドレス帳にある場合、その名前を表示します。非通知着信などは電話番号が表示されません。

バナーは一定時間経つと消えます。バナーが消えた場合は、項番1-2の手順にてSC210を応答します。SC210アイコンをタップした場合は起動後応答操作が必要です。バナーの最大表示行数は2行です。

1-2

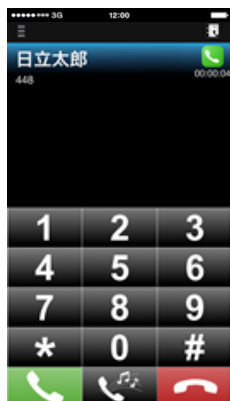


「通知センターより着信応答する」

着信中に端末画面上部から下にスワイプし、「通知センター」を表示します。タグ「通知」の項目に着信内容が表示します。着信項目をタップすることでSC210が起動し、着信に応答します。SC210に遷移すると着信イベントは削除されます。

着信イベント右上部 ⊗ は項目を削除するだけで、応答動作とは関係ありません。

2.



自動で応答するのでそのまま通話ができます。

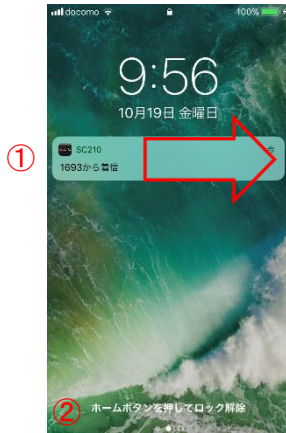
通話を終了するときは、 ボタンをタップします。

## 第4章 基本操作

### 4.3.3 自動ロック状態で着信する

SC210 設定「基本通話と統合」が”OFF”の場合、本操作による応答が可能です。

1-1



【通知センター設定「ロック画面に表示」:オンの場合】

着信が発生すると画面オンとなり、自動ロック画面に着信通知が表示されます。

①着信通知を右にスワイプし、ロックを解除します。  
ロック解除後に SC210 画面が表示されます。

②ホームボタンを押して、ロックを解除することもできます。  
ロック解除後はロックされる直前の画面が表示され、SC210 のアイコンを選択すると SC210 画面が表示されます。

1-2



【通知センター設定「ロック画面に表示」:オフの場合】

着信が発生した場合も画面オフのまま何も表示されません。  
着信音とバイブレーションでの呼出となります。  
※ホームボタンなどのハードキーの操作により、画面オンと同時に着信音が消えますが、ロックを解除すると着信音が復活します。

①ホームボタンを押して、ロックを解除します。  
ロック解除後はロックされる直前の画面が表示され、SC210 のアイコンを選択すると SC210 画面が表示されます。

1-3



「通知センターより着信確認する」

「通知センター」からも着信の確認ができます。  
着信中に端末画面上部から下にスワイプし、「通知センター」を表示します。タグ「通知」の項目に着信内容が表示します。  
着信通知をタップし、ロックを解除します。  
ロック解除後は SC210 画面が表示されます。

2.



応答するときは、 ボタンをタップします。

拒否するときは、 ボタンをタップします。

※パスコードや指紋認証によるセキュリティロックを設定している場合は、ロック解除時にパスコード入力や指紋認証による解除操作が必要となります。



## 第4章 基本操作

### 4.3.4 iOS 標準電話アプリ画面で電話にでる

SC210 設定「基本通話と統合」が「ON」の場合、本操作により電話にでることができます。

SC210 に着信があった場合、iOS 標準電話アプリと同様の画面で電話にでることができます。

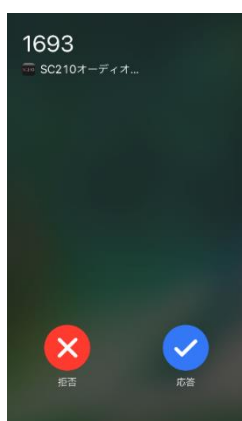
また、端末の画面ロック状態により、操作手順が若干変わります。

本書では下記の分類で分けて説明します。

- (1) 端末の画面ロック解除状態で着信し、電話にでる方法
- (2) 端末の画面ロック状態で着信し、電話にでる方法

#### (1) 端末の画面ロック解除状態で着信し、電話にでる方法

1.



iOS 標準電話アプリと同様の着信画面が表示されます。

応答するときは、 ボタンをタップします。

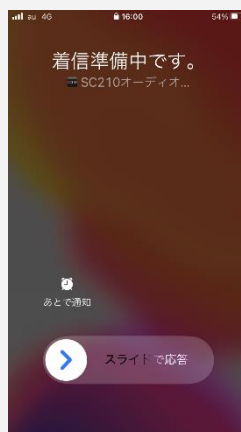
拒否するときは、 ボタンをタップします。



#### ■【iOS14】の場合

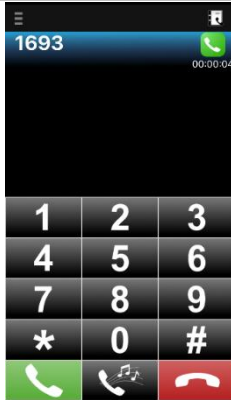
・SC210 画面表示中に着信した場合、SC210 画面の応答／切断ボタンにより、応答／拒否も可能です。

・着信画面が表示される前に一瞬下図の着信通知が表示される場合があります。本画面をタップしても動作しません。



## 第4章 基本操作

2-1

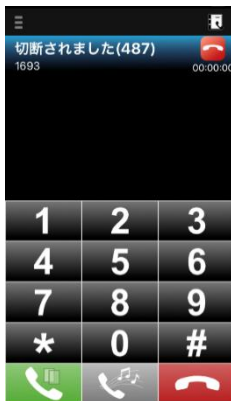


「応答」

着信に応答し、通話を開始します。  
SC210 の通話中画面が表示されます。

通話を終了するときは、 ボタンをタップします。

2-2



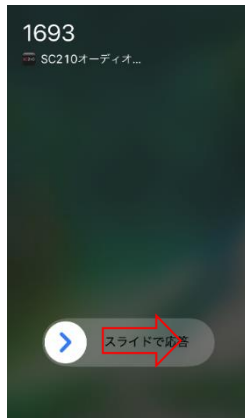
「拒否」

着信を切断します。  
SC210 の切断中画面が表示されます。(※)

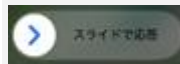
(※) SC210 が起動中に着信し、拒否した場合、SC210 が未起動時に着信し、拒否した場合は、ホーム画面に戻ります。

### (2) 端末の画面ロック状態で着信し、電話にできる方法

1.



iOS 標準電話アプリと同様の着信画面が表示されます。



を右にスワイプすると、着信に応答します。

※パスコードや指紋認証によるセキュリティロックを設定している場合も、パスコード入力/指紋認証によるロックの解除操作は不要です。

2.

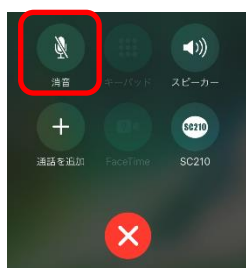


着信に応答し、通話を開始します。  
iOS 標準電話アプリと同様の通話中画面が表示されます。

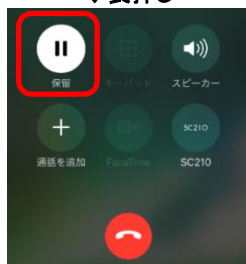
各ボタンのタップにより、内線通話に対する動作を選択することができます。  
動作については、下記の手順 3-1～3-5 を参照してください。

## 第 4 章 基本操作

### 3-1 【消音】



↓長押し

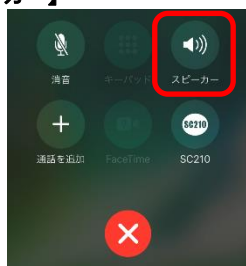


#### 【消音】

「消音」ボタンタップによる消音機能は未サポートです。

「消音」ボタンを長押し(3 秒)した場合、内線通話を保留します。保留操作については、「4.5.2:iOS 標準電話アプリ画面で保留する」を参照してください。

### 3-2 【スピーカー】



#### 【スピーカー】

「スピーカー」ボタンタップにより、ハンズフリー(スピーカーフォンで通話)となります。

※ハンズフリーの利用については、次ページの留意事項を合わせてご確認ください。

### 3-3 【通話を追加】



#### 【通話を追加】

「通話を追加」ボタンタップにより、連絡先画面からの転送発信ができます。

※連絡先画面からの転送発信の利用については、次ページの留意事項を合わせてご確認ください。

### 3-4 【SC210】

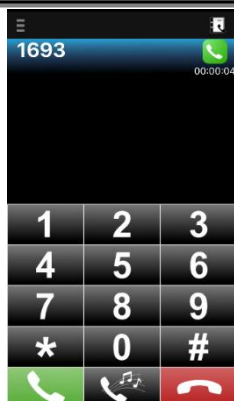


#### 【SC210】

「SC210」ボタンタップにより、SC210 画面を表示します。

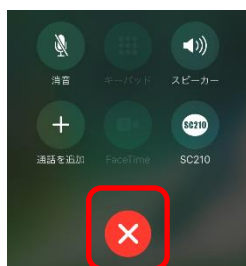
※パスコードや指紋認証によるセキュリティロックを設定している場合、ボタンタップ後、パスコード入力/指紋認証によるロック解除操作が必要です。

## 第4章 基本操作



3-5

【切断】



【切断】

「切断」ボタンタップにより、通話を切断します。

※通話切断後は端末の画面ロック状態に戻ります。

### 留意事項

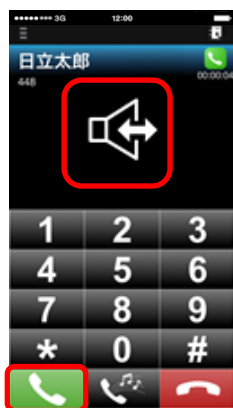
- 内線通話中の「スピーカー」ボタンタップによるハンズフリー機能について
  - ・「スピーカー」ボタンタップ操作や内線通話中の携帯着信などにより、「スピーカー」ボタンの表示状態とハンズフリーの状態が不一致になる場合があります。
  - ハンズフリーの切り替えは SC210 ボタンより SC210 画面に移動し、実施してください。切り替え手順については「4.4.1 スピーカーモードに切り替える」をご参照ください。
  - ・ハンズフリーにて携帯通話を利用中に SC210 で内線着信に応答すると、内線通話においてもハンズフリーが継続される場合があります。
  - ・通話開始時に、一瞬「スピーカー」ボタンのアイコン表示が ON になる場合があります。
  - ・携帯通話中にハンズフリーを ON/OFF する場合は、「スピーカー」ボタンにて操作を行ってください。
  - ・ハンズフリーで携帯通話⇒内線通話、内線通話⇒携帯通話とした場合、下記動作となります。
    - 内線通話⇒携帯通話:ハンズフリーが解除されます
    - 携帯通話⇒内線通話:ハンズフリーは解除されません
- 「通話を追加」ボタンタップによる連絡先画面からの転送機能について
  - ・SC210 の通話を携帯電話発信により転送することはできません。SC210 の転送は SC210 画面にて実施してください。
  - ・携帯通話を転送する場合、SC210 での転送はできません。携帯電話発信での転送操作を行ってください。
  - ※携帯電話発信による転送操作はご利用のキャリアによって別途オプションサービスの契約が必要な場合があります。
  - ・内線通話中、「通話を追加」ボタンより発信操作を行うと、SC210 が通話中であることを示すトーストメッセージが表示されます。SC210 の転送は SC210 ボタンより SC210 画面移動し、実施してください。転送手順については、「4.6 転送する」をご参照ください。


## 第4章 基本操作

### 4.4 スピーカーフォンで通話する

#### 4.4.1 スピーカーモードに切り替える

1.

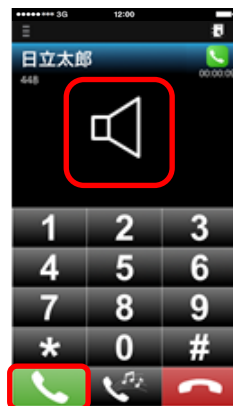



通話中に  (発信/応答)ボタンをタップするとスピーカーモードになり、スピーカーフォンで通話できます。

切り替え時、状態をアイコンで1秒程度表示します。  
左のアイコンは「スピーカーモード」です。

#### 4.4.2 スピーカーモードを解除する

1.



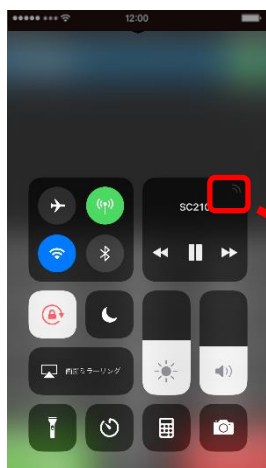
スピーカーモード実行中に、再度  (発信/応答)ボタンをタップすると通常モードに戻ります。切り替え時、状態をアイコンで表示します。

切り替え時、状態をアイコンで1秒程度表示します。  
左のアイコンは「標準モード」です。

また、通話切断時はスピーカーモードが解除されます。

#### 4.4.3 コントロールセンターでの切り替え手順

1.



端末画面の下から上にスワイプし、コントロールセンターを表示します。

SC210 操作画面の右上のボタンを押し「スピーカー」を選択すると、スピーカーモードとなります。解除は「iPhone」を選択します。

※iOSバージョンごとに差分があるため 4.13.1 をご確認ください。



### 留意事項

- スピーカーモードに変更した場合、マイク・スピーカーの音量によって、ハウリングが発生する場合があります。

## 第4章 基本操作

### 4.5 保留する

IP-PBX の製品種別により、保留時の動作が異なります。ご使用の製品を確認のうえ、参照してください。

#### 留意事項

- 保留中に保留操作者が通話を切断すると、通話相手は保留状態のまま通話が残ります。
- 保留中に切断した後の操作や動作については、IP-PBX の設定に依存します。
- モバイルネットワークで保留する場合は3分以内にしてください。
- 保留や保留解除操作により、ハンズフリーが自動的に解除される場合があります。ハンズフリーを継続する場合は再度操作を行ってください。

#### 4.5.1 SC210 画面で保留する

SC210 設定「基本通話と統合」が「ON」で、iOS 標準電話アプリ画面にて通話中の場合、SC210 ボタンタップにより SC210 画面を表示すると本操作による保留ができます。

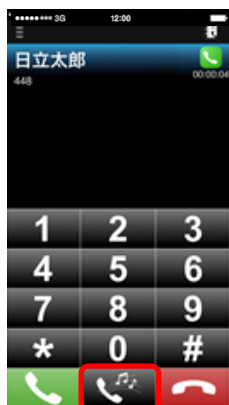
#### (1) IP-PBXの場合

1.		通話を保留するときは、ダイヤル画面下部の「保留」ボタンをタップします。
2.		保留中は、  アイコンが  となり、保留音が流れます。
3.		保留を解除するときは、再度「保留」ボタンをタップします。 保留解除後は、  アイコンが  に戻り、保留音が停止し、通話できる状態に戻ります。

## 第4章 基本操作

### (2) ビジネスホンの場合


1.



通話を保留するときは、ダイヤル画面下部の「保留」ボタンをタップします。

2.



保留中は、 アイコンが表示されたまま、セカンドダイヤルトーン「プププ」音が聞こえます。

そのしばらく後、ビジートーン「ツーツーツー」音が流れ続けますが、この間、通話相手の電話にはずっと保留メロディーが流れており、通話は保留状態のままです。

3.



保留を解除するときは、再度「保留」ボタンをタップします。

保留解除後は、セカンドダイヤルトーンとビジートーンが停止し、通話できる状態に戻ります。

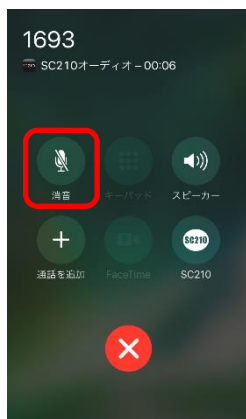
## 第4章 基本操作

### 4.5.2 iOS 標準電話アプリ画面で保留する

SC210 設定「基本通話と統合」が”ON”であり、端末の画面ロック状態で着信に応答した場合、本操作により保留することができます。

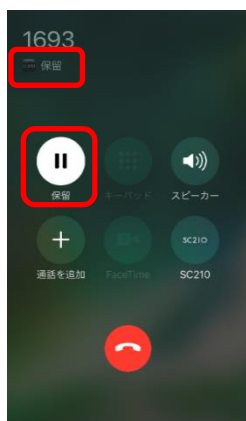
#### (1) IP-PBXの場合

1.



通話を保留するときは、iOS 標準電話アプリ画面の「消音」ボタンを長押しします。

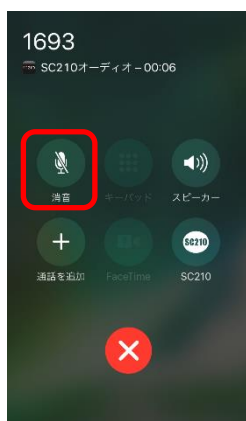
2.





保留中は、 アイコンが  となり、保留音が流れます。

また、アプリケーション名の表示が「SC210 オーディオ」から「保留」となります。

3.



保留を解除するときは、再度「保留」ボタンをタップします。

保留解除後は、 アイコンが  に戻り、保留音が停止し、通話できる状態に戻ります。

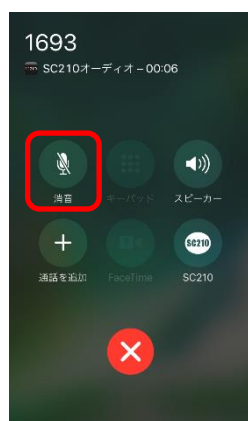
また、アプリケーション名の表示が「保留」から「SC210 オーディオ」に戻ります。



## 第4章 基本操作

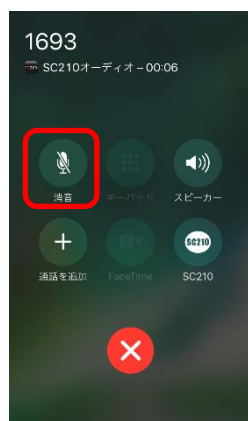
### (2) ビジネスホンの場合


1.





通話を保留するときは、iOS 標準電話アプリ画面の「消音」ボタンを長押しします。

2.

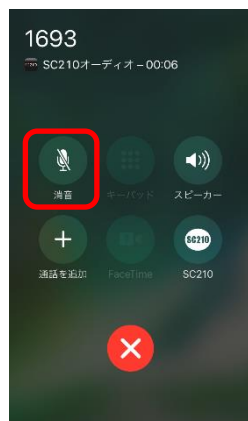


保留中は、 アイコンが表示されたまま、セカンドダイヤルトーン「プププ」音が聞こえます。



※一旦  アイコンが表示されますが、 アイコンに戻ります。

そのしばらく後、ビジートーン「ツーツーツー」音が流れ続けますが、この間、通話相手の電話にはずっと保留メロディーが流れており、通話は保留状態のままです。

3.



保留を解除するときは、再度「消音」ボタンを長押しします。

※一旦  アイコンが表示されますが、 アイコンに戻ります。

保留解除後は、セカンドダイヤルトーンとビジートーンが停止し、通話できる状態に戻ります。

## 第4章 基本操作

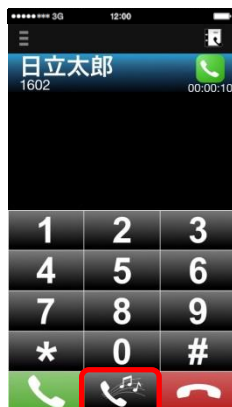
### 4.6 転送する

SC210 設定「基本通話と統合」が「ON」で、iOS 標準電話アプリ画面にて通話中の場合、SC210 ボタンタップにより SC210 画面を表示した後、本操作により転送を行ってください。

SC210 の接続先により、転送時の動作が異なります。ご使用の製品を確認のうえ、参照してください。

#### 4.6.1 IP-PBX の場合

1.



通話を転送するときは、ダイヤル画面下部の「保留」ボタンをタップします。

2.



保留中は、 アイコンが  となり、保留音が流れます。

3-1.



#### ■ダイヤルパッドから番号を入力し、転送する場合

ダイヤルパッドで①転送先の番号を入力し、②発信ボタンをタップすると、発信を開始します。

3-2.

#### ■アドレス帳(連絡先)/よく使う連絡先/履歴から番号を選択し、転送する場合

アドレス帳(連絡先)/よく使う連絡先/履歴から電話番号を選択すると自動発信します。

各画面からの電話番号選択については下記を参照ください。

#### ■アドレス帳(連絡先)から電話番号を選択

4.2.3 章 手順 1~3

#### ■よく使う連絡先から電話番号を選択

4.2.4 章 手順 1、2

#### ■履歴から電話番号を選択

4.2.5 章 手順 1、2

## 第4章 基本操作

4-1  
(a)



### 【簡易転送】

転送相手が応答前に電話を転送します。

転送先は応答前のため、アイコンは下記の状態です。



転送ボタンをタップします。

転送が完了すると、ダイヤル画面に戻ります。

4-1  
(b)

転送先が電話に応答しないと、転送元へ電話が戻ってきます。

「応答」ボタンをタップして受話します。

4-2  
(a)



### 【完全転送】

転送相手が応答してから電話を転送します。

転送先は応答後のため、アイコンは下記の状態です。



転送ボタンをタップします。


転送が完了すると、ダイヤル画面に戻ります。

※転送完了後、被転送者と転送先の通話相手表示については、IP-PBX の設定に依存します。どちらの通話中画面にも「転送者の番号」が通話相手として表示されることがあります。また、その場合、被転送者と転送先の履歴は転送者のみ、記録されます。

4-2  
(b)

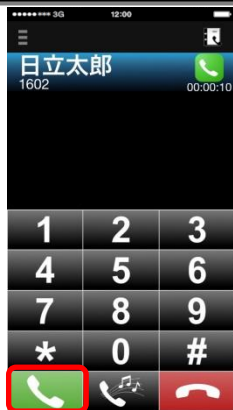


### 転送先が電話に応答しない場合

転送先の  ボタンをタップし切断します。

## 第 4 章 基本操作

4-2  
(c)



保留していた回線との通話に戻ります。



ボタンをタップして保留を解除し通話します。

## 第4章 基本操作

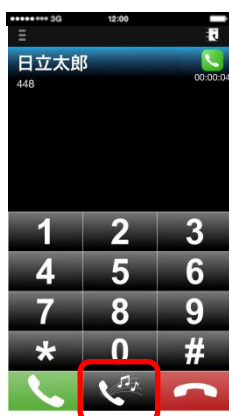
### 4.6.2 ビジネスホンの場合

#### 留意事項

■ **事前設定が必要です！**

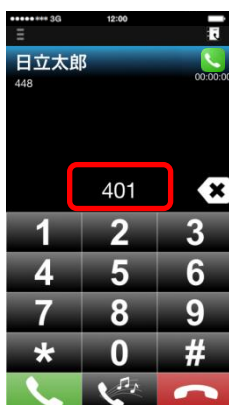
DTMF の種類を「RFC2833」に設定してください。正しく設定されていないと、転送できません。設定方法については、「2.8.3 詳細設定画面」の「表 2-9 詳細設定の設定項目(メディア)」を参照してください。

1.




通話を転送するときは、ダイヤル画面下部の「保留」ボタンをタップします。

2-1.

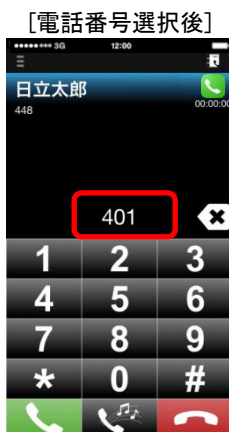


■ **ダイヤルパッドから番号を入力し、転送する場合**


 アイコンが表示されたまま、セカンドダイヤルトーン「プププ」音が聞こえている間に、転送先相手の番号を入力すると自動発信します。

※一定時間が経過するとビジートーン「ツーツーツー」音になります。ビジートーンになると転送できません。保留解除して、もう一度手順 1 から操作してください。

2-2.



■ **アドレス帳(連絡先)/よく使う連絡先/履歴から番号を選択し、転送する場合**

 アイコンが表示されたまま、セカンドダイヤルトーン「プププ」音が聞こえている間に、アドレス帳(連絡先)/よく使う連絡先/履歴から電話番号を選択すると自動発信します。選択した番号はダイヤル画面に表示されます。

各画面からの電話番号選択については下記を参照ください。

■ **アドレス帳(連絡先)から電話番号を選択**

4.2.3 章 手順 1~3

■ **よく使う連絡先から電話番号を選択**

4.2.4 章 手順 1、2

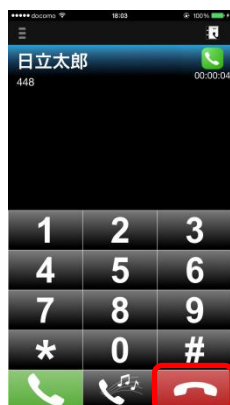
■ **履歴から電話番号を選択**

4.2.5 章 手順 1、2

※一定時間が経過するとビジートーン「ツーツーツー」音になります。ビジートーンになると転送できません。保留解除して、もう一度手順 1 から操作してください。

## 第4章 基本操作

3-1  
(a)



### 【簡易転送】

転送相手が応答前に  ボタンをタップし、電話を転送します。

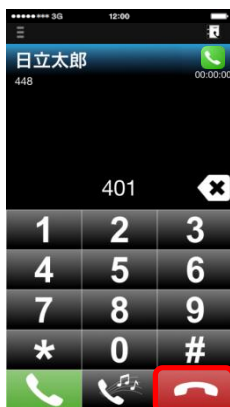
切断ボタンをタップ後は、ダイヤル画面に戻ります。

3-1  
(b)

転送先が電話に応答しないと、転送元へ電話が戻ってきます。

「応答」ボタンをタップして受話します。

3-2  
(a)



### 【完全転送】

転送相手が応答(転送相手と通話)してから、電話を転送します。

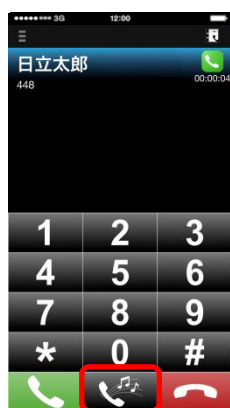
※転送先応答後も、画面表示は変わりません。

転送先と通話中に、  ボタンをタップすると電話が転送されます。

※転送完了後、被転送者と転送先のどちらの通話中画面にも「転送者の番号」が通話相手として表示されます。また、被転送者と転送先の履歴は転送者のみ、記録されます。

転送が完了すると、通常のダイヤル画面に戻ります。

3-2  
(b)



### 転送先が電話に応答しない場合

「保留」ボタンをタップすると転送先への呼出を中止(切断)し、保留回線との通話に戻ります。

### 留意事項

- 外線転送に失敗すると、通話相手は保留状態のまま通話が残ります。
- 切り戻しの操作や動作については、IP-PBX の設定に依存します。

## 第4章 基本操作

### 4.7 転送中の操作

SC210 設定「基本通話と統合」が「ON」で、iOS 標準電話アプリ画面にて通話中の場合、SC210 ボタンタップにより SC210 画面に表示を切り替えたのち、本操作により転送中の操作を行ってください。

(注)操作中は、端末のマルチタスク画面から iOS 標準電話アプリ画面へ表示を切り替えしないでください。iOS 標準電話アプリ画面の通話状態表示が実際の動作と不一致になる場合があります。

#### 4.7.1 転送中に電話を切る

IP-PBX で使用する場合、転送画面では保留中回線、および、転送先回線のそれぞれに対して切断が可能です。

表 4-2 転送中の操作

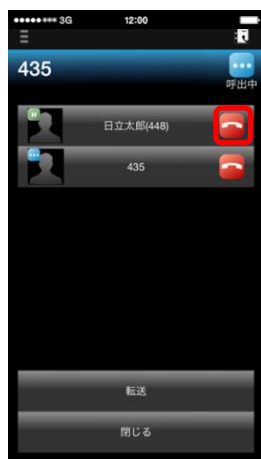
No.	操作
(1)	転送先が電話に応答する前に保留先を切断する
(2)	転送先が電話に応答する前に転送先の呼出を中止する(転送のキャンセル)
(3)	転送先が電話に応答した後に保留先を切断する
(4)	転送先が電話に応答した後、転送先を切断する


#### 留意事項

- ビジネスホンは転送画面を表示できない仕様のため、ここで説明する転送画面の切断操作はできません。

#### (1) 転送先が電話に応答する前に保留先を切断する

1.



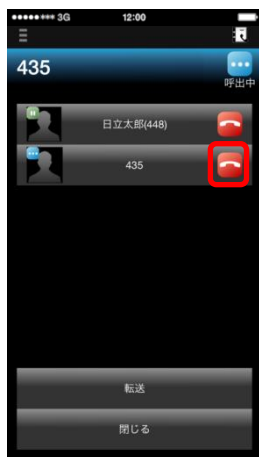
転送先が応答前に、保留中の回線側の  ボタンをタップして切断します。


保留回線側は切断され、転送先へ通常発信している状態になります。

## 第4章 基本操作

### (2) 転送先が電話に応答する前に転送先の呼出を中止する(転送のキャンセル)

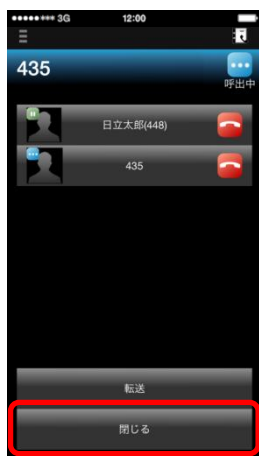
1.




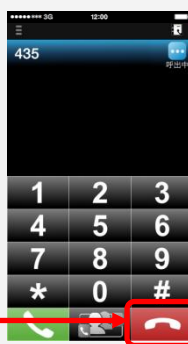
転送先が応答前に、転送先回線側の  ボタンをタップして切断します。

転送先の呼出を中止し、電話は保留状態に戻ります。

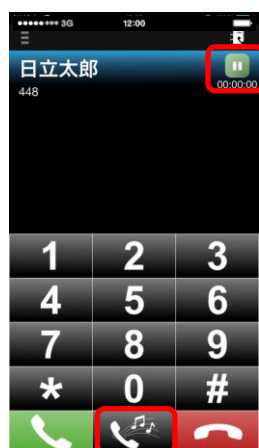
1-2.



「閉じる」をタップした後、 ボタンで切断する方法もあります。



2.



保留中は、 アイコンが  となり、保留音が流れます。

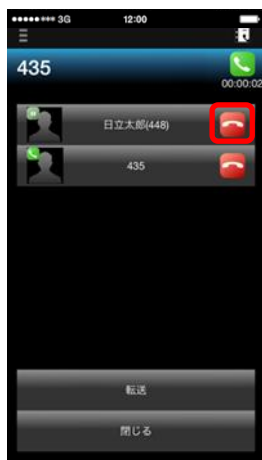
保留を解除し、通話するには  ボタンをタップします。




## 第4章 基本操作

### (3) 転送先が電話に応答した後に保留先を切断する

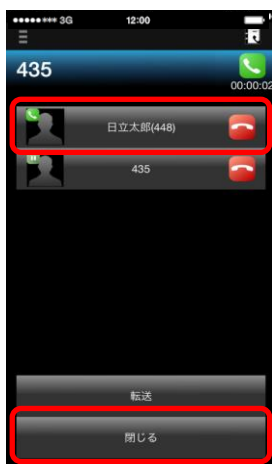
1.




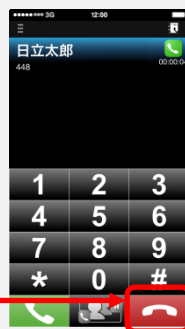
転送先と通話中に保留中の回線側の  ボタンをタップして切断します。

保留回線側は切断され、転送先と通話している状態になります。

1-2.



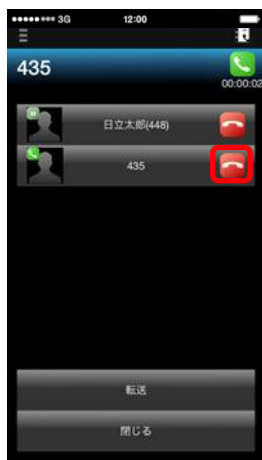
保留中の回線に通話を切り替え、「閉じる」を押してから  ボタンをタップして切断する方法もあります。




## 第4章 基本操作

### (4) 転送先が電話に応答した後に転送先を切断する

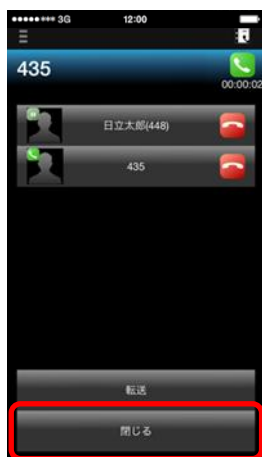
1.



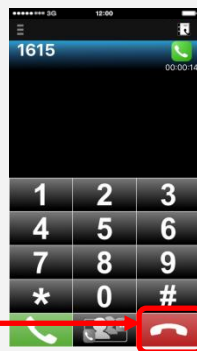
転送先と通話中に転送先回線側の  ボタンをタップして切断します。

転送先との通話を終え、電話は保留状態に戻ります。

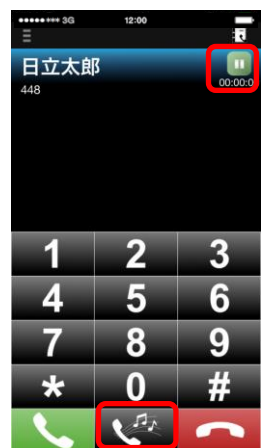
1-2.



「閉じる」をタップした後、 ボタンで切断する方法もあります。



2.



保留中は、 アイコンが  となり、保留音が流れます。

保留を解除し、通話するには  ボタンをタップします。

## 第4章 基本操作

### 4.7.2 転送中に通話相手を切り替える

IP-PBX の場合、転送画面では保留中の相手と転送先の相手と通話相手を切り替えることが可能です。

#### 留意事項

- ビジネスホンでは転送画面を表示できない仕様のため、ここで説明する通話相手の切り替え操作はできません。

1.



転送先との通話を保留し、発信者との会話に切り替えるには、通話したい相手をタップすることで切り替えをします。

2.



転送先は保留となり、発信者と会話することができます。

## 第4章 基本操作

### メモ

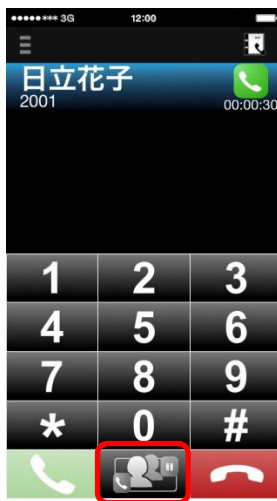
- 転送中にダイヤル画面を表示したいときは、下記の手順で行います。

1.



転送画面で「閉じる」ボタンをタップします。

2.



ダイヤル画面では通話中回線の操作が可能です。

転送画面に戻るときは、 ボタンをタップします。

## 第4章 基本操作

### 4.8 内線通話中に携帯発信/着信する

#### 4.8.1 携帯発着信時の動作を設定する

SC210 設定「基本通話と統合」が“OFF”の場合、本動作の設定が可能です。

内線通話中や保留中に携帯発信/着信する場合、設定項目「携帯発着信時の動作」の設定値により SC210 の動作が異なります。動作内容は下記の通りです。

表 4-3 設定項目「携帯発着信時の動作」

No.	設定値	動作
1	SC210 を保留 (初期値)	内線通話を保留して、携帯通話します(*)。 保留が出来ない状態で保留状態になる場合、通常の保留音と異なる音(ポッポーン・・・ポッポーン・・・)が聞こえる状態になります。
2	SC210 を切断	内線通話を切断して、携帯通話します。

(\*) 携帯通話切断後、内線通話を再開する場合は保留ボタンをタップしてください。

#### メモ

- 「携帯発着信時の動作」は、「設定」→「詳細設定」→「一般」で設定できます。  
詳細は、「2.8.3 詳細設定画面」の「表 2-10 詳細設定の設定項目(一般)」を参照してください。

#### 留意事項

- 「SC210 を保留」を選択した場合、内線が着信中、発信中のときは、内線は切断されます。
- IP-PBX の場合
  - ・「SC210 を保留」を選択した場合、保留中に携帯発信/着信した際は、内線電話の保留音が停止されます。携帯通話切断後、保留音が再開します。自身で保留を開始した場合は保留ボタンをタップして、内線通話を再開してください。相手が保留を開始した場合はそのままお待ちください。  
※携帯通話中に相手が保留解除した場合は、保留を自動実施して内線通話の保留を継続します。保留が完了するまでの間、通常の保留音と異なる音(ポッポーン・・・ポッポーン・・・)が聞こえる状態になります。携帯通話切断後は、保留ボタンをタップして、内線通話を再開する必要がありますので、ご注意ください。
  - ・「SC210 を保留」を選択した場合、転送通話中に携帯発信/着信した際は転送先との通話が切断され、被転送者との保留状態となります。

## 第4章 基本操作

- ビジネスホンの場合
  - ・integral-F(02-01 版以下)の場合、「SC210 を切断」を選択してください。
  - ・「SC210 を保留」を選択した場合、保留中、転送発信中、転送通話中に携帯発信/着信した際は、**被保留者の保留音は通常の保留音と異なる音(ポップーン…ポップーン…)**となります。通話が終了した後は、**内線通話は自動的に復帰します**。
  - また、「SC210 を切断」を選択した場合、転送発信中または転送通話中に携帯発信/着信したとき、**内線は自動的に転送を行います**。
  - ※携帯通話切断後の内線通話において、端末により音声相手が相手に聞こえにくくなる場合があります。その場合はスピーカーモードへの切り替え/解除操作(手順は「4.4 スピーカーフォンで通話する」を参照)を行うか、もしくは内線電話をおかけ直してください。
- au 端末(VoLTE 対応機種を除く)の場合、「SC210 を保留」が選択されている場合でも**通話を切断しません**(au 端末(VoLTE 対応機種を除く)は着信時データ通信ができず、内線電話の保留処理ができないため)。au 端末(VoLTE 対応機種)の場合は、通話を保留します。
- モバイルネットワーク接続中に携帯発着信をすると 4G が 5G に変更となり、IP アドレスが変更となる場合があります。この時 SIP サービスの再起動が実施されるため切断される場合があります。
- 会議通話中に携帯発信/着信があった場合、会議通話の保留操作ができないため、「携帯発信時/着信時の動作」「携帯発信時/応答時の動作」の設定に関わらず、携帯着信時または応答時に会議通話を切断します。
- 「携帯発信時/応答時の動作」において、Bluetooth 機器接続中は割り込み着信音の聴取ができないため、携帯電話着信を優先し、携帯着信音が鳴動します。
  - ・内線通話中の場合、携帯着信時に内線通話を保留/切断します。
  - ・会議通話中の場合、会議通話の保留操作ができないため、「携帯発信時/応答時の動作」の設定に関わらず、携帯着信時に会議通話を切断します。

# 第4章 基本操作

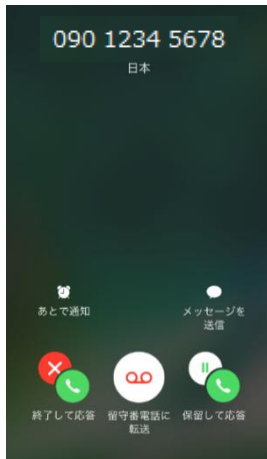
## 4.8.2 iOS 標準電話アプリ画面で動作を設定する

SC210 設定「基本通話と統合」が「ON」の場合、本操作により動作を設定することができます。

### (1) 内線通話中や保留中に携帯着信する場合

内線通話中や保留中に携帯着信する場合、携帯着信時に内線着信の保留/切断(携帯発信時は保留のみ)を選択できます。動作内容は下記の通りです。

1.



内線通話中に携帯着信があった場合、左図の着信画面が表示されます。

※携帯着信音およびバイブレーションは鳴動しません。内線通話の音声に割り込み音(プップ)が15秒鳴動します。

各ボタンのタップにより、内線通話および携帯着信に対する動作を選択することができます。

2-1.

#### 【あとで通知】



#### 【あとで通知】

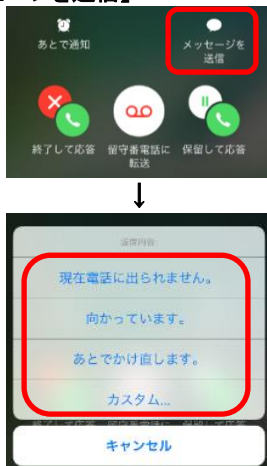
[あとで通知]ボタンをタップした場合、通知のタイミングを選択する画面が表示され、選択後、下記動作となります。

内線通話 : 継続  
携帯着信 : 拒否

ボタンタップ後は内線通話中の画面に戻ります。

2-2.

#### 【メッセージを送信】



#### 【メッセージを送信】

[メッセージを送信]ボタンをタップした場合、携帯着信の相手にメッセージを送信します。

メッセージの選択画面が表示され、選択後、下記動作となります。

内線通話 : 継続  
携帯着信 : 拒否

メッセージ送信後は内線通話中の画面に戻ります。

## 第4章 基本操作

### 2-3. 【留守番電話に転送】



### 【留守番電話に転送】

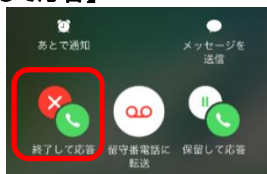
[留守番電話に転送]ボタンをタップした場合、下記動作となります。

内線通話：継続  
携帯着信：転送(拒否)(※)

ボタンタップ後は内線通話中の画面に戻ります。

(※)携帯着信を通信キャリアの留守番電話に転送します。  
なお、留守番電話については、ご利用の通信キャリアにより、オプションサービスの契約が必要な場合があります。対応していない場合は、携帯着信は切断となりますので、ご注意ください。

### 2-4. 【終了して応答】



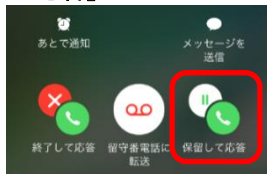
### 【終了して応答】

[終了して応答]ボタンをタップした場合、下記動作となります。

内線通話：切断  
携帯着信：応答

ボタンタップ後は携帯通話中の画面となります。

### 2-5. 【保留して応答】



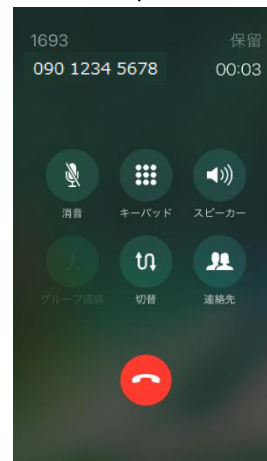
### 【保留して応答】

[保留して応答]ボタンをタップした場合、下記動作となります。

内線通話：保留  
携帯着信：応答

ボタンタップ後は内線通話、携帯通話の状態が表示された通話中画面となります。

通話中画面については、「3.6.6 携帯通話中かつ内線保留中画面」を参照ください。





# 第4章 基本操作

## (2) 内線転送通話中に携帯着信する場合

内線転送通話中に携帯着信する場合、携帯着信時に内線転送通話の保留および保留通話の切断もしくは内線転送通話の切断を選択できます。動作内容は下記の通りです。

1.



内線転送通話中に携帯着信があった場合、左図の着信画面が表示されます。

※携帯着信音およびバイブレーションは鳴動しません。内線通話の音声に割り込み音(ププツ)が15秒鳴動します。

各ボタンのタップにより、内線転送通話および携帯着信に対する動作を選択することができます。

2-1.

### 【あとで通知】



### 【あとで通知】

[あとで通知]ボタンをタップした場合、通知のタイミングを選択する画面が表示され、選択後、下記動作となります

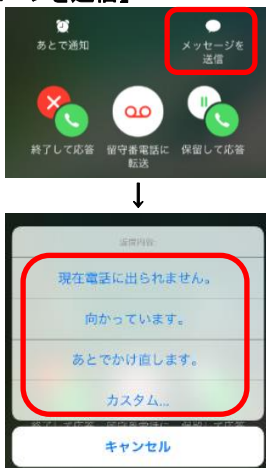
内線転送通話：継続

携帯着信：拒否

ボタンタップ後は内線転送通話中の画面に戻ります。

2-2.

### 【メッセージを送信】



### 【メッセージを送信】

[メッセージを送信]ボタンをタップした場合、携帯着信の相手にメッセージを送信します。

メッセージの選択画面が表示され、選択後、下記動作となります。

内線転送通話：継続

携帯着信：拒否

メッセージ送信後は内線転送通話中の画面に戻ります。

## 第4章 基本操作

### 2-3. 【留守番電話に転送】



### 【留守番電話に転送】

[留守番電話に転送]ボタンをタップした場合、下記動作となります。

内線転送通話：継続  
携帯着信：転送(拒否)(※)

ボタンタップ後は内線転送通話中の画面に戻ります。

(※)携帯着信を通信キャリアの留守番電話に転送します。  
なお、留守番電話については、ご利用の通信キャリアにより、オプションサービスの契約が必要な場合があります。対応していない場合は、携帯着信は切断となりますので、ご注意ください。

### 2-4. 【終了して応答】



### 【終了して応答】

[終了して応答]ボタンをタップした場合、下記動作となります。

内線通話(転送先)：切断  
内線通話(保留先)：保留  
携帯着信：応答

ボタンタップ後は携帯通話中の画面となります。

### 2-5. 【保留を終了して応答】



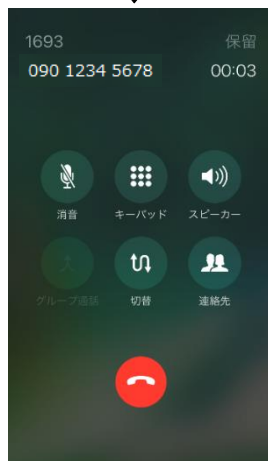
### 【保留を終了して応答】

[保留を終了して応答]ボタンをタップした場合、下記動作となります。

内線通話(転送先)：保留  
内線通話(保留先)：切断  
携帯着信：応答

ボタンタップ後は内線通話、携帯通話の状態が表示された通話中画面となります。

通話中画面については、「3.6.6 携帯通話中かつ内線保留中画面」を参照ください。



### (3) 内線通話中や保留中、内線転送通話中に携帯発信する場合

内線通話中や保留中、内線転送通話中に携帯発信する場合、携帯発信時に内線通話は保留(保留中の場合は保留継続)となります。

## 第4章 基本操作



### メモ

- SC210 転送発信中の携帯着信について  
SC210 で転送発信中に内線通話を保留／切断し、携帯着信に応答する場合、下記操作を行ってください。なお、転送発信中の通話は切断となりますので、ご注意ください。
  - ① 携帯着信時、転送発信中の通話が切断されます。
  - ② 【内線通話を保留する場合】  
[保留して応答]ボタンをタップします。保留中の通話は保留継続となります。  
【内線通話を切断する場合】  
[切断して応答]をタップします。保留中の通話は切断となります。
  - ③ 携帯通話が開始されます。
  - ④ 内線通話を保留した場合、[切替]ボタンまたは[切断]ボタンで携帯通話を切断により、保留中の通話と通話を再開できます。
  
- SC210 転送通話中の携帯着信について  
SC210 で転送通話中に内線通話を保留／切断し、携帯着信に応答する場合、下記操作を行ってください。なお、携帯着信応答後、保留中／転送通話中の通話は切断となりますので、ご注意ください。
  - ① 【転送通話中の通話(転送先通話)を保留する場合】  
[保留を終了して応答]ボタンをタップします。  
保留中の通話が切断され、転送通話中の通話が保留となります。  
【転送通話中の通話(転送先通話)を切断する場合】  
[終了して応答]ボタンをタップします。  
転送通話中の通話が切断され、保留中の通話が保留継続となります。
  - ② 携帯通話が開始されます。
  - ③ [切替]ボタンまたは[切断]ボタンで携帯通話を切断により、保留中の通話と通話を再開できます。

# 第4章 基本操作

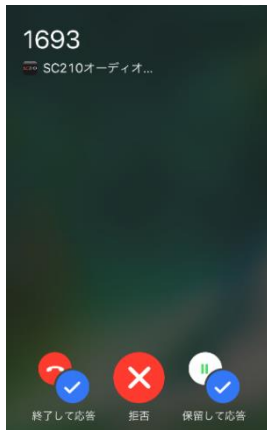
## 4.9 携帯通話中に内線着信する

### 4.9.1 iOS 標準電話アプリ画面で動作を設定する

SC210 設定「基本通話と統合」が”ON”の場合、本操作により動作を設定することができます。

携帯通話中に内線着信を受け付け、内線着信の応答/切断が選択できます。

1.



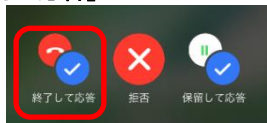
携帯通話中に内線着信があった場合、左図の着信画面が表示されます。

※内線着信音およびバイブレーションは鳴動しません。携帯通話の音声に割り込み音(プップ)が15秒鳴動します。

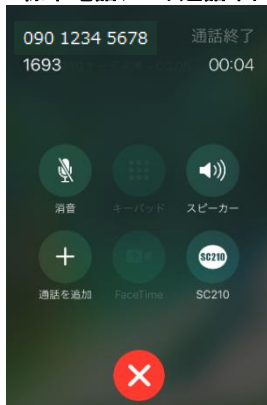
各ボタンのタップにより、携帯通話および内線着信に対する動作を選択することができます。

2-1.

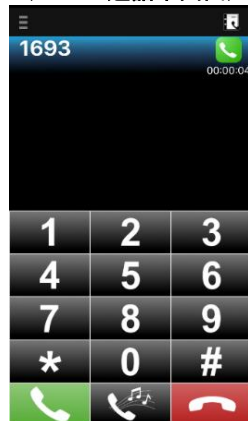
【終了して応答】



(iOS 標準電話アプリ通話中画面)



(SC210 通話中画面)



【終了して応答】

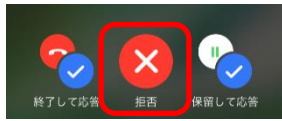
[終了して応答]ボタンをタップした場合、下記動作となります。

携帯通話 : 切断  
内線着信 : 応答

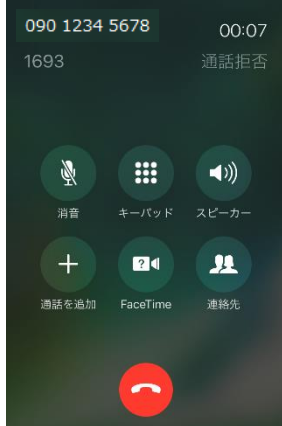
ボタンタップ後はiOS標準電話アプリの通話中画面が約1秒表示されたあと、SC210の通話中画面に切り替わります。

## 第4章 基本操作

### 2-2. 【拒否】



(iOS 標準電話アプリ通話中画面)



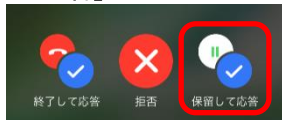
### 【拒否】

[拒否]ボタンをタップした場合、下記動作となります。

携帯通話：継続  
内線着信：拒否

ボタンタップ後は携帯通話中の画面となります。

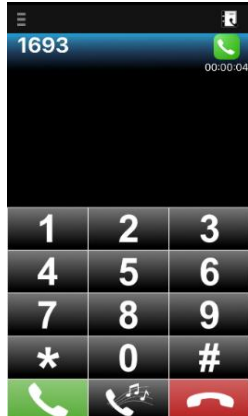
### 2-3. 【保留して応答】



(iOS 標準電話アプリ通話中画面)



(SC210 通話中画面)



### 【保留して応答】

[保留して応答]ボタンをタップした場合、下記動作となります。

携帯通話：保留(※1)  
内線着信：応答

ボタンタップ後は iOS 標準電話アプリの通話中画面が約 1 秒表示されたあと、SC210 の通話中画面に切り替わります。(※2)(※3)  
内線通話切断後は携帯通話に戻ります。

(※1) 携帯通話の保留においては、ご利用の通信キャリアによってオプションサービスの契約が必要な場合があります。保留に対応していない場合は、携帯通話は切断となりますので、ご注意ください。

(※2) IP-PBX の製品種別により、内線通話中画面にて「消音」ボタンをタップした場合の動作が異なります。ご使用の製品を確認のうえ、参照してください。

・IP-PBX の場合：「消音」ボタンタップで保留ができません(一瞬、保留音が鳴動しますが、すぐに通話状態に戻ります)。

・ビジネスホンの場合：「消音」ボタンタップで保留/保留解除ができます。

(※3) 「切替」ボタンタップにより携帯通話に切り替えた場合の画面については、「3.6.6 携帯通話中かつ内線保留中画面」を参照ください。

## 第4章 基本操作

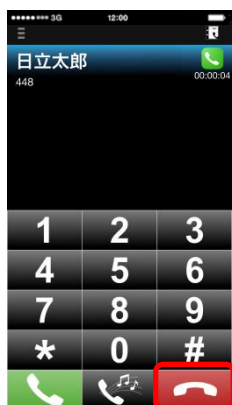
### 4.10 電話を切る

#### 留意事項

- 通話前に音楽/動画を再生していた場合、電話を切ると通話中に停止していた音楽/動画が再生します。

#### 4.10.1 SC210 画面で電話を切る

1.

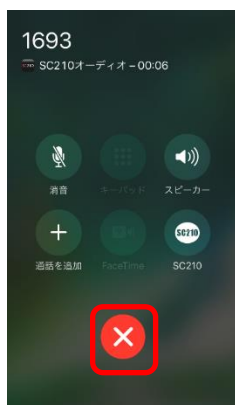


通話を終了するときは、 ボタンをタップします。

#### 4.10.2 iOS 標準電話アプリ画面で電話を切る

SC210 設定「基本通話と統合」が”ON”、端末の画面ロック状態で着信に応答した場合、本操作による切断が可能です。

1.

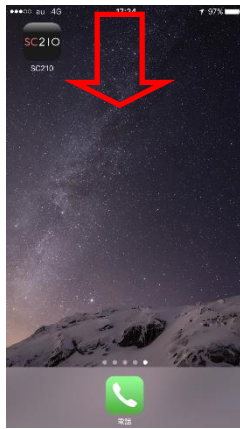


通話を終了するときは、 ボタンをタップします。

## 第4章 基本操作

### 4.11 通知センターの不在着信を確認する

1.



不在着信があるとスマートフォンの通知センターに①「不在着信」アイコンを表示します。

さらに、②ステータスバーを下にドラッグすると、「通知領域」が表示されます。

不在着信があるときの SC210 アイコン



2.



「通知センター」に表示された「不在通知」をタップします。

3.



SC210 の履歴画面が開き、不在着信の相手を確認します。

#### 留意事項

- SC210 設定「基本通話と統合」が”OFF”の場合、携帯電話の呼出中/着信中/通話中に着信を受けた場合は不在着信表示および履歴への保存は実施されません。

## 第4章 基本操作


### 4.12 発着信履歴を確認する

#### 4.12.1 SC210 画面の発着信履歴

##### (1) 発着信履歴を確認する

1.



画面左上の  アイコンをタップすると、画面切り替えメニューが表示されます。

「履歴」をタップします。

2.



履歴一覧が表示されます。

履歴の表示内容については、「3.2 よく使う連絡先画面」を参照してください。




## 第4章 基本操作

### (2) 発着信履歴を削除する

1.



画面左上の  アイコンをタップすると、画面切り替えメニューが表示されます。

「履歴」をタップします。

2.



をタップすると、履歴編集モードになります。

3




「個別削除」または「全件削除」を選択します。

「個別削除」は手順 4-1 以降で、「全件削除」は手順 5-1 以降で説明します。

## 第4章 基本操作

4-1



個別削除を実施します。  
削除したい履歴の選択ボタン  をタップします。

※複数指定はできません。

4-2



表示された「削除」ボタンをタップして、選択した履歴を削除します。  
「削除」以外をタップすると選択が解除されます。

4-3



 をタップすると、履歴編集モードを終了します。

## 第4章 基本操作

4-4



履歴表示画面に戻ります。  
この状態で履歴を左にスライドし、「削除」ボタンをタップして削除する方法もあります。



5-1



全件削除する場合、「OK」を選択します。  
「キャンセル」を選択すると手順3に戻ります。

5-2



全件削除後、履歴変更モードは解除されます。


## 第4章 基本操作

### (3) 発着信履歴から連絡先に追加する

#### ■新規連絡先を作成する

1.



画面左上の  アイコンをタップすると、画面切り替えメニューが表示されます。

「履歴」をタップします。

2.



アドレス帳へ登録したい電話番号を長押しします。

3.



「MENU」が表示されます。「連絡先に追加」をタップします。

## 第4章 基本操作

4.



作成したい連絡先を表示します。「新規連絡先を作成」をタップします。

5.



新規に作成した連絡先が表示されます。

「完了」をタップすると新規連絡先が登録され、履歴画面に戻ります。

「キャンセル」をタップすると、履歴画面に戻ります。

6.



アドレス帳への登録が終了します。


登録結果は自動的に反映されます。反映されない場合は、アドレス帳の読み込みが必要です。詳細については「2.9 アドレス帳を読み込む」を参照してください。

## 第4章 基本操作

### ■既存の連絡先に追加する

1.



画面左上の  アイコンをタップすると、画面切り替えメニューが表示されます。

「履歴」をタップします。

2.



アドレス帳へ登録したい電話番号を長押しします。

3.



「MENU」が表示されます。「連絡先に追加」をタップします。

## 第4章 基本操作

4.



追加したい連絡先を表示します。「既存の連絡先に追加」をタップします。

5.



連絡先の一覧が表示されます。電話番号を追加したい連絡先をタップすると、電話番号が追加されます。

「キャンセル」をタップすると、履歴画面に戻ります。

次に追加された電話番号の設定画面について、6で説明します。

6.



ラベル「SC210」の項目に電話番号が追加されました。「アップデート」をタップすると登録され、履歴画面に戻ります。「キャンセル」をタップすると、履歴画面に戻ります。

## 第4章 基本操作

7.



アドレス帳への登録が終了します。

登録結果は自動的に反映されます。反映されない場合は、アドレス帳の読み込みが必要です。  
詳細については「2.9 アドレス帳を読み込む」を参照してください。

### 留意事項

- SC210 設定「発着信履歴の保存」にて、発着信履歴の保存有無を選択することが可能です。「2.8.3 詳細設定画面」の「表 2-10 詳細設定の設定項目（一般）」を参照してください。
- 同じ電話番号が複数登録されている場合、履歴に表示される氏名はいずれかの名前が1つ表示されます。
- 履歴に表示されている当該電話番号の連絡先を変更した場合、名前は表示されなくなります。  
※ただし、該当する電話番号が連絡先に登録されていた場合は、当該電話番号の名前が表示されます。
- 非通話時および保留中は、画面切り替えメニュー表示で「履歴」をタップし、「履歴」のリストをタップすることで発信することができます。
- 通話中は、履歴の編集（「履歴」メニューボタンのタップ、「履歴」リストの削除、「履歴」リストの長押し）はできません。
- 連絡先登録中に着信を受けた場合、登録中の連絡先画面が非表示となり着信画面が表示されます。



## 第 4 章 基本操作

### 4.12.2 iOS 標準電話アプリ画面の発着信履歴

SC210 設定「基本通話と統合」が”ON”の場合、本操作が可能です。

1.



SC210 設定「基本通話と統合」が”ON”の場合、端末の電話アプリと SC210 の発着信履歴の両方に履歴が保存されます。

### 留意事項

- SC210 設定「発着信履歴の保存」にて、発着信履歴の保存有無を選択することが可能です。「2.8.3 詳細設定画面」の「表 2-10 詳細設定の設定項目（一般）」を参照してください。

## 第4章 基本操作

### 4.13 音量を調整する

#### 4.13.1 音量の調整について

SC210 画面表示中とホーム画面などの表示中は、発生音量が異なります。音量の調整ができるタイミングと音量設定方法を下記に示します。音量調整が有効にならない場合があるためコントロールセンターは使用しないでください。コントロールセンターにて音量調整した場合はスピーカーの音量調整はハードボタン、マイクの音量調整は SC210 の設定画面のマイク音量調整バーにて再度調節してください。

表 4-4 音量調整可能タイミングと音量設定方法

No.	種類	画面状態	音量内容	音量操作項目
1.	発信音/ 呼出音	SC210 表示	鳴動中の音量操作	・「ハードボタン」で調整、消音
			スピーカーモード切り替え	コントロールセンター「AirPlay」(*1)で切り替え
		ロック画面	鳴動中の音量操作(*4)	・「ハードボタン」で調整、消音
			スピーカーモード切り替え	コントロールセンター「AirPlay」(*1)で切り替え
2.	着信音 (*2)	SC210 表示	鳴動中の音量操作	・「ハードボタン」で調整、消音
			スピーカーモード切り替え	変更できません
		ホーム、 ロック画面他 (*3)	鳴りはじめの音量	・OS「設定」「サウンド」「着信音と通知音」の設定 (非通話時に設定)
			鳴動中の音量操作	・「ハードボタン」で消音
			スピーカーモード切り替え	変更できません
3.	通話音/ 保留音	SC210 表示 通話中/ 保留中	鳴動中の音量操作	・「ハードボタン」で調整、消音
			スピーカーモード切り替え	・SC210「(発信/応答)ボタン」で切り替え
		ロック画面	鳴動中の音量操作	・「ハードボタン」で調整、消音 ・ロック画面上の「音量バー」で調整
			スピーカーモード切り替え (*4)	・ロック画面上のスピーカーボタンで切り替え
4.	PB 音/ BT 音	SC210 表示 通話中	鳴りはじめの音量	OS「設定」「サウンド」「着信音と通知音」の設定 (非通話時に設定)
			鳴動中の音量操作	・「ハードボタン」で調整、消音
			スピーカーモード切り替え	変更できません
		ロック画面	鳴動中の音量操作	・「ハードボタン」で調整、消音
			スピーカーモード切り替え	変更できません

(\*1)使用状況により、コントロールセンター「AirPlay」の項目が表示されない場合があります。

iOS11 以上の場合、コントロールセンターの通知画面に表示される SC210 操作画面の右上のボタンを押し、切り替えを行ってください。また、端末付属のイヤホンマイク接続中のスピーカーモード切り替えはできません。

(\*2)着信中の音量はホーム画面、ロック画面他と SC210 画面との音量は異なりますので注意してください。

(\*3)BG 着信時の着信音設定:無効にする選択時、ホーム画面、ロック画面他にて着信中に放置すると 30 秒後に無音となりますが、バイブレーションは継続します。また、着信音発生中にホームボタンなどのハードボタンを操作すると無音とすることができ、着信音のみ消すことができます。なお、BG 着信時の着信音設定:有効にする選択時は SC210 表示時と同様となります。

(\*4)iOS11 以降のみの機能となります。

## 第4章 基本操作

### 4.13.2 着信音量を調整する

内線着信中に端末本体の音量調整ボタンを使用して音量調整が可能です。ただし、SC210 の画面ロック中や OS の画面ロック中は音量調整できません。

着信音の鳴動有無は、携帯電話着信と同様に、端末本体のサイレントスイッチ(ハードボタン)で指定できます。

また、着信時のバイブレーション有無は、携帯電話着信と同様に、端末設定の「サウンドと触覚」メニューで指定できます。

### 4.13.3 スピーカー音量を調整する

スピーカー音量は、表 4-4 音量調整可能タイミングと音量設定方法の No.1,2,3,4 の音量です。

非通話時、着信時およびスピーカーモード時に、音量調整が可能です。

非通話時の音量は、OS「設定」「サウンド」「着信音と通知音」で調整します。

発着信時、スピーカーモード時は音量調整ボタンにて行います。

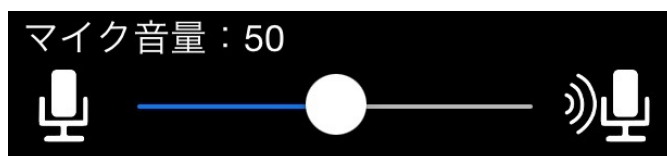
(\*5)(\*6)

### 4.13.4 受話音量を調整する

内線通話中に端末本体の音量調整ボタンを使用して音量調整が可能です。(\*5)(\*6)

### 4.13.5 マイク音量を調整する

設定画面の(マイク音量調整バー)を左右にスライドさせることで、マイク音量(内線通話時の相手へ聞こえる自分の音声)を調整することができます。マイク音量は「0~100」の範囲で数値表示されます。(\*6)



## 第4章 基本操作

### 4.13.6 その他音量調整

端末操作音(タッチ音/選択時の操作音/スクリーンロック音)は端末の設定に依存しています。操作音は端末機能のため、設定方法については端末の取扱説明書を参照してください。

(\*5)音量調整ボタンを押下した場合は「スピーカーのアイコン」と現在の音量が表示されます。表示されない場合は、コントロールセンターを開くことで表示されるようになります。

(\*6)切り替えメニューに、マイク音量、スピーカー音量が表示されます。スピーカー音量は、スピーカー音量と受話音量を示します。



## 第4章 基本操作

### 4.14 着信音の設定をする

#### 4.14.1 SC210の着信音について

SC210の着信音はSC210画面表示中と非表示中(ホーム画面などの表示中)および設定により、動作が異なります。内線着信時の着信音とその操作について下記に示します。

#### (1) SC210設定「基本通話と統合」が無効の場合

表 4-5 SC210の着信音について(基本通話と統合:無効)

No.	項目	SC210画面表示	SC210画面非表示(*9)	
			BG着信時の着信音 設定:有効にする	BG着信時の着信音 設定:無効にする
1.	着信音	SC210着信音設定(*1)	標準音(*2)	
2.	着信音鳴動時間 通知(*10) バナー(*10)	着信音鳴動	30秒(*3)(*4)	
			5秒(*11)	
3.	着信音鳴動時間(ロック画面)	-	10秒(*12)	30秒
4.	着信中、 ホームボタン操作	着信音停止(*4)	着信音鳴動	
5.	着信中、 電源、音量ボタン操作	着信音鳴動	着信音停止(*4)	
6.	着信中、 サイレントスイッチ設定	【設定と連動】 ON:着信音消音 OFF:着信音鳴動	【設定と連動なし】(*5) ON:着信音鳴動 OFF:着信音鳴動	【設定と連動】(*6) ON:着信音消音 OFF:着信音消音
7.	着信中、 画面表示/非表示切り替え	※表示→非表示 着信音停止(*5)	※非表示→表示 着信音鳴動(*7)	
8.	おやすみモード設定中、 着信	着信音鳴動	着信音消音(*8)	

(\*1) 設定されている着信音(IP-PBX 鳴り分け設定、ビジネスホン鳴り分けを含む)で鳴動します。

「4.14.2 SC210の着信音を設定する」により、着信音は変更することができます。

(\*2) 標準音固定となります。着信音の変更、IP-PBX 鳴り分け設定、ビジネスホン鳴り分けによる着信音鳴動はできません。着信音の鳴動有無については、端末の「設定」-「SC210」-「通知」-「サウンド」設定と連動します。

(\*3) 着信中に一定時間放置したままにすると、着信音は30秒で停止します。

(\*4) 着信音は鳴動停止となりますが、バイブレーションは継続します。

(\*5) サイレントスイッチ ON の場合も着信音が鳴動します。ハードボタン操作により、着信音の消音が可能です。

(\*6) サイレントスイッチの設定を切り替えた場合は下記動作となります。

・ON → OFF : 着信音消音 → 着信音消音 ※数回鳴動後に消音となります。

・OFF → ON : 着信音鳴動 → 着信音消音

(\*7) SC210 着信音設定による着信音にて鳴動します。

(\*8) おやすみモード設定中、着信音は消音となります。バイブレーションは設定に従い、鳴動します。

(\*9) 着信のバナーが表示されている場合、バナーを非表示(上方向にスワイプ)にすることで着信音の鳴動が停止します。

(\*10) iOS11 以降では「通知」は「持続的」、「バナー」は「一時的」となっております。

(\*11) 通知表示終了と同時に停止します。

(\*12) 画面 OFF 時に停止します。

## 第4章 基本操作

(2) SC210設定「基本通話と統合」が有効の場合

表 4-6 SC210 の着信音について(基本通話と統合:有効)

No.	項目		iOS 標準電話アプリ画面にて SC210 着信
1.	着信音	鳴り分け設定:あり	鳴り分け設定された着信音(*1) (*2)
		鳴り分け設定:なし	標準音(*1) (*3)
2.	着信音鳴動時間		着信停止まで鳴動
3.	着信音鳴動時間(ロック画面)		着信停止まで鳴動
4.	着信中、 ホームボタン操作		着信音鳴動
5.	着信中、 電源、音量ボタン操作		(電源、音量ボタン 1 回押下) 着信音停止 (電源ボタン 2 回押下) 着信拒否
6.	着信中、 サイレントスイッチ設定		【設定と連動】(*4) ON:着信音消音 OFF:着信音鳴動
7.	着信中、 画面表示/非表示切り替え		—
8.	おやすみモード設定中、 着信		着信音消音(*5)

(\*1) 「4.14.2 SC210 の着信音を設定する」による、着信音の変更は無効となります。着信音が「標準音」以外に変更されている場合は、鳴り分け設定の有無により、下記動作となります。

・鳴り分け設定:あり

IP-PBX 鳴り分け設定あり:「鳴り分け設定された着信音」が鳴動します。

ビジネスホン鳴り分け設定:「標準音」で鳴動します。

・鳴り分け設定:なし

「標準音」で鳴動します。

(\*2) IP-PBX 鳴り分け設定、ビジネスホン鳴り分けで設定されている着信音で鳴動します。

(\*3) 標準音固定となります。

(\*4) サイレントスイッチの設定を切り替えた場合は下記動作となります。

・ON → OFF : 着信音消音 → 着信音消音

・OFF → ON : 着信音鳴動 → 着信音消音 ※再度 ON にした場合も消音のままとなります。

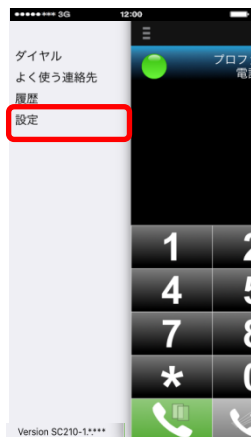
(\*5) おやすみモード設定中、着信音は消音となります。バイブレーションは設定に従い、鳴動します。


## 第4章 基本操作

### 4.14.2 SC210 の着信音を設定する

SC210 設定「基本通話と統合」が「OFF」の場合、本操作による着信音変更が可能です。

1.



画面左上の  アイコンをタップすると、画面切り替えメニューが表示されます。

「設定」をタップします。

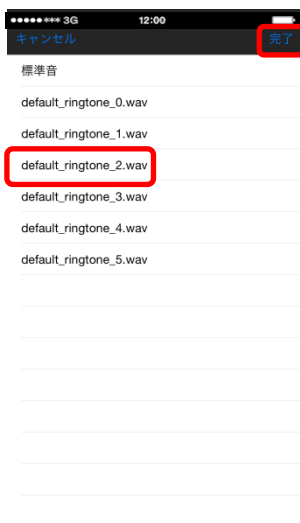
2.



設定画面が開きます。

画面一番下の着信音のボタンをタップします。

3.



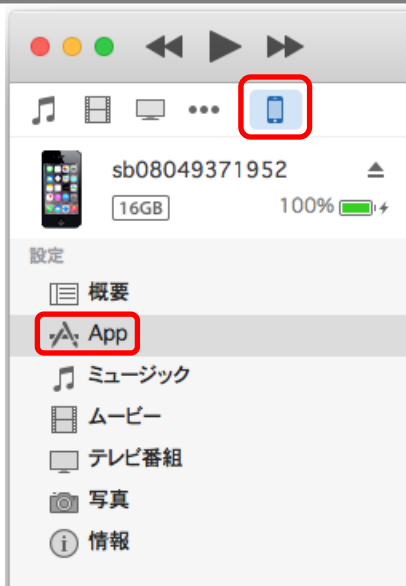
端末にある着信音が表示されます。着信音を選択し、「完了」をタップします。

※SC210 で利用する着信音ファイルは事前に iTunes を使用して登録する必要があります。4.以降で説明します。

※標準音に戻すには、「標準音」を選択してください。

## 第4章 基本操作

4.



PCのiTunesを起動しておき、着信音を設定したい端末を接続し、その後、接続した端末をiTunes上で選択します。

次に、「App」を選択します。

5.

### ファイル共有

以下のAppでは、iPhoneとこのコンピュータとの間で書類を

### App



次に、「SC210」を選択します。

6.

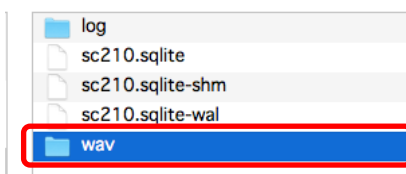
### ■追加ボタン



### ■wavフォルダ選択後

を転送できます。

### SC210の書類



画面左に「SC210の書類」が表示されます。

下部にある「追加」ボタンをクリックして、追加したい着信音ファイルの入った「wav」フォルダを選択します。

※フォルダ追加の方法はiTunesのバージョンにより異なりますので、上記方法でできない場合は、フォルダを「SC210の書類」に「ドラッグアンドドロップ」することをお試しください。

※追加したい着信音ファイルを配置するフォルダは、フォルダ名「wav」に限定されています。

※着信音として登録可能なファイルフォーマットは下記の形式です。

- ・wav形式
- ・mp3形式
- ・m4r形式

削除する場合は、「wav」フォルダを選択し、「Delete」キーを押下します。

### 留意事項

- iOSのバージョンにより濁点、半濁点等を含む着信音ファイルを着信音に指定できない場合があります。着信音が設定できない場合、着信音のファイル名を半角英数字のみとし、登録を行ってください。



## 第 4 章 基本操作

### 4.14.3 SC210 の着信音を鳴らさなくする

SC210 の着信音を鳴らさなくする方法は、以下の 2 通りがあります。  
No.1 の方法では、端末の OS の動作により稀に着信音がなくなってしまう場合が報告されています。確実に鳴らさなくするには、No.2 の方法を実施してください。

表 4-7 SC210 の着信音を鳴らなくする方法

方法.	手順	ON 時の動作	備考
方法 1	端末本体側面のサイレントスイッチを ON する	端末の標準電話機能および、SC210 を含む他アプリにも反映されます。	
方法 2	SC210 設定画面の「着信サイレントモード」を ON する 	SC210 のみに反映。 No.1 の設定に関係なく、着信音が鳴らなくなります。 ON 設定時は、SC210 画面内に「着信サイレントモード中」が表示されます。 	SC210 Ver.1.24 から利用可能

## 第4章 基本操作

### 4.15 SC210の再表示と非表示

#### 4.15.1 SC210を再表示する

ボタン押下などでSC210の画面が非表示となった場合は、下記の手順で起動済みのSC210を再表示します。通話中などで画面が切り替わったときにも有効です。

1.



端末のホームボタンを押下します。

2.



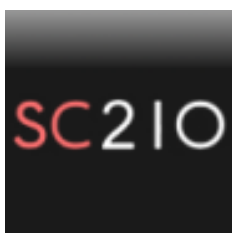
端末のホーム画面を左右にスライドして「SC210」のアイコンを探します。

アイコンをフォルダにまとめている場合は、フォルダの中も探します。

通話中の場合にSC210が非表示となった場合、画面上部に赤いステータスバーが表示されます※。そのステータスバーをタップするとSC210のアプリケーション画面を表示できます。

※SC210のVer1.9以降をご使用の場合、保留中、転送発信中は赤いステータスバーは表示されません。

3.



「SC210」のアイコンをタップすると、SC210のアプリケーション画面を表示できます。

#### 4.15.2 SC210を非表示にする

1.



ホームボタンを押下すると、SC210が非表示となります。

SC210を再表示したときは、ホームボタンの操作直前の画面を表示します。

## 第4章 基本操作

### 4.16 よく使う連絡先を使用する

#### 4.16.1 よく使う連絡先を登録する

1.



画面左上の ≡ アイコンをタップすると、画面切り替えメニューが表示されます。

「よく使う連絡先」をタップします。

2.



「+」をタップします。

3.



アドレス帳(連絡先)を表示します。

表示された連絡先の中から、「よく使う連絡先」に追加したい連絡先をタップします。

## 第4章 基本操作

4.



追加したい連絡先を表示します。  
表示された電話番号の中から、追加したい連絡先の電話番号を  
タップします。

5.



よく使う連絡先に、追加したい連絡先が登録されました。

メモ

よく使う連絡先の最大登録数は10ですが、「\*\*\*360\*\*\*」発信にて、最大100まで登録が可能になります。再度、「\*\*\*360\*\*\*」発信にて10に戻りますが、11以上登録済みの場合は、10以下になるまでエラーとなります。




図 4-1 「よく使う連絡先」登録数の変更方法

## 第4章 基本操作

### 4.16.2 よく使う連絡先を編集する

1.



画面左上の  アイコンをタップすると、画面切り替えメニューが表示されます。

「よく使う連絡先」をタップします。

2.




「編集」をタップします。

この操作により、よく使う連絡先の各項目の削除、および、順番の入れ替えが可能になります。

項目の削除は 3-1 以降、順番の入れ替えは 4-1 以降で説明します。

3-1



削除したい連絡先の選択ボタン  をタップします。

※複数選択はできません。

終了する場合は、上部の「完了」ボタンをタップします。

## 第4章 基本操作

3-2



表示された「削除」ボタンをタップします。

3-3



案内表示が表示されます。

「削除」を選択すると連絡先が削除されます。

「キャンセル」を選択すると手順 3-1 の画面に戻ります。

3-4



「完了」ボタンがタップされたら、よく使う連絡先の表示画面に戻ります。


この状態で削除したい連絡先を左にスライドし、「削除」ボタンをタップして削除する方法もあります。



## 第4章 基本操作

4-1



入れ替えたい連絡先の右にある  スライダーボタンをタップしたまま上下に移動させ、連絡先の順番を入れ替えます。

終了する場合は、上部の「完了」ボタンをタップします。

4-2



順番が入れ替わった状態で、よく使う連絡先の表示画面に戻ります。

### 留意事項

- 連絡先に登録された電話番号を変更した場合、よく使う連絡先の名前の表示が削除される場合があります。削除後、新たに登録し直してください。
- 非通話時および保留中は、画面切り替えメニュー表示で「よく使う連絡先」をタップし、「よく使う連絡先」のリストをタップすることで発信することができます。
- 通話中は、よく使う連絡先の編集(編集ボタン、追加ボタンのタップ、「よく使う連絡先」リストの削除)はできません。
- 連絡先登録中に着信を受けた場合、登録中の連絡先画面が非表示となり着信画面が表示されます。
- よく使う連絡先の編集中に SC210 のバックグラウンド遷移や、他の画面への切り替えを行った場合、再度よく使う連絡先画面を表示したときに画面が編集集中のままとなります。

## 第4章 基本操作

### 4.17 IP-PBX/ビジネスホンへ再接続する

ネットワーク接続状態悪化などの理由により、サービス状態アイコンが「緑」から「赤」に変化したときは、手動でIP-PBX/ビジネスホンへ再接続します。

1.



端末のステータスバーまたは SC210 の画面でサービス状態が「緑」から「赤」に変化したときは、IP-PBX/ビジネスホンへ再接続します。

2.



画面左上の ≡ アイコンをタップすると、画面切り替えメニューが表示されます。

「設定」をタップします。

3.



開いた設定画面の「再接続」ボタンをタップします。

4.



IP-PBX/ビジネスホンに接続できると、サービス状態が「赤」から「緑」に変化します。

「再接続」ボタンをタップしてもサービス状態が赤いままで使用できないときは、システム管理者へお問い合わせください。



## 第4章 基本操作


### 4.18 プロファイルを利用する

#### 4.18.1 プロファイルを作成する

プロファイルの作成方法を以下で説明します。

1.



画面左上の  アイコンをタップすると、画面切り替えメニューが表示されます。

「設定」をタップします。

2.



設定画面において、プロフィール選択ボタン(この図では「設定 1」となっている)をタップします。

3.



プロフィール選択画面で、「編集」ボタンをタップします。

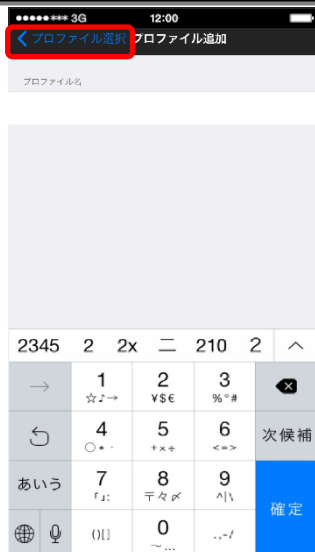
4.



編集モードになったプロフィール選択画面で、「+」ボタンをタップします。

## 第4章 基本操作

5.



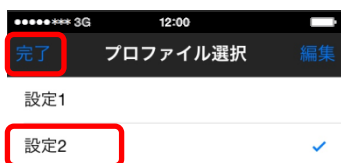
新規プロフィール編集画面で、プロフィール名を入力します。  
プロフィール名を入力したら、「プロフィール選択」をタップします。

6.



編集が完了したので、「完了」をタップします。

7.



新しくできた「設定 2」をタップして選択した後、「完了」をタップします。

8.



「設定 2」が選択されている状態でプロフィールの設定を行います。  
設定項目の入力前となるため接続失敗となります。

設定項目については、「2.8.2 簡単設定画面」または「2.8.3 詳細設定画面」を参照してください。

9.



プロフィール設定後、自動で IP-PBX/ビジネスホン接続を試みます。

サービス状態が緑になると、新たに適用されたプロフィールでサービスを利用できます。


## 第4章 基本操作

### 4.18.2 プロファイルの切り替えをする

システム管理者より、「プロファイル」を手動で切り替えるよう指示があった場合、下記の手順でプロファイルを切り替えます。

1.



画面左上の  アイコンをタップすると、画面切り替えメニューが表示されます。

「設定」をタップします。

2.



設定画面で、プロフィールの表示をタップします。  
(この場合は「設定1」ボタン)

3.



現在選択されていないプロフィールをタップします。  
(この場合は「設定2」)

## 第4章 基本操作

4.



新しいプロファイルの選択が終了したら、「完了」をタップします。

5.



新しいプロファイルを選択すると、自動で IP-PBX/ビジネスホンへ登録します。サービス状態が「緑」になったら使用できます。

### 留意事項

- プロファイル切り替え後、サービス状態が「緑」にならない場合は、システム管理者へお問い合わせください。


## 第4章 基本操作

### 4.18.3 プロファイル名を変更する

プロフィール名の変更方法を以下で説明します。

1.



画面左上の  アイコンをタップすると、画面切り替えメニューが表示されます。

「設定」をタップします。

2.



設定画面において、プロフィール選択ボタン(この図では「設定 1」となっている)をタップします。

3.



プロフィール選択画面で、変更したいプロフィール名を長押しします。

4.



プロフィール名変更画面で、プロフィール名を変更します。変更したら、「完了」をタップします。変更をキャンセルする場合は「キャンセル」をタップします。

5.



プロフィール名が変更されていることを確認し、「完了」をタップします。

## 第4章 基本操作

### 4.19 Web 電話帳と連携をする

#### 4.19.1 PhoneAppli 社製「PhoneAppli」との Web 電話帳連携

PhoneAppli 社製スマートフォン用アプリケーション「PhoneAppli」との Web 電話帳連携（連絡とれるくん連携）は、2020年6月に発売を終了しております。導入済みユーザーは、本システムを購入した販売会社へお問い合わせください。

#### 4.19.2 NTT テクノクロス社製「ProgOffice Enterprise」との Web 電話帳連携

##### ■前提条件

本機能を使用するためには以下のアプリケーションを SC210 と同一端末にインストールし、両アプリとも起動する必要があります。

- ・NTTテクノクロス社製スマートフォン用アプリケーション「ProgOffice Enterprise」(以降「Web 電話帳アプリ」)

##### ■Web 電話帳と連携することで以下のことが可能になります。

- ・Web 電話帳アプリからの発信。
- ・Web 電話帳アプリで発信・着信履歴の確認。
- ・Web 電話帳の登録情報を SC210 で表示。(発信・着信時のみ) (3.1 参照)

##### ■Web 電話帳と連携を行うためには SC210 に以下の設定が必要です。

- ・「詳細設定」-「Web 電話帳設定」(設定の内容については 2.8.3 を参照してください)
- ・「Web 電話帳設定」にて「ProgOffice」を選択すると、SC210 内設定の「発信/着信履歴の保存」は自動的に OFF(保存なし)になります。SC210 に発信/着信履歴を保持する場合は、ON に設定してください。
- ・外線発信等を行う場合のプレフィックスは表 2-6 No.10,11~20「外線番号プレフィックス」を必ず設定してご利用ください。プレフィックスを直接ダイヤルした場合、電話帳との連携ができません。

##### ■設定適用後確認手順

「詳細設定」-「Web 電話帳設定」をタップ後、以下の手順で必要項目を入力してください。



## 第4章 基本操作

2.



ProgOffice 設定画面にて、必要項目を入力後「認証確認」をタップしてください。

タップ後、ログインに成功したかどうかのメッセージがトーストで出力されます。(メッセージ内容は表 6-2 の No.13~15 をご確認ください)

ログイン成功のメッセージ後、「戻る」ボタンをタップし、設定を「完了」します。

(注意)メッセージが表示されるまで、画面の操作をしないようお願いいたします。

## 第 4 章 基本操作

### 留意事項

- 「Web 電話帳サーバ連携」にて入力する設定は、Web 電話帳アプリと合わせてください。別々のアカウントでログインした場合、Web 電話帳の登録情報の表示、発着信履歴の登録が正常に行われません。
- 「Web 電話帳設定」が正しく入力されていない場合、サーバと連動できないため以下の機能が使用できなくなります。
  - ・Web 電話帳アプリで発信・着信履歴の確認。
  - ・Web 電話帳の登録情報を SC210 で表示。(発信・着信時のみ) (3.1 参照)
- Web 電話帳と連携することで発着信履歴情報は Web 電話帳アプリでのみ確認することができますようになります。「発信/着信履歴の保存」は、自動的に OFF(保存なし)になりますので SC210 には履歴が残らなくなります。(手動で ON に変更することは可能です。)
- Web 電話帳上の履歴情報は発信・着信が発生した際に更新されます。
- SC210 からの発信と SC210 への着信が同時に発生した場合、発信と着信の 2 つの履歴が残る可能性がありますので、ご注意ください。
- ProgOffice Enterprise の製品マニュアルは、ご契約サービスサイトに掲載されています。開通通知書に記載のご契約サービスサイト URL へアクセスいただき、ログイン実施の上、該当ページをご参照ください。
- 非通知着信時は、Web 電話帳の着信履歴に”Unknown”が登録されます。VoIP ゲートウェイ(NT シリーズ)を経由した非通知着信時は VoIP ゲートウェイの UserID が登録される場合があります。
- スマートフォンのインターネット接続に問題が発生している場合は、Web 電話帳との連携は保証できません。
- 発信可能な電話番号文字数は、1~32 文字です。SC210 設定にてプレフィックス追加条件を満たす電話番号の場合は、自動的にプレフィックス(最大半角数字 2 文字)を付与するため、Web 電話帳に登録する電話番号文字数は、プレフィックス文字数分を考慮して登録してください。SC210 設定の「発信/着信履歴の保存」を ON した場合は、発信した電話番号が履歴に登録されます。
- 発信電話番号を構成する数字・文字に対する SC210 の扱いは、表 1-2、表 1-3 を参照してください。  
【SC210 Ver.1.22 から一部扱いを変更】  
SC210 が利用できない文字を含んだ電話番号は、Web 電話帳には登録しないでください。



## 第4章 基本操作

### 4.20 会議に参加する

SC210 の接続先が IP-PBX の場合、SC210 にて会議機能(開始/参加/退出)が利用できます。  
※IP-PBX の会議機能設定については、システム管理者に問い合わせください。

#### 4.20.1 会議の開始/参加

SC210 より「会議開始特番+グループ番号」で発信し、会議開始を通知します。通知方式は、着信音鳴動と通知表示の2通りがあり、IP-PBX の設定により選択が可能です。

会議開始通知を受けた端末の応答により、会議開始となります。また、「会議参加特番+グループ番号」で発信し、開催中の会議通話に参加することもできます。

#### 【会議開始】

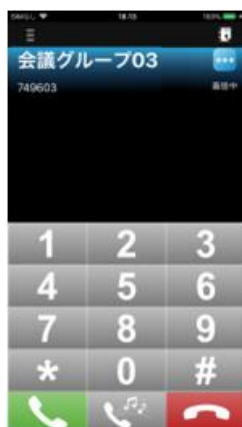
1.		<p>ダイヤル画面で「会議開始特番+グループ番号」※を入力して、発信ボタンをタップします。</p> <p>※左図の場合、会議開始特番:7494、グループ番号:03 となります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"><b>留意事項</b></div> <p>■すでに同一グループ番号の会議が開始されている場合、本手順にて新たに会議を開始することはできません。</p>
2.		<p>会議グループに属する端末へ呼出しを開始します。</p> <p>呼出しをキャンセルするときは、 ボタンをタップします。</p> <p>※左図の場合、会議グループ 03 という名称で電話帳登録している場合です。</p>
3.		<p>会議グループに属する端末の応答により、会議通話開始となります。</p> <p>会議通話の場合、 ボタンが  ボタンとなります。</p>

## 第4章 基本操作

### 【会議参加】

#### ■通知方式:着信音鳴動

1.



会議開始通知を受けた端末では、内線着信と同様に、ダイヤル画面に着信番号が表示され、着信音が鳴動します。着信番号が電話帳に登録されている場合、その名前を表示し、登録がない場合は着信番号(会議開始特番+グループ番号)(※)を表示します。

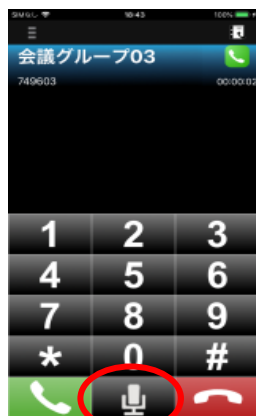
非通知着信等は着信番号が表示されません。

(※)左図の場合、会議開始特番:7496、グループ番号:03 となり、会議グループ 03 という名称で電話帳登録してある場合です。


応答するときは、 ボタンをタップします。

拒否するときは、 ボタンをタップします。

2.



応答により、会議通話に参加となります。

会議通話の場合、 ボタンが  ボタンとなります。

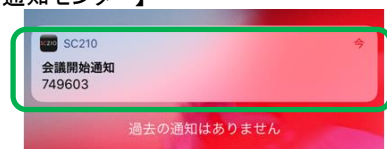
#### ■通知方式:会議開始通知表示

1.

##### 【ヘッドアップ通知】



##### 【通知センター】



会議開始通知を受けた端末では、画面上部へのヘッドアップ通知および通知センターに会議開始の通知が表示され、通知音が鳴動します。

着信番号が電話帳に登録されている場合、名前を表示し、登録がない場合は着信番号(会議開始特番+グループ番号)(※)を表示します。

非通知着信等は着信番号が表示されません。

(※)左図の場合、会議開始特番:7496、グループ番号:01 となります。

## 第4章 基本操作

2.





1の通知を長押しすることで通知の下に[参加]ボタンが表示されます。[参加]ボタンをタップします。

※[参加]ボタンから会議通話に参加した場合、会議開始通知を受信した時の着信履歴とは別に、発信履歴が保存されます。  
※[参加]ボタン以外のエリアをタップした場合、SC210の履歴画面を表示します。

3



応答により、会議通話に参加となります。

会議通話の場合、 ボタンが  ボタンとなります。

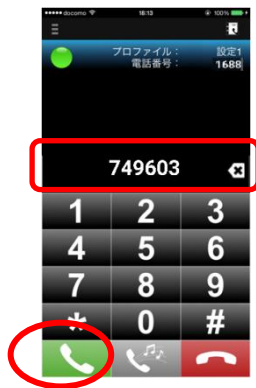
### メモ

#### ■ 発信履歴の保存について

会議開始通知の[参加]ボタンから会議通話に参加した場合、発信履歴には①会議開始通知を受信したときの着信履歴、②[参加]ボタンをタップしたときの発信履歴が保存されます。

#### ■ 会議参加特番ダイヤル

1.

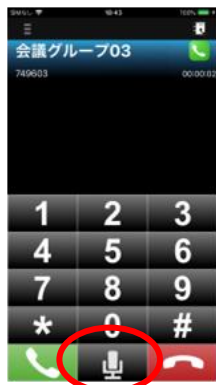


ダイヤル画面で「会議参加特番 + グループ番号」\*を入力して、発信ボタンをタップします。



※左図の場合、会議参加特番:7496、グループ番号:03 となります。

呼出しをキャンセルするときは、 ボタンをタップします。

2.



会議通話に参加となります。

会議通話の場合、 ボタンが  ボタンとなります。

## 第 4 章 基本操作

### 留意事項

#### ■会議通話について

- ・会議通話中、通話の保留・転送はできません。
- ・会議通話中に携帯着信を受けた場合、「携帯発信時/着信時の動作」の設定に関わらず、会議通話は「切断」となります。
- ・会議通話中かつBluetooth 機器接続中に携帯着信を受けた場合、「携帯発信時/着信時の動作」の設定に関わらず、会議通話は「切断」となります。

#### ■会議開始通知表示について

- ・通知音は端末のデフォルトの通知音+バイブレーションとなりますが、ご利用の端末により、バイブレーションが鳴動しない場合があります。なお、通知音の変更はできません。
- ・携帯発信/着信/通話中に会議開始通知を受けた場合、通知表示のみとなり、通知音は鳴動しません。また、携帯着信中は会議開始通知が携帯着信通知と重なって表示されます。
- ・同一会議グループから複数回通知を受けた場合、最新の通知のみを表示します(日時は更新します)。
- ・同一会議グループから会議終了通知を受けた場合、通知を削除します。
- ・通知センターへの表示は会議終了通知と合わせて、最大 10 件です。最大表示数を超過する場合は古い通知から削除します。
- ・[参加]ボタンから会議に参加できるのは、SC210 が待受中の場合のみとなります。  
待受中以外(内線通話中/会議通話中、携帯通話中等)の場合は、通話終了後に[参加]ボタンをタップ、または「会議参加特番+グループ番号」に発信して会議通話に参加することができます。

## 第4章 基本操作

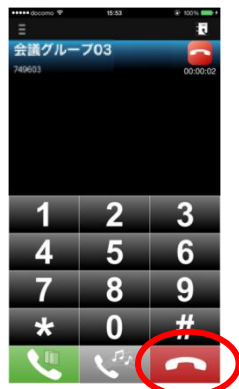
### 4.20.2 会議の終了

最終会議通話者が会議通話を切断、または待受中の端末より、「会議終了特番+グループ番号」で発信し、会議通話中の全端末を切断すると、該当する会議グループに属している端末に会議終了が通知されます。

■通知方式:着信音鳴動

1.

【①最終会議通話者が会議通話切断】



【②会議終了特番ダイヤル】



2.

【ヘッドアップ通知】  
【通知センター】



下記のいずれかの操作により、会議を終了します。

①最終会議通話者が会議通話を切断。

②待受中のグループ所属端末(会議を開始した端末)より、ダイヤル画面で「会議終了特番+グループ番号」を入力して、発信ボタンをタップ(会議通話中の全端末が切断される)。

※左図の場合、会議終了特番:7497、グループ番号:03 となります。

#### 留意事項

■②会議終了特番ダイヤルでの会議終了は、会議を開始した端末のみ実施することができます。

会議グループに属している端末に会議終了が通知されます。

会議終了通知を受けた端末では、画面上部へのヘッドアップ通知および通知センターに会議終了通知が表示され、通知音が鳴動します。

#### 留意事項

■会議終了通知表示について

- ・通知音は端末のデフォルト通知音+バイブレーションとなりますが、ご利用の端末により、バイブレーションが鳴動しない場合があります。なお、通知音の変更はできません。
- ・携帯発信/着信/通話中に会議終了通知を受けた場合、通知表示のみとなり、通知音は鳴動しません。また、携帯着信中は会議終了通知が携帯着信通知と重なって表示されます。
- ・同一会議グループから複数回通知を受けた場合、最新の通知のみを表示します(日時は更新します)。
- ・同一会議グループから会議開始通知を受けた場合、通知を削除します。
- ・通知センターへの表示は会議開始通知と合わせて、最大 10 件です。最大表示数を超過する場合は古い通知から削除します。

## 第4章 基本操作

### 4.2.3 会議通話中の内線着信通知

会議通話中に内線着信があった場合、IP-PBX からの通知方式により、SC210 の動作が異なります。通知方式は、「通知なし」、「任意応対通知」、「即時応対通知」の三通りがあり、IP-PBX の設定により選択が可能です。

#### ■通知方式:通知なし

会議通話中の内線着信は IP-PBX から SC210 に通知されず、着信履歴にも保存されません。

#### ■通知方式:任意応対通知

会議通話中の内線着信(非通知/不明を除く)は IP-PBX から SC210 に通知され、画面上に着信通知が表示されます。着信履歴にも保存されます。着信通知については、「4.11 通知センターの不在着信を確認する」を参照ください。

#### ■通知方式:即時応対通知

会議通話中の内線着信は IP-PBX から SC210 に通知され、画面上に着信通知ポップアップが表示されます。着信履歴にも保存されます。

1.



会議通話中に内線着信があった場合、SC210 に着信通知ポップアップを表示し、スピーカーから内線着信割込音(トウルルル...)を鳴動します。

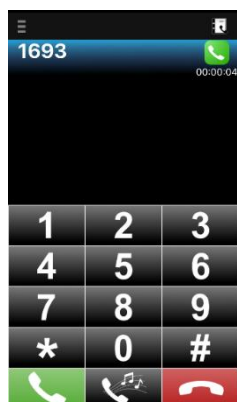
2.



内線番号が電話帳に登録されている場合、着信通知ポップアップ表示に名前を表示し、登録がない場合はユーザ ID を表示します。非通知着信等はユーザ ID が表示されません。

応答するときは、[応答] ボタンをタップします。拒否するときは、[拒否] ボタンをタップします。

3.



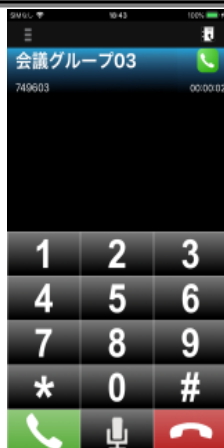
#### ◆[応答]ボタンをタップした場合

着信通知ポップアップを閉じ、内線着信割込音を停止します。会議通話から離脱し、内線着信の応答を行います。

内線通話が始まると、 ボタンが  ボタンとなります。

## 第4章 基本操作

4.



### ◆[拒否]ボタンをタップした場合

着信通知ポップアップを閉じ、内線着信割込音を停止します。  
内線着信を拒否し、会議通話の継続を行います。

### 留意事項

#### ■着信通知ポップアップ表示について

- ・内線着信割込音が電波状態の警告音と重なる場合は、電波状態の警告音を優先して鳴動します。
- ・着信通知ポップアップ表示は下記契機で表示を閉じます。
  - ・[応答]ボタン、[拒否]ボタンのタップ
  - ・内線通話の発信側が発信キャンセル
  - ・着信タイムアウト時間経過
  - ・携帯発着信時([拒否]ボタンタップと同様の動作となります)
- ・着信通知ポップアップ表示時は、SC210 の他のボタンは押下できません。また、着信通知ポップアップ表示以外をタップしても表示は閉じません。

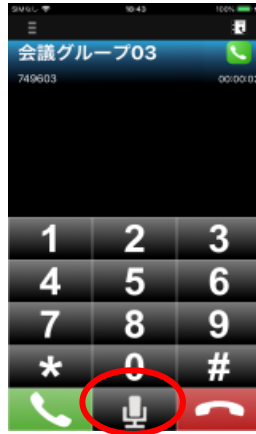
## 第4章 基本操作

### 4.20.4 マイクミュート機能

会議通話中のマイクミュートの ON/OFF、会議通話開始時のマイクミュート ON/OFF を設定できます。

#### ■会議通話中のマイクミュート

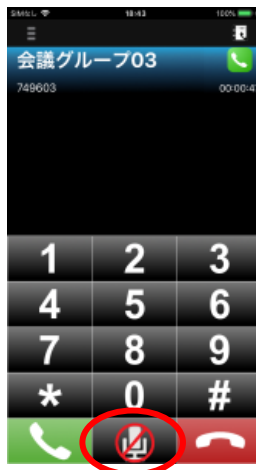
1.



会議通話に参加した場合、 ボタンが  ボタンとなります。

左図の場合、マイクミュートは”OFF”となっています。

2.



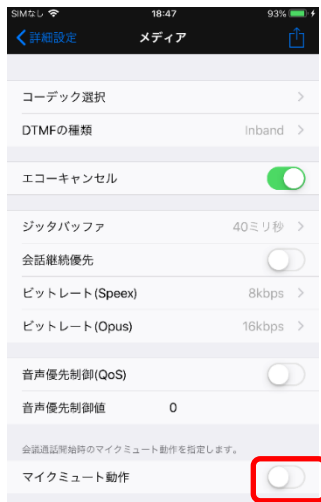
マイクミュート”OFF”の状態、 ボタンをタップすると、

マイクミュート”ON”となり、 ボタンが  ボタンに代わります。

再度、ボタンを押すと、マイクミュート”OFF”に戻ります。

#### ■会議通話開始時のマイクミュート

1.



下記設定にて、会議通話開始時のマイクミュート動作を設定できます。

[設定]—[詳細設定]—[メディア]

・マイクミュート動作

〈設定値〉

OFF: 会議通話開始時、マイクミュート”OFF” (デフォルト)

ON: 会議通話開始時、マイクミュート”ON”



# 第 5 章 トラブルシュート

## 5 トラブルシュート

本章ではトラブルが発生した場合の対処方法について説明します。

表 5-1 トラブルシュート(1/16)

No.	現象	原因	対処方法
1	プロファイル、電話番号が表示されない。	SC210 の設定値項目に何も入っていない新規のプロファイルを選択している可能性があります。	設定値に正しい値を入力して設定を完了してください。
2		SC210 の設定必須項目に値が指定されていないプロファイルを選択している可能性があります。	SC210 の設定必須項目に値が指定されているか、また設定値に正しい値が入力されているか確認してください。
3	IP-PBX/ビジネスホン未登録状態のままで登録完了に遷移しない。	ネットワーク環境に接続していない可能性があります。	[社内 Wi-Fi 接続] Wi-Fi を ON にし、接続先アクセスポイントを確認してネットワーク環境に接続してください。 ネットワークの接続方法は、端末取扱説明書の Wi-Fi 設定を参照してください。 [スマートフォン内線アダプタ接続] モバイルデータ通信網の接続状況を確認してください。
4		SC210 の設定必須項目に値が指定されていないプロファイルを選択している可能性があります。	SC210 の設定必須項目に値が指定されているか、また設定値に正しい値が入力されているか確認してください。
5	端末の再接続に失敗した可能性があります。		[社内 Wi-Fi 接続] ・一度、端末の Wi-Fi 設定を ON→OFF としてから再度 ON にしてください。 ・接続先のアクセスポイントを確認してください。その後、IP-PBX/ビジネスホンへ再接続してください。 [スマートフォン内線アダプタ接続] モバイルデータ通信網の接続状況を確認し、IP-PBX/ビジネスホンへ再接続してください。 再接続方法は「4.17IP-PBX/ビジネスホンへ再接続する」を参照してください。
6		アクセスポイントリストに社内 Wi-Fi 以外のアクセスポイントが登録されている可能性があります。	接続許可アクセスポイントリスト (SSID)設定を確認してください。 詳細は、「2.8.3 詳細設定画面」の「表 2-7 詳細設定の設定項目(ネットワーク)」を参照してください。

## 第 5 章 トラブルシュート

表 5-2 トラブルシュート(2/16)

No.	現象	原因	対処方法
7	IP-PBX/ビジネスホン未登録状態のまま登録完了に遷移しない。	動作対象のネットワーク条件指定が間違っている可能性があります。	アプリケーションの動作ネットワーク条件を確認してください。 詳細は、「2.8.3 詳細設定画面」の「表 2-7 詳細設定の設定項目(ネットワーク)」を参照してください。
8		SC200 が起動している可能性があります。	SC200 との併用は不可です。SC200 をアンインストール後、IP-PBX/ビジネスホンへ再接続してください。 再接続方法は「4.17 IP-PBX/ビジネスホンへ再接続する」を参照。
9		アクセスポイントの設置状況により、ネットワーク接続が不安定になっている可能性があります。	・端末の Wi-Fi 設定を ON→OFF としてから再度 ON にしてください。 ・接続先のアクセスポイント設定を確認してください。その後、IP-PBX/ビジネスホンへ再接続してください。
10		通信キャリアのアドレス変換機能の特性等により、パケットの転送ができていない可能性があります。	SC210 を再起動してください。 それでも IP-PBX/ビジネスホンに接続できない場合は端末を再起動してください。
11		ネットワーク接続が不安定になっており、自端末と IP-PBX/ビジネスホン間で回線異常が発生している可能性があります。	「6 表示メッセージ」の「表 6-11 回線異常発生時警告表示」を参照し、回線異常発生時の警告表示(タイムF)がないか確認してください。 警告表示がある場合、ネットワーク接続環境を見直してください。
12		「SIP ポート」設定にて IP-PBX で許可されていないポート番号を設定している可能性があります。	使用可能なポート番号については、システム管理者にお問い合わせください。
13		アクセスポイントの設定「自動接続」が OFF になっている可能性があります。(iOS11 以上)	「自動接続」を ON にしてください。
14		OS の「ローカルネットワーク」が OFF になっている可能性があります。(iOS14 以上)	OS「設定」「SC210」にて、「ローカルネットワーク」を ON にしてください。
15	外線発信できない。(IP-PBXを経由した外線発信ができない)	・発信番号の先頭に付与するプレフィックスが間違っている可能性があります。 ・外線発信と判断するプレフィックスとダイヤルプレフィックスの設定が間違っている可能性があります。	・外線発信にはダイヤルプレフィックスが必要な場合があります。管理者に問い合わせください。 ・外線発信と判断するプレフィックスとダイヤルプレフィックスの設定については「2.8.3 詳細設定画面」の「表 2-6 詳細設定の設定項目(アカウント)」を参照してください。

## 第 5 章 トラブルシュート

表 5-3 トラブルシュート(3/16)

No.	現象	原因	対処方法
16	IP-PBX/ビジネスホン登録中のままになる。	アカウントの各設定に不正な値が入っている可能性があります。	機内モードを ON にするなどして、Wi-Fi 接続およびモバイルデータ通信接続を全て無効にしてください。IP-PBX/ビジネスホン未登録状態になりましたら、アカウントの設定値を確認してください。詳細は、「2.8.3 詳細設定画面」の「表 2-6 詳細設定の設定項目(アカウント)」を参照してください。
17		[社内 Wi-Fi]アクセスポイントが正しく IP-PBX/ビジネスホンに接続していない可能性があります。	ネットワーク接続環境を見直してください。
18		[スマートフォン内線アダプタ接続] モバイルデータ通信回線の状態が不安定になっている可能性があります。	電波状態が良い環境でご利用ください。
19		予期せぬエラーが発生した可能性があります。	システム管理者にお問い合わせください。
20	端末付属のイヤホンマイクの中央ボタン操作により、着信応答・通話切断などができない。(SC210 設定「基本通話と統合」:OFF 設定時)	未サポートです。	SC210 の操作で着信応答・通話切断などを行ってください。マイク、音量調整は使用できます。
21	Bluetooth 対応ヘッドセットで通話ができない。	複数台の Bluetooth 機器を接続している可能性があります。	端末 1 台につき、Bluetooth 機器 1 台を接続してください。複数台で 1 台の端末をペアリングする、端末 1 台に複数台の機器を接続する、といったご利用は未サポートとなります。
		未サポートの Bluetooth 機器を接続している可能性があります。	利用可能な機器については、システム管理者にご確認ください。
22	社内 Wi-Fi 経由で通話中に切断操作をしていないのに、通話が切れる。	通話中に接続先の社内 Wi-Fi アクセスポイントが切り替わった可能性があります。	接続先の社内 Wi-Fi アクセスポイントが切り替わらない状態で通話してください。
23		通話中に接続先の社内 Wi-Fi アクセスポイントが切り替わる時に、保留・保留解除、セッション更新(自動)が行われた可能性があります。	
24	ホーム画面を表示したまま、Wi-Fi の圏内に入ったがアクセスポイントに接続しない。	OS の制限です。	・OS 設定画面の Wi-Fi をタップし、Wi-Fi 設定画面を開くと、接続します。
25	ホーム画面を表示したまま、コントロールセンターで Wi-Fi を ON にしたがアクセスポイントに接続しない。		・それでも接続しない場合、Wi-Fi を一旦オフし、再度オンにして再接続してください。

## 第 5 章 トラブルシュート

表 5-4 トラブルシュート(4/16)

No.	現象	原因	対処方法
26	ビジネスホンの場合に、転送できない。	DTMF の種類の設定が正しくない可能性があります。	DTMF の種類を「RFC2833」に設定してください。設定方法については、「2.8.3 詳細設定画面」の「表 2-9 詳細設定の設定項目(メディア)」を参照してください。
27	内線着信に応答できなくなり、その後、操作不可能となる。また、誤動作する。	端末が異常な状態になっている可能性があります。	端末の再起動と SC210 の起動を行ってください。
28	「integral-F(02-01 版以下)」の場合に、内線通話中に 4G/5G 着信(携帯電話着信)に応答すると、携帯電話側の音声と内線側の音声が混じって聞こえる。	「integral-F(02-01 版以下)」で利用される場合の設定が不足しています。	「integral-F(02-01 版以下)」で利用される場合には、「携帯発着信の動作」の設定で、「SC210 を切断」を選択してください。 設定方法については、「2.8.3 詳細設定画面」の「表 2-10 詳細設定の設定項目(一般)」を参照してください。
29	SC210 を再起動したのに、内線着信できない。	IP-PBX/ビジネスホンの障害、または、ネットワークの障害により、IP-PBX/ビジネスホンの端末登録が消えた可能性があります。	IP-PBX/ビジネスホンへ再接続してください。 再接続方法は「4.17IP-PBX/ビジネスホンへ再接続する」を参照してください。
30		端末が異常な状態になっている可能性があります。	端末の再起動と SC210 の起動を行ってください。
31	端末が Wi-Fi 圏外に一旦移動すると、着信できないことがある。(BG 着信を許可する:オンが前提です)	OS の制限です。 Wi-Fi 接続は OS 制御であり、SC210 はリアルタイムでの Wi-Fi 接続の検出ができず、着信不可となっている可能性があります。	通話接続を優先される場合、Wi-Fi 圏内に移動後、SC210 の状態を確認してください。 端末の Wi-Fi 設定にて「接続を確認」のチェックが ON になっている場合は OFF にしてください。 一時的な Wi-Fi 切断であれば、端末のホームボタンや電源ボタンで画面の OFF/ON を行うことで接続が復旧する場合があります。
32	画面オフ中、または SC210 が前面にない状態で着信を放置すると着信音のみ消える。(BG 着信時の着信音設定:無効にする選択時)	OS の仕様です。 30 秒程度の時間で着信音が停止します。	バイブレーションは動作しており、着信確認できます。
33	不在着信時、着信ランプが表示されない。	未サポートです。	通知センターで不在着信がないか確認してください。

## 第 5 章 トラブルシュート

表 5-5 トラブルシュート(5/16)

No.	現象	原因	対処方法
34	<ul style="list-style-type: none"> <li>画面オフ時の着信時に消音操作しても着信音が消えない。</li> <li>着信/サイレントモードに設定したが、着信音が発生する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■音声デバイスを利用する他のアプリケーションを起動している場合 OS の仕様です。</li> <li>音声デバイスを利用する他のアプリケーションを起動するとデバイスが競合してしまい SC210 が意図しない動作となります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音声デバイスを競合するアプリケーションを使用した場合、SC210 を再起動してください。</li> <li>Siri が容易に起動しやすいので注意が必要です。設定にて「Siriを無効にする」ことをお勧めします。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>■音声デバイスを利用する他のアプリケーションを起動していない場合 BG 着信時の着信音設定:有効にするが選択されている可能性があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>BG 着信時の着信音設定:有効にする選択時はサイレントスイッチによる消音操作ができません。端末のハードボタン操作により、消音できます。詳細は「4.14.1SC210 の着信音について」を参照してください。</li> </ul>
35	[スマートフォン内線アダプタ接続] 着信して応答/切断しても、しばらく着信中のままとなる。	モバイルデータ通信回線経由の着信が遅延したため、着信応答した段階で、相手が切断済みになっている可能性があります。	電波状態が良い環境でご利用ください。 端末の再起動と SC210 の起動を行ってください。
36	端末がロックされている状態で内線着信し、ロック解除のパスワード入力中は着信音が鳴らなくなる。	OS の仕様です。	そのままロック解除し、着信応答してください。ロック画面中もバイブレーションが動作しています。ロック解除後、SC210 が表示されると着信音が再開します。
37	「おやすみモード」を有効にしても着信する。	OS の仕様です。	着信時は画面に表示されず、着信音は鳴りません。バイブレーションのみの動作となります。
38	[スマートフォン内線アダプタ接続] 通話を転送/切断しても、しばらく通話中のままとなる。	モバイルデータ通信回線の状態が不安定で、転送/切断処理を完了できないことがあります。	電波状態が良い環境でご利用ください。
39	通話が片通話となる。またはサービス状態が「緑」になっていても、発信/着信できないことがある。	ユーザ ID が重複している可能性があります。	システム管理者に確認し、正しいユーザ ID を設定してください。
		音声デバイスを利用する他のアプリケーションを起動するとデバイスが競合してしまい SC210 が意図しない動作となります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>音声デバイスを競合するアプリケーションを使用した場合、SC210 を再起動してください。</li> <li>Siri が容易に起動しやすいので注意が必要です。設定にて「Siriを無効にする」ことをお勧めします。</li> </ul>
		モバイル圏外を検知できない場合があります。	アプリケーションを再起動してください。

## 第 5 章 トラブルシュート

表 5-6 トラブルシュート(6/16)

No.	現象	原因	対処方法
40	内線発信失敗時に自動プロフィール切り替えし、サービス状態が「緑」になった後、再発信しない。	内線発信失敗時に自動で 2 回プロフィールを切り替えた場合は、再発信しない仕様です。 内線発信失敗時に自動でプロフィールを切り替え、1 回目の切り替えで、サービス状態が「緑」になった後のみ再発信します。	サービス状態が「緑」になってから、かけ直してください。
41	グループ着信に応答したが、通話できない。	「ネットワーク変化検知タイマー」の設定で「ON」を選択した場合、グループ着信中に端末のネットワーク接続が一時的に切断し、その間に同一グループ内の別端末が着信応答した後、自端末で応答しても通話できず、通話切断までに時間がかかることがあります。	グループ着信をご利用の場合、「ネットワーク変化検知タイマー」の設定で「OFF」を選択してください。設定方法については、「2.8.3 詳細設定画面」の「表 2-7 詳細設定の設定項目(ネットワーク)」を参照してください。
42	「SC210 は応答していません」とエラーメッセージが出力される。	端末の状態によりアプリケーションの応答が遅いと OS がエラーメッセージを出力します。	「待機」を選択して、しばらくお待ちください。
43	「SC210 は応答していません」とエラーメッセージが出力される。	STUN のアドレスに誤った番号を入力した可能性があります。	「待機」を選択して、しばらくお待ちください。また、STUN のアドレスを確認してください。
44	通話状態だが音声聞こえなくなる。また、相手も音声聞こえない。	OS の制限です。 複数の Wi-Fi アクセスポイントに接続でき、接続した際に同一の IP アドレスを取得する環境では、Wi-Fi 接続が切り替わると通信できなくなる場合があります。	Wi-Fi を一旦オフにして、再度オンにして再接続してください。
45	通話中に SC210 を終了した。このとき、相手側は通話中のままになることがある。	OS の制限です。 アプリケーション終了の際の終了処理の実行は OS により保証されていません。	トラブルを避けるため、SC210 の終了は SC210 が待機状態の場合に行ってください。
46	「アプリケーション SC210 が予期せず中止しました」のダイアログが出力される。 ※OS のバージョンや端末により表示メッセージが異なります。	予期せぬエラーが発生した可能性があります。	システム管理者にお問い合わせください。
47	内線通話中に端末標準のカメラアプリケーションでビデオにすると、通話が聞こえなくなる。	OS の仕様です。 デバイスを競合しているため他アプリケーションを起動すると音声デバイスが取られ無音となります。	・着信中や通話中にカメラを起動しないでください。 ・SC210 使用中は他のアプリケーションを使用しないでください。

## 第5章 トラブルシュート

表 5-7 トラブルシュート(7/16)

No.	現象	原因	対処方法
48	端末標準のカメラアプリケーションでビデオ録画にしていると着信音が聞こえない。	OS の仕様です。 カメラが使用中のため、着信音が鳴りません。通知のスタイルがバナー、ダイアログの場合画面に表示されます。	内線応答すると録画停止となりますのでご注意ください。
49	通話中に携帯発信/着信すると「携帯発着信時の動作」の設定で、「SC210を保留」を選択しているのに切れる。	au 端末(VoLTE 対応機種を除く)では「携帯発着信時の動作」の設定で「SC210 を保留」を選択している場合、切断されます。	詳細は、「4.8 内線通話中に携帯発信/着信する」の留意事項を参照してください。
50	履歴が更新されない。	発信/着信履歴の保存設定が OFF になっている可能性があります。	発信/着信履歴の保存設定を ON に変更してください。 詳細は、「2.8.3 詳細設定画面」の「表 2-10 詳細設定の設定項目(一般)」を参照してください。
51	アプリケーション起動時、SC210 の起動画面が表示されたままになり、起動できない。	アプリケーション終了中にアプリケーションを起動している可能性があります。	再度アプリケーションを起動してください。
52	SC210 の画面が乱れて表示される。	端末リソースの使用状況により、アプリケーション表示が正しくされない場合があります。	ホームボタン押下後、SC210 アイコンをタップして再表示してください。 改善しない場合は端末を再起動してください。
53	話中転送特番操作などの特番入力サービスが利用できない。	特番入力による通話サービスに関する設定方法は、ご使用の交換機により異なります。	設定方法はシステム管理者にお問い合わせください。
54	通話中に端末標準の時計アプリケーションのアラームやポップアップが表示されると音声聞こえない。	OS の制限です。 割込みが発生すると、音声デバイスが取られた状態のままとなるので、音声復旧できません。	アラームを停止してからホームボタンを押し SC210 をバックグラウンドにした後、SC210 アイコンのタップなどで SC210 を起動してください。
55	内線通話中に端末の OS 画面の「設定」-「サウンド」-「着信音と通知音」の音量を変更すると、通話が聞こえなくなる。	OS の仕様です。 OS の「設定」画面などに遷移すると音声の権限が無効となり、音声制御ができなくなります。	通話中に「設定」-「サウンド」-「着信音と通知音」などは操作しないでください。通話中に通話音量を変更したい場合は、端末の音量調節ボタンを操作してください。
56	ダイヤルタップ音が鳴らなくなることがある。	OS の制限です。 OS の設定や他のアプリによる音声割込みなどの発生により、音声デバイスが取られた状態となっている可能性があります。	ホームボタン押下後、SC210 アイコンをタップして再表示してください。 改善しない場合は端末を再起動してください。
57	ビジネスホンの場合に、内線通話中に携帯電話着信後、内線通話に復帰した際に音声相手が聞こえにくい。	ご利用の端末により、音声相手が聞こえにくくなる場合があります。	スピーカーモードへの切り替え/解除操作を行ってください。 詳細は、「4.4 スピーカーフォンで通話する」を参照してください。 改善しない場合は内線電話をおかけ直してください。

## 第 5 章 トラブルシュート

表 5-8 トラブルシュート(8/16)

No.	現象	原因	対処方法
58	「切断されました(900)」が表示され、切断してしまう。	アプリケーション内で予期せぬエラーが発生しました。	SC210 の再起動を行い、再度おかけ直してください。
		ユーザ ID/認証 ID が同じ端末が存在している可能性があります。	ユーザ ID/認証 ID は別端末と重複しないよう設定してください。
59	端末を再起動して SC210 を起動したが連絡先、および、履歴のアドレス帳にある番号の情報が更新されない。	OS の制限です。 端末再起動による SC210 の自動起動では、アドレス帳が読み込まれないことがあります。	手動でアドレス帳読み込みしてください。
60	履歴画面上に unknown と表示される場合がある。	端末によって非通知や発信先不明の場合、unknown と表示される場合があります。	-
61	通話中に端末を耳から離して画面を見ると、コントロールセンターや他のアプリケーションなどが前面に表示されている場合がある。	ご利用の端末により、画面に頬や耳が接触することにより、コントロールセンターや通知センターが表示される場合があります。	・コントロールセンターや通知センターをフリックして元に戻してください。 ・他のアプリケーションを終了してください。
62	近接センサー作動後、ハードボタンを操作しても音量アイコンがでない。	OS の仕様です。	コントロールセンターを表示し、音量をご確認ください。 コントロールセンターの画面を表示/表示終了することで音量アイコンが表示します。
63	通話中にしばらくすると切断してしまう場合がある。	モバイルデータ通信回線のモード切り替え(4G/5G の回線切り替え)が発生し、端末の IP アドレスが変更になった可能性があります。	再度おかけ直してください。
64	モバイルデータ通信(4G/5G)から Wi-Fi 通信に切り替えても着信できない場合がある。	Wi-Fi 通信に切り替えた場合でもモバイルデータ通信で接続したままとなる場合があります。	Wi-Fi を一旦オフし、再度オンにして再接続してください。
65	モバイルデータ通信(4G/5G)を使用して待ち受け中に、見知らぬ内線番号から着信する。受話しても無音になる。	使用しているポートに対して外部から通信メッセージを受信しているか、DoS 攻撃の一種である「INVITE Flood」(不正な SIP 着信)を受けている可能性があります。	管理者にお問い合わせのうえ、「設定」-「詳細設定」-「SIP」-「SIP ポート」のポート番号を変更することで、回避できる可能性があります。 また、トランスポートを変更することで不正着信を防ぐことができます。 「設定」-「詳細設定」-「SIP」-[トランスポート]を UDP 接続から TCP 接続に変更してください。
66	モバイルデータ通信(4G/5G)で PCMU コーデックまたは Opus を使用すると、送受信共に聞き取りづらい場合がある。	キャリアの通信特性が関係する可能性があります。	低帯域コーデックの Speex/8000 にして使用してください。



## 第5章 トラブルシュート

表 5-9 トラブルシュート(9/16)

No.	現象	原因	対処方法
67	ディスプレイOFFの状態に着信した場合に、本アプリケーションの画面が正しく表示されない。(例:画面の下半分が表示されない)	ご利用の端末により、正しく表示されない場合があります。	ホームボタンを押下後、SC210のアイコンを押してダイヤル画面を表示してください。
68	SC210をアンインストール後に再度SC210をインストールした際に、不在着信のアイコンバッジが残る。	OSの制限です。	SC210を起動し、履歴画面を表示してください。戻らない場合は、SC210をアンインストール後に、端末のソフトリセットを行ってから再度SC210をインストールしてください。
69	「設定」-「一般」-「アクセシビリティ」-「VoiceOver」のスイッチをONに設定したとき、ダイヤルボタンの説明はどれも「ボタン」となる。	VoiceOverを含むアクセシビリティの対応は未サポートです。	「VoiceOver」の設定はOFFで使用してください。
70	通話中、他アプリケーションの通知音が鳴るとSC210の音が小さくなる。	OSの制限です。	通話に影響はございませんので普通にご使用願います。受話音量の調整は「4.13.4 受話音量を調整する」を参照願います。
71	「設定」アプリケーション起動-「一般」-「アクセシビリティ」-「スイッチコントロール」をONに設定したとき、操作不能になる場合がある。	スイッチコントロールを含むアクセシビリティの対応は未サポートです。	「スイッチコントロール」の設定はOFFで使用してください。
72	SC210がフリーズし、操作ができなくなる。または各種ボタンが操作不能となる。	-	アプリケーションを終了し、再起動してください。終了方法は「4.1.2 アプリケーションの終了」を参照してください。起動方法は「4.1.1 アプリケーションの起動」を参照してください。アプリケーションが再起動できない場合は、端末を再起動してください。
73	バックグラウンド着信の際、応答しようとして、ダイヤル画面に行き「(発信/応答)ボタン」を押したときに通話が切れてしまう。	通話相手が既に発信をキャンセルしている可能性があります。	履歴を参照し、着信した相手に連絡してみるなどの対応をしてください。履歴の使い方は「4.2.5 履歴から電話をかける」を参照してください。
74	端末付属のイヤホンマイク使用中、通話中にSC210を終了した。以後、イヤホンマイクの中央ボタンを押下しても音楽再生が開始されない。	SC210によるイヤホンマイクのボタン制御が解除されず、中央ボタン押下操作が無効となります。	ホームボタンを押下後、音楽再生アプリを起動してください。上記操作により、SC210のイヤホンマイクのボタン制御が解除されます。
75	電話番号を変更したが、前の電話番号で着信できてしまう。	異なる電話番号のプロファイル切り替え時(自動プロファイル切替含む)、変更前と変更後の電話番号で着信できてしまう場合があります。	同一のIP-PBX/ビジネスホーンに接続する場合はプロファイルごとに電話番号を分けず、同一の電話番号をご使用ください。

## 第 5 章 トラブルシュート

表 5-10 トラブルシュート(10/16)

No.	現象	原因	対処方法
76	通話中、音声に遅延/途切れ等が発生する。	ネットワーク接続が不安定な状態になっている可能性があります。	SC210 の画面切り替えメニューに「表 6-10 通話中の遅延/パケットロス発生時警告表示」「表 6-11 回線異常発生時警告表示」が表示されていないか確認してください。 ※警告表示がない場合でも、電波状態により本現象が発生するケースがあります。 社内の IP ネットワーク機器にて QoS 設定による優先制御が可能な場合は、SC210 設定「音声優先制御(QoS)」を設定してください。
77	保留/転送できない。	ネットワーク接続が不安定になっており、自端末と IP-PBX/ビジネスホン間で回線異常が発生している可能性があります。	「6 表示メッセージ」の「表 6-11 回線異常発生時警告表示」を参照し、回線異常発生時の警告表示(タイムB)がないか確認してください。 警告表示がある場合、ネットワーク接続環境を見直してください。 社内の IP ネットワーク機器にて QoS 設定による優先制御が可能な場合は、SC210 設定「SIP 優先制御(QoS)」を設定してください。
78	マルチタスク画面表示中に着信すると、一瞬だけバナーが表示される。	マルチタスク画面表示中はバックグラウンド着信と判断されるため、一瞬だけバナーが表示されます。	動作には問題ありません。

## 第 5 章 トラブルシュート

表 5-11 トラブルシュート(11/16)

No.	現象	原因	対処方法
79	通話中にエコーが発生する。	マイクで拾った音をスピーカーで出力することを繰り返してしまうことで発生します。	スマートフォンのハードウェアキーによるスピーカーレベルを調整してください。 SC210 によるマイクレベルを調整してください。 エコーキャンセル機能を ON にしてください。
80	モバイルデータ通信(4G/5G)を使用して通話中に通話が切断される。	Wi-Fi の自動接続が有効となっていると通話が切断される場合があります。	接続実績があるアクセスポイントに自動接続される場合があります。 Wi-Fi を OFF にするか、接続してしまうアクセスポイントの設定を削除してください。
81	モバイルデータ通信を使用しているときに、携帯発着信があると IP-PBX/ビジネスホンの再接続が実行される。	モバイルネットワーク接続中に携帯発着信をすると 4G が 5G に変更となり、IP アドレスが変更となる場合があります。このとき、SIP サービスの再起動が実施されます。	詳細は、「4.8 内線通話中に携帯発信/着信する」の留意事項を参照してください。
82	プロファイル自動切り替え: ON を選択しているが、プロファイルが切り替わらない。	Wi-Fi 接続時、接続先アクセスポイントの確認画面が表示され、プロファイルが切り替わっていない可能性があります。	端末の Wi-Fi 設定にて、「接続を確認」のチェックが ON になっている場合は OFF にしてください。
83	内線着信できない。	社外の公衆 Wi-Fi や個人宅の Wi-Fi アクセスポイントなど日立 IP-PBX に接続していないアクセスポイントに接続している可能性があります。	社外の公衆 Wi-Fi や個人宅の Wi-Fi アクセスポイントなどからの接続利用は未サポートです。 接続実績があるアクセスポイントに自動接続される場合があるため、上記のアクセスポイントの設定を削除してご利用ください。
84	よく使う連絡先、履歴を編集し、画面遷移やアプリ再起動をすると編集した内容が反映されない。	アプリケーション内で予期せぬエラーが発生した可能性があります。	端末を再起動してください。 端末を再起動しても現象が変わらない場合はアプリケーションをアンインストール後、再度インストールしてください。
85	モバイルデータ通信(4G/5G)との通話で、保留や転送操作等で、通話音声は著しく歪んで全く聞き取れなくなる場合がある。	コーデックの設定が誤っている可能性があります。	モバイルデータ通信使用時のコーデックは Speex/8000 を推奨しております。推奨設定で使用してください。
86	同じようなトラブル事象が何度も発生する。	アプリケーションもしくは端末が不安定な状態になっている可能性があります。	端末を再起動してください。 端末を再起動しても現象が変わらない場合はアプリケーションをアンインストール後、再度インストールしてください。

## 第5章 トラブルシュート

表 5-12 トラブルシュート(12/16)

No.	現象	原因	対処方法
87	通話中に端末を耳から離してもディスプレイが非表示のままとなる。	通話中は誤操作を防ぐため近接センサーが動作し、ディスプレイは非表示となります。	近接センサーがシール等で塞がれていないか確認してください。
88	バックグラウンド着信の際、バイブレーションは鳴動するが、着信音が鳴動しない。	SC210をバックグラウンドに移行した直後に着信を受けた場合、着信音が鳴動しない場合があります。	動作には問題ありません。 SC210 画面より着信に应答し、通話が可能です。 なお、バイブレーションは必ず「オン」の設定にてご利用ください。
89	通話切断後、切断メッセージが表示されたままとなる。	アプリケーションもしくは端末が不安定な状態になっており、SC210 の画面が更新できない状態となっている可能性があります。	アプリケーションを再起動してください。また、それでも改善できない場合は端末を再起動してください。
90	遅延/パケットロス発生時警告が表示されなくても音声途切れるときがある。	ネットワーク状況により、通話中のパケットの遅延時間が 200(ms)未満でも音声の途切れや乱れが発生する場合があります。	ネットワーク状況が原因と考えられますので、より電波状態が良い環境でご利用ください。
91	モバイルデータ通信でコーデックを Speex/8000 に設定しているにも関わらず、音声途切れるときがある。	Speex/8000 の場合、ネットワーク状況によりパケット受信の順序逆転が頻繁に発生すると、音声途切れることがあります。	音声の乱れが頻繁に続く場合は、電波状態が良い環境でご利用するか、コーデックを PCMU に変更してご利用ください。
92	新規に SC210 をインストールする場合にスワイプメニューが表示できない場合がある。	-	インストール後に SC210 を再起動してください。
93	転送時の通話者切り替え中に携帯着信を受けた場合に保留状態を維持できずに切断されることがある。	-	再度おかけ直してください。
94	IP-PBX/ビジネスホンへの再接続が繰り返し実行される。	ネットワーク状況が不安定になっており、自端末と IP-PBX/ビジネスホン間で回線異常が発生している可能性があります。	機内モードを ON にして、Wi-Fi 接続およびモバイルデータ通信接続を全て無効にした後、再度機内モードを OFF に戻し、ネットワークの接続を確認してください。 それでも改善しない場合は端末を再起動してください。
95	発信後、セカンドダイヤルトーン「プププ」音がしばらく鳴動した後、切断され、ビジートーン「ツーツー」音が鳴動する。	相手が IP-PBX/ビジネスホンに接続されていない(圏外移動中等)可能性があります。	しばらくしてから、おかけ直してください。

## 第5章 トラブルシュート

表 5-13 トラブルシュート(13/16)

No.	現象	原因	対処方法
96	通話中に端末設定から音量を変更した場合、SC210の通話がスピーカーになる。	端末設定にて音量を変更すると、スピーカーから音が流れ、音量の確認が実施されます。その際にSC210の通話もスピーカーになります。	SC210にてスピーカーを解除してください。
97	着信音設定画面にて着信音を選択したが、設定画面に選択した着信音が表示されず、設定できない。	濁点、半濁点等を含む着信音ファイルは着信音に設定できない場合があります。	設定画面に選択した着信音が表示されず、設定できない場合は、着信音のファイル名を半角英数字のみとし、登録を行ってください。着信音の登録方法は4.14.2章、SC210の着信音を設定するを参照ください。
98	着信音が鳴動後数秒で止まってしまう。また、以降の着信にて着信音が鳴動しなくなる。	-	アプリケーションを再起動してください。また、それでも改善できない場合は端末を再起動してください。
99	不在着信時に〇〇さんから着信ではなく1件の通知と通知センターに表示される。	OSの設定によるものです。	2.10の「プレビューを表示」を確認し、設定してください。
100	不在着信時に通知センターに不在着信通知が残らない。	OSの設定によるものです。	2.10の「履歴に表示(iOS11)・通知センター(iOS12)」を確認し、設定してください。
101	「SC210が動作していない可能性があります。」という通知が表示される。	SC210が終了している可能性があります。	SC210の利用を継続する場合は通知をタップしSC210を起動してください。継続しない場合は通知を消すか、通知をそのままにしてください。
102	端末付属のイヤホンマイクを接続して、すぐにダイヤルタップすると非常に高い音が聞こえる。	OSの制限です。	ダイヤル操作は可能であるためそのままお使いください。
103	BT音鳴動中にSC210がバックグラウンド状態となり、内線着信した場合、着信音が鳴動しない。	OSの制限です。	バイブレーションによる着信検知は可能であるためそのままお使いください。
104	保留解除時に異常音が聞こえる。	保留解除時に大きな音をマイクが拾った場合に発生する可能性があります。	背景音の大きい場所の場合発生する可能性があるため静かな場所に移動してください。
105	(プッシュ通知による着信利用時) プッシュ通知による着信設定ができない。	プッシュ通知の設定に不備がある可能性があります。	「2.6 プッシュ通知による着信設定手順」を参照し、SC210のスマートフォン内線アダプタ接続設定、プッシュ通知設定が正しく設定されていることを確認してください。 解消しない場合はシステム管理者にお問い合わせください。
106	(プッシュ通知による着信利用時) プッシュ通知設定後、着信できない。	プッシュ通知の受信に失敗/受信が遅延しており、プッシュ通知による着信が利用不可になっている可能性があります。	ネットワーク接続環境を見直し、IP-PBX/ビジネスホンへの再接続を実施してください。解消しない場合はシステム管理者にお問い合わせください。

## 第 5 章 トラブルシュート

表 5-14 トラブルシュート(14/16)

No.	現象	原因	対処方法
107	「SC210 が終了されました。」という通知が表示される。	アプリケーションの終了操作により、SC210 が終了されました。	SC210 の利用を継続する場合は通知をタップし SC210 を起動してください。継続しない場合は通知を消すか、通知をそのままにしてください。
108	保留中に SC210 をバックグラウンドにした場合、保留音の音量が小さくなる。	OS の制限です。	通話に影響はございませんのでそのままお使いください。受話音量の調整は「4.13.4 受話音量を調整する」を参照願います。
109	SC210 利用中にスクリーンショットを撮影したとき、「アプリケーションの動作が不安定になっています。」と表示される場合がある。	OS の仕様です。 デバイスを競合しているため、他アプリケーションを起動すると音声デバイスが取られ、SC210 の動作が不安定な状態になっています。	SC210 の再起動を行い、再度おかけ直してください。
110	SC210 履歴画面で「個別削除」で削除する履歴を選択した後、表示種別(着信/発信/全て)を切り替えると、切り替え前に選択していた履歴が削除されてしまう。	-	「個別削除」で削除する履歴を選択した後は表示種別を切り替えないで削除してください。
111	(「基本通話と統合」設定利用時) iOS 標準電話アプリの通話中画面において、SC210 ボタンをタップしても SC210 画面表示に切り替えることができない。	通話中、ホーム画面に遷移するなど端末のロック解除操作を実施している途中に携帯着信に応答したため、画面表示が正しく動作していない可能性があります。	ホーム画面に遷移するなどして、再度端末のロック解除操作を実施した後、SC210 のアイコンをタップして、SC210 を起動(画面を表示)してください。
112	(「基本通話と統合」設定利用時) 端末付属のイヤホンマイクを接続しても、着信音がイヤホンマイクとスピーカー両方から鳴動する。	OS の仕様です。 SC210 設定「基本通話と統合」を ON にし、iOS 標準電話アプリとの動作を統合した場合、左記動作となります。	端末のサイレントスイッチを ON にするか、SC210 設定「基本通話と統合」を OFF にしてご利用ください。
113	(「基本通話と統合」設定利用時) iOS 標準電話アプリの着信画面に相手端末の電話番号が表示されない。	-	通話には影響はございませんので、そのままお使いください。 電話番号を確認する際は、SC210 のダイヤル画面をご確認ください。
114	(「基本通話と統合」設定利用時) 内線通話が転送された後、その後の携帯着信等で着信画面に表示される通話相手の電話番号が、転送後ではなく、転送前の通話相手の電話番号になる。	IP-PBX の転送方式設定により、左記動作となる場合があります。	通話に影響はございませんので、そのままお使いください。 ※IP-PBX の転送方式設定については、システム管理者にお問い合わせください。
115	(「基本通話と統合」設定利用時) 通話切断直後にダイヤルキーのタップ音が突然大きくなる場合がある。	OS の制限です。	ダイヤル操作は可能であるためそのままお使いください。

## 第 5 章 トラブルシュート

表 5-15 トラブルシュート(15/16)

No.	現象	原因	対処方法
116	(「基本通話と統合」設定利用時) 内線通話中の携帯着信時に割り込み音(ププッ)が鳴動しない。	SC210 設定「エコーキャンセル」が“OFF”に設定されている可能性があります。	SC210 設定「エコーキャンセル」は必ず“ON”に設定してご利用ください。“OFF”の場合、内線通話中の携帯着信時に割り込み音(ププッ)が鳴動しない場合があります。
117	音楽などのメディア再生中、内線着信応答で内線通話できるが、メディア音が同時に流れる場合がある。	OS の制限です。	SC210 をバックグラウンド状態にしてください。メディア音の再生が停止します。
118	簡単設定画面、詳細設定画面の設定値を変更し、画面遷移せずに端末の電源を OFF した場合、設定値が保存されている端末と保存されていない端末がある。	端末の仕様です。 ご利用の端末により、動作が異なります。	設定値を変更した場合は、必ず「完了」をタップし、設定画面を完了させてください。
119	SC210 の画面が勝手に上下動作を繰り返す。	OS の制限です。	通話には影響はございませんので、そのままお使いください。 通話終了後、アプリケーションを再起動しても改善できない場合は端末を再起動してください。
120	接続許可アクセスポイント設定して WiFi 環境で利用した場合、SC210 が IP-PBX/ビジネスホンを接続できない。	OS 設定にて SC210 の位置情報利用が許可されていない場合があります。	OS 設定画面→「SC210」アイコン→「位置情報」をタップし、「常に許可」に設定してください。
121	通話中に突然送話/受話が不可となる。	OS 12.4 以降では OS の特性上、SC210 画面が非表示になると送話/受話が不可となる場合があります。	SC210 画面を前面に表示してください。または、SC210 の「基本通話と統合」設定を ON にしてください。
122	SC210 が動作していない可能性があります。というメッセージが出た。	定期的なプッシュ通信がネットワークの影響で端末まで届かず失敗している場合があります。	通話には影響はございませんので、そのままお使いください。
123	(Bluetooth 機器利用時) 通常の内線通話と比較し、音質の劣化、遅延が発生する。	端末⇄Bluetooth 間の通信や Wi-Fi 環境、Bluetooth 機器の性能の影響により、事象が発生する可能性があります。	周囲の通信環境や機器を確認の上、環境を変化させてください。 (通話場所を変える・端末と Bluetooth 機器を近づける等)
124	(Bluetooth 機器利用時) 端末との Bluetooth 機器接続が切れた後、再接続できない。	Bluetooth 機器によっては端末との再接続ができない場合があります。	通話切断後、端末と Bluetooth 機器を再起動してください。
125	(Bluetooth 機器利用時) 端末との Bluetooth 機器接続が切れた後、再接続したが通話音声がかえらない、もしくは、マイクから音声が入力できない。	再接続後も使用できる仕様としていますが、Bluetooth 機器によっては、事象が発生する場合があります。	通話切断後、Bluetooth 機器の接続をご確認ください。 確認後、復旧しない場合、端末と Bluetooth 機器を再起動してください。

## 第5章 トラブルシュート

表 5-16 トラブルシュート(16/16)

No.	現象	原因	対処方法
126	(Bluetooth 機器利用時) マルチ機能ボタン操作で着信に 応答できない。	マルチ機能ボタン操作に対応する場 合、SC210 設定の「基本通話と統合 設定」を ON にする必要があります。	利用可能な Bluetooth 機器や条件に ついては、システム管理者にご確認 ください。
127	(Bluetooth 機器利用時) 通話中、Bluetooth 機器から音声 の入出力ができない。	通話中、Bluetooth 機器との接続が 切断されることで、音声の入出力が Bluetooth 機器から端末のマイク、ス ピーカーに切り替わっている可能性 があります。	Bluetooth 機器との接続が切断され ている場合は、通話切断後、端末と Bluetooth 機器を再接続してくださ い。
128	(Bluetooth 機器利用時) 通話中やスピーカーモード切り 替え時、音声の入出力が端末の マイク、スピーカーから Bluetooth 機器に再度切り替わらない。	Bluetooth 機器のマルチボタン押下 やスピーカーモード切り替えにより、 音声の入出力が Bluetooth 機器から 端末のマイク、スピーカーに切り替 わった後、スピーカーモードを解除し ても、音声の入出力が Bluetooth 機 器に戻らない場合があります。	通話切断後、端末と Bluetooth 機器 を再起動してください。
129	(会議利用時) ダイヤル画面で「会議開始特番 +グループ番号」を入力して発信 したが、会議を開始できない。	すでに同一グループ番号の会議が 開始されている可能性があります。	会議が開始済みの場合、新たに会 議を開始することはできません。 会議に参加する場合は「4.20.1 会 議の開始／参加」に記載の手順を ご参照ください。
130	(会議利用時) ダイヤル画面で「会議終了特番 +グループ番号」を入力して発信 したが、会議を終了できない。	会議を開始した端末以外から操作を している可能性があります。	会議終了特番ダイヤルによる会議 終了は、会議を開始した端末(待受 中)からのみ実施可能です。
131	(会議利用時) 会議通話中に携帯着信を受けた 場合、内線通話が切断される。	仕様の動作となります。 会議通話では保留操作不可である ため、携帯発信時/着信時または応 答時の動作設定に関わらず、内線 通話は切断となります。	携帯通話切断後、おかけ直してくだ さい。
132	(プッシュ通知による着信利用時) iPhone の標準電話アプリの履歴 に「着信準備中です。」などが表 示される。	プッシュ通知受信により、稀に標準 電話アプリの履歴に残る場合があり ます。	SC210 利用には問題ありませんの で、継続してご利用ください。
133	(プッシュ通知による着信利用時) 通知画面に「サーバ登録の更新 に失敗しました」と表示される場 合がある。	SC210 と IP-PBX/ビジネスホンと の定期登録が失敗している可能性 があります。	SC210設定内容とIP-PBX/ビジネ スホンの局データにアンマッチが ないか、システム管理者に確認依 頼してください。
134	(プッシュ通知による着信利用時) 発信元の端末にて発信(呼出音 が鳴動する)に時間がかかる。	着信側の端末にてネットワーク切り 替え(Wi-Fi⇄モバイルデータ通信) が発生し、着信に時間がかかっている 可能性があります。	しばらくお待ちください。



## 第 5 章 トラブルシュート

表 5-17 トラブルシュート(Web 電話帳連携時)

No.	現象	原因	対処方法
135	Web 電話帳アプリからの発信ができない。	SC210 が発信できない状態である可能性があります。	通信エラーメッセージまたは、トースト通知の内容を確認してください。 詳細は表 6-1 表 6-2 を確認してください。 (「切断されました(XXX)」が表示された場合は、しばらく待ってから再度発信するか、SC210 を再起動してから再度発信してください。)
136		使用できない電話番号で発信している可能性があります。	Web 電話帳で設定している電話番号を見直してください。 Web 電話帳からの発信時に電話番号として使用できる文字は、半角の「数字、“#”、“*”」でかつ 32 文字以内です。ただし、電話番号に半角の“-”、“(”、“)”」が含まれている場合は削除して発信します。
137	発着信時に Web 電話帳の登録情報が表示されない。	Web 電話帳サーバと接続できていない可能性があります。	・「Web 電話帳設定」を確認してください。 ・Web 電話帳アプリと同様の Web 電話帳設定か確認してください。 ・タイムアウト、接続不可であった場合はネットワーク接続を確認してください。
138		端末のアドレス帳に同じ電話番号で登録がある場合があります。	端末のアドレス帳と Web 電話帳アプリに同一の電話番号がある場合、端末のアドレス帳の登録を優先し表示されます。
139	Web 電話帳で履歴が更新されない	Web 電話帳サーバと接続できていない可能性があります。	・「Web 電話帳設定」を確認してください。 ・Web 電話帳アプリと同様の Web 電話帳設定か確認してください。 ・タイムアウト、接続不可であった場合はネットワーク接続を確認してください。
140	SC210 のアドレス帳(連絡先)の表示順序と端末のアドレス帳の表示順序が異なる。	端末の OS により、SC210 と端末のアドレス帳の表示順序が異なります。	対処方法はありません。
141	モバイル接続(4G/5G)環境で使用する場合、サービス状態アイコンが赤色になったり、緑色でも発着信ができなくなる。	端末が Wi-Fi 接続されていると左記事象となります。	端末の Wi-Fi 設定を OFF してください。

## 第 6 章 表示メッセージ

### 6 表示メッセージ

本章では SC210 の表示メッセージについて説明します。

表 6-1 通信エラーメッセージ

No.	メッセージ内容	詳細内容	対処方法
1	番号が間違っています(400)	入力した番号が無効です。	正しい番号を入力してください。
2	通話料がかかります	指定した電話番号は、通話料金が発生します。	※本バージョンでは表示されません。
3	切断されました(XXX)	相手先が使用中か着信できない状態です。	しばらく待ってからおかけ直してください。
4	相手先が見つかりません	発信先の電話番号が間違っています。	発信先の電話番号を確認してください。
5	現在電話に出られません	相手先を呼出しましたが応答がありません。	しばらく待ってからおかけ直してください。
6	番号が間違っています(484)	入力した番号が不完全です。	番号を最後まで入力してください。
7	要求は保留されました	相手先で保留されています。	※本バージョンでは表示されません。
8	切断されました(900)	アプリケーション内で予期せぬエラーが発生しました。	SC210 の再起動を行い、再度おかけ直してください。
9	切断されました(901)	アプリケーションの動作が不安定になっています。	SC210 の再起動を行い、再度おかけ直してください。

## 第 6 章 表示メッセージ

表 6-2 トースト通知(ポップアップ)メッセージ

No.	メッセージ内容	詳細内容	対処方法
1	設定画面をロックしました	設定画面をロックしました。	—
2	設定画面をロック解除しました	設定画面をロック解除しました。	—
3	電話番号の存在しない連絡先です	電話番号の存在しない連絡先です。	電話番号を確認してください。
4	連絡先機能は使用できません	電話帳機能は使用できません。	—
5	履歴機能は使用できません	履歴機能は使用できません。	—
6	不正な電話番号です	発信できない電話番号です。	電話番号を確認してください。
7	電話番号の桁数が上限を超えています	発信先番号が 32 文字を超過しています。	電話番号を確認してください。
8	サーバ未登録です	サーバ未登録です。	IP-PBX/ビジネスホン登録完了後、おかけ直してください。
9	端末が携帯通話中です	端末が携帯通話中です。	携帯通話を終了してからおかけ直してください。
10	SC210 が通話中です	SC210 を用いた通話中です。	SC210 を用いた通話終了後、おかけ直してください。
11	発信できませんでした(※) ※エラーコード	発信が以下(1)~(3)のエラーコードの理由により失敗しています。 (1):URL が 2048 文字を超えている (2):発信イベントではない (3):内部のパラメータに誤りがある	管理者にお問い合わせください。
12	不正な電話番号です	発信先の電話番号に誤りがあります。	電話番号を見直したうえで、再度 Web 電話帳から発信してください。
13	Web 電話帳サーバ: 認証に成功しました。	[認証確認ボタン押下時のみ] 認証に成功しました。	—
14	Web 電話帳サーバ: 認証に失敗しました。テナント ID、ログイン ID、API トークンをご確認ください。	[認証確認ボタン押下時のみ] テナント ID、ログイン ID、API トークンのいずれかに誤りがあります。	テナント ID、ログイン ID、API トークンを修正し、再度認証確認ボタンを押してください。
15	Web 電話帳サーバ: サーバへの接続に失敗しました。通信状態または設定内容を確認してください。	[認証確認ボタン押下時のみ] サーバのアドレスが誤っているか、サーバと端末とのネットワーク接続が不安定な状態になっている可能性があります。	IP-PBX/ビジネスホンのアドレスを見直したうえで再度認証確認ボタンを押してください。
16	Bluetooth デバイスが接続されました	Bluetooth 機器が接続されました。	—
17	Bluetooth デバイスが切断されました	Bluetooth 機器が切断されました。	—
18	発信できませんでした	サーバ登録に失敗したため、発信できませんでした。	ネットワーク接続やアプリの設定を見直してください。

## 第 6 章 表示メッセージ

表 6-3 バナー・通知センター表示メッセージ

No.	メッセージ内容	詳細内容	対処方法
1	～から着信	～は着信元番号が表示されます。	—
2	SC210 が動作していない可能性があります。	SC210 が終了している可能性があります。	SC210 の利用を継続する場合は通知をタップし SC210 を起動してください。継続しない場合は通知を消すか、通知をそのままにしてください。
3	SC210 が終了されました。	SC210 稼働中にアプリケーションの終了操作が実施されたため、SC210 が終了しました。	

## 第 6 章 表示メッセージ

表 6-4 確認/注意メッセージ(1/2)

No.	メッセージ内容	詳細内容	対処方法
1	設定内容を見直すか電波が繋がりにくい場所で再接続ボタンをタップしてください。	STUN プロトコルにてタイムアウトが発生した場合に表示します。	電波が繋がりにくい場所で再接続ボタンをタップしてください。
2	※一度履歴を削除すると元に戻すことはできません 全ての履歴を削除しますか？	履歴を削除するときの確認メッセージです。	—
3	このアクセスポイントは既にリストに入っています。	このアクセスポイントは既にリストに入っています。	—
4	指定された値は範囲外です。～ 範囲: ●	入力した値は範囲外です。	●の範囲に入る値を再度入力し直してください。
5	最大文字数超過	文字数が多すぎます。	文字数を減らしてください。
6	範囲外です	入力した値が範囲外です。	範囲内に収まるようにしてください。
7	ポート範囲外です	入力したポートの値が範囲外です。	範囲内に収まるようにポートを設定してください。
8	設定値不正	設定した値が間違っています。	正しい値を設定してください。
9	登録数を超過しています。最大登録数:●	登録数を超過したときに表示するメッセージです。	●の値以下の登録数になるよう登録してください。
10	1 つ以上のコーデックを指定してください	コーデックが指定されていません。	コーデックを 1 つだけ指定してください。
11	現在、本アプリケーションを利用できません。他の VoIP アプリケーションが起動されている可能性があります。本アプリケーションと他の VoIP アプリケーションの併用利用はできません。	アプリケーション起動時に表示するメッセージです。	「OK」をタップします。 SC210 を利用する場合、SC200 および他の VoIP アプリケーションを終了してください。
12	メールアカウントがありません	ログ出力のためのメールアドレスがありません。	端末にメールアドレスを登録してください。
13	メールを送信するにはメールアカウントを設定してください。	ログ出力のためのメールアドレスがありません。	端末にメールアドレスを登録してください。
14	指定されたネットワークの種類●は現在利用できない状態です	●の種類ネットワークが利用できません。	●の種類ネットワークの状態を確認してください。また、機内モードになっていないかなど、端末内の接続設定も見直してください。
15	●のサーバへ登録できませんでした。(エラー:XXX)	●の IP-PBX(サーバ)に SC210 のユーザ ID などが設定できませんでした。	パスワードなど、アカウント設定を見直してください。
16	許可されていないサーバ(SIPドメイン:●)	SIPドメインが●である SIP サーバが SC210 で使用可能な IP-PBX やビジネスホンではありません。	SC210 で使用可能な当社の IP-PBX やビジネスホンを使用してください。
17	SIP サーバの初期化に失敗しました。(エラー:XXX)	IP-PBX(サーバ)に SC210 のユーザ ID などが設定できませんでした。	パスワードなど、アカウント設定を見直してください。正しかった場合には SC210 を再起動してください。

## 第 6 章 表示メッセージ

表 6-5 確認/注意メッセージ(2/2)

No.	メッセージ内容	詳細内容	対処方法
18	アプリケーションの動作が不安定になっています。OK を押した後にアプリケーションを再起動してください。	アプリケーションの動作が不安定になっています。	OK を押した後にアプリケーションを再起動してください。
19	ご使用の端末は動作保障外です。	OS や端末のバージョンが、動作保証の対象外の可能性があります。	システム管理者にお問い合わせください。
20	ネットワークの接続に失敗しました。端末のネットワーク機能を一度無効化した後、再度有効化してください。	ネットワークへの接続に失敗しています。	端末を再起動するか、端末のネットワーク設定を一度 OFF にしたうえで再度 ON にしてください。
21	サーバ登録中です。 発信をキャンセルしますか？	Web 電話帳から発信した際に、登録に時間がかかっている場合出力されます。	発信を一度取りやめる場合、OK を押してください。

## 第 6 章 表示メッセージ

表 6-6 設定誤り警告表示(Wi-Fi/モバイルデータ通信共通)(1/2)

No.	メッセージ内容	詳細内容	対処方法
1	ユーザ ID: 設定してください	ユーザ ID が設定されていません。	ユーザ ID を設定してください。 半角英数字、“#”、“*”
2	ユーザ ID: 最大文字数超過	ユーザ ID で使用可能な文字数を超えています。	50 文字以内で設定してください。
3	表示名: 最大文字数超過	表示名で使用可能な文字数を超えています。	50 文字以内で設定してください。 半角英数字
4	認証 ID: 設定してください	認証 ID が設定されていません。	認証 ID を設定してください。 半角英数字、“#”、“*”
5	認証 ID: 最大文字数超過	認証 ID で使用可能な文字数を超えています。	50 文字以内で設定してください。
6	ドメイン: 設定してください	ドメインが設定されていません。	ドメインを設定してください。
7	ドメイン: 最大文字数超過	ドメインの設定で使用可能な文字数を超えています。	255 文字以内で設定してください。
8	ドメイン: 設定値不正	ドメインの設定値が間違っています。	正しい設定値を設定してください。
9	ドメイン: ポート範囲外です	ドメインの設定がポートの範囲を外れています。	ポートの範囲内に設定してください。
10	プロキシ: 最大文字数超過	プロキシの設定で使用可能な文字数を超えています。	261 文字以内で設定してください。
11	プロキシ: 設定値不正	プロキシの設定値が間違っています。	正しいスマートフォン内線アダプタの IP アドレスおよび通信ポートを設定してください。
12	プロキシ: ポート範囲外です	プロキシの設定がポートの範囲を外れています。	ポートの範囲内に設定してください。
13	レジストラ: 最大文字数超過	レジストラの設定で使用可能な文字数を超えています。	261 文字以内で設定してください。
14	レジストラ: 設定値不正	レジストラの設定値が間違っています。	正しい設定値を設定してください。 レジストラサーバアドレス:ポート番号
15	レジストラ: ポート範囲外です	レジストラの設定がポートの範囲を外れています。	ポートの範囲内に設定してください。
16	レジスター間隔: 設定してください	レジスター間隔が設定されていません。	レジスター間隔を設定してください。 デフォルト:3600(秒)
17	レジスター間隔: 最大文字数超過	レジスター間隔が使用可能な文字数を超えています。	4 文字以内に設定してください。
18	レジスター間隔: 範囲外です	レジスター間隔の設定が範囲外です。	範囲内に設定してください。 60~3600(秒)
19	タイマー間隔: 設定してください	タイマー間隔が設定されていません。	タイマー間隔を設定してください。 デフォルト:300(秒)
20	タイマー間隔: 最大文字数超過	タイマー間隔が使用可能な文字数を超えています。	4 文字以内に設定してください。
21	タイマー間隔: 範囲外です	タイマー間隔の設定が範囲外です。	範囲内に設定してください。 90~1800(秒)

## 第 6 章 表示メッセージ

表 6-7 設定誤り警告表示(Wi-Fi/モバイルデータ通信共通)(2/2)

No.	メッセージ内容	詳細内容	対処方法
22	STUN サーバ: 設定してください(*1)	STUN サーバアドレスが設定されていません。	STUN サーバアドレスを設定してください。
23	STUN サーバ: 最大文字数超過(*1)	STUN サーバアドレス設定で使用可能な文字数を超えています。	261 文字以内で設定してください。
24	STUN サーバ: 設定値不正(*1)	STUN サーバの設定値が間違っています。	正しい設定値を設定してください。
25	STUN サーバ: ポート範囲外です(*1)	STUN サーバの設定値がポートの範囲を外れています。	ポートの範囲内で設定してください。
26	SIP ポート: 設定してください	SIP ポートが設定されていません。	SIP ポートを設定してください。 デフォルト:5060
27	SIP ポート: 最大文字数超過	SIP ポートが使用可能な文字数を超えています。	5 文字以内に設定してください。
28	SIP ポート: 範囲外です	SIP ポートの設定が範囲外です。	範囲内に設定してください。 1024~65535
29	KeepAlive: 設定してください(*2)	KeepAlive が設定されていません。	KeepAlive を設定してください。 デフォルト:15
30	KeepAlive: 最大文字数超過(*2)	KeepAlive が使用可能な文字数を超えています。	3 文字以内に設定してください。
31	KeepAlive: 範囲外です(*2)	KeepAlive の設定が範囲外です。	範囲内に設定してください。 5~300(*3)

(\*1)STUN 有効が ON に設定されている場合に表示されます。

(\*2)KeepAlive 送信が ON に設定されている場合に表示されます。

(\*3)「レジスター間隔」設定値の半分未満の値に設定してください。

表 6-8 設定誤り警告表示(「Wi-Fi のみ」設定時)

No.	メッセージ内容	詳細内容	対処方法
1	BG 着信を許可する 推奨値:ON	「BG 着信を許可する」が OFF になっています。	推奨値に従い「BG 着信を許可する」を ON にしてください。
2	トランスポート: TCP が選択	「トランスポート」に TCP が選択され、かつ「プロキシ」に IP アドレス設定がない。	Wi-Fi 接続を使用する場合は「トランスポート」に UDP を選択してください。
3	コーデック: Speex のみ選択	「コーデック選択」が Speex/8000 のみで、かつ「プロキシ」に IP アドレス設定がない。	Wi-Fi 接続を使用する場合は「コーデック選択」に PCMU を設定してください。
4	コーデック: Opus のみ選択	「コーデック選択」が Opus のみで、かつ「プロキシ」に IP アドレス設定がない。	Wi-Fi 接続を使用する場合は「コーデック選択」に PCMU を設定してください。



## 第 6 章 表示メッセージ

表 6-9 設定誤り警告表示(「モバイルデータ通信のみ」設定時)

No.	メッセージ内容	詳細内容	対処方法
1	プロキシ: 設定してください	プロキシが設定されていません。	プロキシを設定してください。
2	STUN 有効: ON にしてください	STUN 有効が OFF になっています。	STUN 有効を ON にしてください。
3	レジスター間隔: 600 秒以上必須	トランスポートが TCP で、かつレジスター間隔が 600 秒未満になっています。	レジスター間隔を 600 秒以上に設定してください。
4	ヘッダ書き換え: 推奨値:ON	トランスポートが TCP で、ヘッダ書き換え、が OFF になっています。	推奨値に従い、必ずヘッダ書き換え、を ON にしてください。
5	BG 着信を許可する 推奨値:ON	BG 着信を許可する、が OFF になっています。	推奨値に従い、BG 着信を許可する、を ON にしてください。
6	KeepAlive: 推奨値:ON	KeepAlive が OFF になっています。	推奨値に従い、KeepAlive を ON にしてください。
7	KeepAlive: 推奨値:15 秒	トランスポートが UDP 接続で、かつ KeepAlive が 15 秒以外に設定されています。	推奨値に従い、KeepAlive を 15 秒に設定してください。

### 留意事項

- 「詳細設定」の「ネットワーク」の「使用するネットワーク」で「全て」(将来拡張機能用)を選択した場合、上記表 6-6、および表 6-7 関係の設定誤り警告表示がされません。

表 6-10 通話中の遅延/パケットロス発生時警告表示

No.	メッセージ内容	詳細内容	対処方法
1	最大遅延時間: xxx	最大 xxx(ms)の遅延が発生しています。 遅延時間が 200(ms)以上の場合表示されます。最大遅延時間はその通話内で遅延時間が一番長いものを画面更新時に表示します。 本メッセージ表示時は、ネットワーク接続が不安定な状態であり音声途切れが発生している可能性があります。	電波状態が良い環境でご利用ください。
2	ロスパケット数: xxx	ロスパケット数は累積値を表示します。 本メッセージ表示時は、ネットワーク接続が不安定な状態になっている可能性があり、音声がかかる場合があります。	電波状態が良い環境でご利用ください。

## 第 6 章 表示メッセージ

表 6-11 回線異常発生時警告表示

No.	メッセージ内容	詳細内容	対処方法
1	通信エラー: タイムアウト B	ネットワーク接続が不安定な状態になっている可能性があり、IP-PBX/ビジネスホンの通信に異常が発生しています。	電波状態が良い環境でご利用ください。
2	通信エラー: タイムアウト F	ネットワーク接続が不安定な状態になっている可能性があり、IP-PBX/ビジネスホンの通信に異常が発生しています。	電波状態が良い環境でご利用ください。

表 6-12 Web 電話帳連携異常発生時警告表示※

No.	メッセージ内容	詳細内容	対処方法
1	Web 電話帳: X:タイムアウト	ネットワーク接続が不安定な状態になっている可能性があり、Web 電話帳サーバとの通信に異常が発生しています。 ※発信時、もしくは着信時に本メッセージが表示される場合でも、Web 電話帳サーバへの履歴の保存が成功している場合があります。	電波状態が良い環境でご利用ください。
2	Web 電話帳: X:認証エラー	端末 ID、ログイン ID、パスワードのいずれかに誤りがあります	端末 ID、ログイン ID、パスワードを見直してください。
3	Web 電話帳: X:エラーYYY	サーバとのアクセスが以下の理由コード YYY により失敗した場合は表示されます。 400: 必須パラメータなし 405: メソッド誤り 500: リクエスト内のパラメータ不備	管理者に報告してください。
4	Web 電話帳: X:接続エラー	Web 電話帳サーバに上記以外の理由で接続失敗しています。	サーバのアドレスを見直してください。

※本警告表示で使用されている X に入る数字に応じてどの機能で発生したかを指します。

- 1: Web 電話帳サーバへのログイン
- 2: Web 電話帳の登録情報の表示
- 3: Web 電話帳サーバへの発信履歴の保存
- 4: Web 電話帳サーバへの着信履歴の保存

表 6-13 プッシュ通知異常発生時警告表示

No.	メッセージ内容	詳細内容	対処方法
1	プッシュ機能: プッシュモード遷移エラー	ネットワーク接続が不安定な状態になっている可能性があり、IP-PBX/ビジネスホンの通信に異常が発生しています。	電波状態が良い環境でご利用ください。

## 第 6 章 表示メッセージ

---

---

表 6-14 位置情報アクセス不可時の警告表示

No.	メッセージ内容	詳細内容	対処方法
1	ネットワーク機能: SSID 判定不能	OS にて SC210 の位置情報利用が許可されていない場合があります。	OS 設定にて SC210 の位置情報を「常に許可」に設定してください。

# 付録 A パラメータシート

## 付録A パラメータシート

SC210 の「Wi-Fi 接続利用」と「モバイルデータ接続利用」に対する SC210 設定画面(詳細設定)の推奨値を示します。(重要事項を**赤字文字**で示す。)

### ①Wi-Fi 接続利用時の詳細設定

(注意) SC210 をビジネスホンで使用する場合は、No. 22 「DTMF の種類」は「RFC2833」に変更が必要です。

表 A-1 Wi-Fi 接続利用時の詳細設定

No.	カテゴリー	設定項目	初期値	推奨値	補足説明
1	アカウント	ユーザ ID	空白	自内線番号	
2		表示名	空白	←	
3		認証 ID	空白	自内線番号	
4		パスワード	空白	パスワード	PBX のレジスターパスワード
5		ドメイン	空白	IP アドレス	PBX の IP アドレス
6		プロキシ	空白	空白	プッシュ通知を利用する場合のみ スマートフォン内線アダプタの IP アドレスと通信ポートを設定
7		レジストラ	空白	←	
8		レジスター間隔	3600	←	
9		タイマー間隔	300	←	
10		ダイヤルプレフィックス	空白	←	外線発信用のプレフィックスを発信 電話番号に自動付与させる場合 のみ設定
11		外線発信と判断する プレフィックス	選択なし	←	
12	ネットワー ク	接続許可アクセス ポイントリスト(SSID)	空白	←	接続許可する Wi-Fi のみで使用する 場合のみ SSID を指定
13		使用するネットワーク	WiFi のみ	←	<b>初期値から変更していないことを 確認</b> <b>(Wi-Fi 接続利用時は、左記以外 は動作保証なし)</b>
14		SIM 回線使用継続機能	OFF	←	
15		STUN サーバ(有無)	OFF	←	
16		STUN サーバ (IP アドレス)	空白	←	
17		ネットワーク状態不安定 時警告表示	OFF	←	本アプリ Ver.1.25 で追加
18		発信前レジスト機能	OFF	←	
19		SIP	SIP ポート	5060	←
20	ヘッダ情報書き換え		OFF	←	本アプリ Ver.1.25 より初期値を ON から OFF に変更
21	トランスポート		UDP 接続	←	<b>初期値から変更していないことを 確認</b> <b>初期値以外は動作保証なし</b>
22	SIP 優先制御(QoS)有無		OFF	←	呼制御通信に対して優先制御する 場合のみ設定
23	SIP 優先制御(QoS)値		0	←	
24	メディア	コーデック	PCMU	←	Wi-Fi 接続時は左記のみ

## 付録 A パラメータシート

25		DTMFの種類	Inband	Inband / RFC2833	SC210 を IP-PBX で使用する場合は「Inband」、ビジネスホンで使用する場合は「RFC2833」を選択が必要 上記の選択でない場合は保留転送が不可となる
26		エコーキャンセル	ON	←	
27		ジッタバッファ	40 ミリ秒	←	
28		会話継続優先	OFF	←	
29		ビットレート(Speex)	8kbps	←	
30		ビットレート(Opus)	16 kbps	←	
31		音声優先制御(QoS)有無	OFF	←	音声パケットに対して優先制御する場合のみ設定
32		音声優先制御(QoS)値	0	←	
33		マイクミュート動作	OFF	←	会議通話開始時にミュートが必要な場合のみ「ON」
34	一般	基本通話と統合	ON	←	「ON」の場合は、 ①画面ロック時の着信ではロック解除操作が不要となる ②通話中の携帯電話着信があっても通話は継続可能となる 本アプリ Ver.1.25 より初期値を OFF から ON に変更
35		携帯電話着信音利用	OFF	←	本アプリ Ver.1.25 で追加
36		プッシュ通知	ON	OFF	プッシュ通知を利用する場合のみ「ON」を選択
37		常時着信	ON	←	
38		BG 着信を許可する	ON	←	
39		BG 着信時の操作	表示	←	
40		BG 着信時の着信音設定	無効にする	←	
41		携帯発着信時の動作	SC210 を保留	←	「基本通話と統合」を「ON」した場合は、本設定は無効
42		KeepAlive パケット送信 間隔(有無)	OFF	←	
43		KeepAlive パケット送信 間隔(タイマー値)	15	←	
44		ネットワーク変化検知 タイマー(有無)	OFF	←	通話中にタイマー値以内のネットワーク変化(一時的なネットワーク切断等)でも通話状態を維持させたい場合のみ設定
45		ネットワーク変化検知 タイマー(タイマー値)	5 秒	←	
46		ネットワーク変化検知 タイマー(非通話用) (有無)	OFF	←	機状態中にタイマー値以内のネットワーク変化(一時的なネットワーク切断等)でも待機状態を維持させたい場合のみ設定
47		ネットワーク変化検知 タイマー(非通話用) (タイマー値)	5 秒	←	
48		圏内外通知	ON	←	ネットワーク変化による利用不可/復旧をバイブ振動で通知

## 付録 A パラメータシート

					本アプリ Ver.1.25 より初期値を OFF から ON に変更
49		発信/着信履歴の保存	ON	←	Web 電話帳を指定した場合は自動的に「OFF」となるが、手動で「ON」にすることは可能
50	Web 電話帳設定	Web 電話帳	使用しない	←	Web 電話帳を使用する場合は、4.19 章を参照

# 付録 A パラメータシート

## ②モバイルデータ通信接続利用時の詳細設定

モバイルデータ通信接続利用時は「プッシュ通知」で使用してください。

(注意) SC210 をビジネスホンで使用する場合は、No. 22「DTMF の種類」は「RFC2833」に変更が必要です。

表 A-2 モバイルデータ通信接続利用時の詳細設定

No.	カテゴリ	設定項目	初期値	推奨値	補足説明
1	アカウント	ユーザ ID	空白	自内線番号	
2		表示名	空白	←	
3		認証 ID	空白	自内線番号	
4		パスワード	空白	パスワード	PBX のレジスターパスワード
5		ドメイン	空白	IP アドレス	PBX の IP アドレス
6		プロキシ	空白	IP アドレス: ポート番号	スマートフォン内線アダプタの IP アドレスと通信ポートを設定
7		レジストラ	空白	←	
8		レジスター間隔	3600	←	
9		タイマー間隔	300	←	
10		ダイヤルプレフィックス	空白	←	外線発信用のプレフィックスを発信
11		外線発信と判断するプレフィックス	選択なし	←	電話番号に自動付与させる場合のみ設定
12	ネットワーク	接続許可アクセスポイントリスト(SSID)	空白	←	
13		使用するネットワーク	WiFi のみ	モバイルデータ通信のみ	モバイルデータ通信接続利用時は、左記以外は動作保証なし
14		SIM 回線使用継続機能	OFF	←	
15		STUN サーバ(有無)	OFF	ON	
16		STUN サーバ (IP アドレス)	空白	IP アドレス	スマートフォン内線アダプタの IP アドレス
17		ネットワーク状態不安定時警告表示	OFF	←	本アプリ Ver.1.25 で追加
18		発信前レジスト機能	OFF	←	
19		SIP	SIP ポート	5060	←
20	ヘッダ情報書き換え		OFF	←	本アプリ Ver.1.25 より初期値を ON から OFF に変更
21	トランスポート		UDP 接続	←	初期値から変更していないことを確認 初期値以外は動作保証なし
22	SIP 優先制御(QoS)有無		OFF	←	呼制御通信に対して優先制御する場合のみ設定
23	SIP 優先制御(QoS)値		0	←	
24	メディア	コーデック	PCMU	Speex/8000	モバイル通信状態が良好の場合は、「PCMU」「Opus」も選択可能
25		DTMF の種類	Inband	Inband / RFC2833	SC210 を IP-PBX で使用する場合は「Inband」、ビジネスホンで使用する場合は「RFC2833」を選択が必要

## 付録 A パラメータシート

					上記の選択でない場合は保留転送が不可となる
26		エコーキャンセル	ON	←	「ON」を推奨
27		ジッタバッファ	40 ミリ秒	←	
28		会話継続優先	OFF	←	
29		ビットレート(Speex)	8kbps	←	
30		ビットレート(Opus)	16 kbps	←	
31		音声優先制御(QoS)有無	OFF	←	音声パケットに対して優先制御する場合のみ設定
32		音声優先制御(QoS)値	0	←	
33		マイクミュート動作	OFF	←	会議通話開始時にミュートが必要な場合のみ「ON」
34	一般	基本通話と統合	ON	←	「ON」の場合は、 ①画面ロック時の着信ではロック解除操作が不要となる ②通話中の携帯電話着信があっても通話は継続可能となる <b>※プッシュ通知「ON」の場合は、本設定が「OFF」でも「ON」の動作となる</b> 本アプリ Ver.1.25 より初期値をOFF から ONに変更
35		携帯電話着信音利用	OFF	←	本アプリ Ver.1.25 で追加
36		プッシュ通知	ON	←	<b>初期値から変更していないことを確認</b>
37		常時着信	ON	←	<b>初期値から変更していないことを確認</b>
38		BG 着信を許可する	ON	←	
39		BG 着信時の操作	表示	←	
40		BG 着信時の着信音設定	無効にする	←	
41		携帯発着信時の動作	SC210 を保留	←	「基本通話と統合」を「ON」した場合は、本設定は無効
42		KeepAlive パケット送信 間隔(有無)	OFF	ON	<b>初期値の場合は着信不可となる</b>
43		KeepAlive パケット送信 間隔(タイマー値)	15	←	
44		ネットワーク変化検知 タイマー(有無)	OFF	←	モバイルデータ通信利用時は、本設定は無効
45		ネットワーク変化検知 タイマー(タイマー値)	5 秒	←	
46		ネットワーク変化検知タイマー(非通話用)(有無)	OFF	←	
47		ネットワーク変化検知 タイマー(非通話用) (タイマー値)	5 秒	←	モバイルデータ通信利用時は、本設定は無効
48		圏内外通知	ON	←	ネットワーク変化による利用不可/復旧をバイブ振動で通知 本アプリ Ver.1.25 より初期値を



## 付録 A パラメータシート

					OFF から ON に変更
49		発信/着信履歴の保存	ON	←	Web 電話帳を指定した場合は自動的に「OFF」となるが、手動で「ON」にすることは可能
50	Web 電話帳設定	Web 電話帳	使用しない	←	Web 電話帳を使用する場合は、4.19 章を参照

# 付録 B OSS ライセンスについて

## 付録B OSS ライセンスについて

本章では SC210 で使用している OSS(オープンソース・ソフトウェア)について説明します。

### ■ BSD 3-Clause “New” or “Revised” License

- Speex ver 1.2rc1
- opus codec ver 1.3.1
- pjproject ver 2.13.1

#### The BSD 3-Clause License

The following is a BSD 3-Clause (“BSD New” or “BSD Simplified”) license template. To generate your own license, change the values of OWNER, ORGANIZATION and YEAR from their original values as given here, and substitute your own.

Note: You may omit clause 3 and still be OSD-conformant. Despite its colloquial name “BSD New”, this is not the newest version of the BSD license; it was followed by the even newer BSD-2-Clause version, sometimes known as the “Simplified BSD License”. On January 9th, 2008 the OSI Board approved BSD-2-Clause, which is used by FreeBSD and others. It omits the final “no-endorsement” clause and is thus roughly equivalent to the MIT License.

Historical Background: The original license used on BSD Unix had four clauses. The advertising clause (the third of four clauses) required you to acknowledge use of U.C. Berkeley code in your advertising of any product using that code. It was officially rescinded by the Director of the Office of Technology Licensing of the University of California on July 22nd, 1999. He states that clause 3 is “hereby deleted in its entirety.” The four clause license has not been approved by OSI. The license below does not contain the advertising clause.

This prelude is not part of the license.

<OWNER> = Regents of the University of California  
<ORGANIZATION> = University of California, Berkeley  
<YEAR> = 1998

In the original BSD license, both occurrences of the phrase “COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS” in the disclaimer read “REGENTS AND CONTRIBUTORS”.

Here is the license template:

Copyright (c) <YEAR>, <OWNER>  
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

- \* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- \* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- \* Neither the name of the <ORGANIZATION> nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

### ■ BSD 2-Clause “Simplified” or “FreeBSD” License without disclaimer

#### ■ pjproject ver 2.13.1

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

### ■ GNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2

対象となるソフトウェアモジュールは、ご要望に応じ納品後3年以内に限り媒体提供いたします。提供を希望される場合は、販売店までお問い合わせください。なお、媒体提供の際に別途実費を申し受ける場合があります。

#### ■ pjproject ver 2.13.1

#### GNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.,  
51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA  
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies  
of this license document, but changing it is not allowed.

#### Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software—to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation’s software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Lesser General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

### GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

#### TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program).

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.
- c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed



## 付録 B OSS ライセンスについて

---

through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

### NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

### How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

```
<one line to give the program's name and a brief idea of what it does.>  
Copyright (C) <year> <name of author>
```

```
This program is free software; you can redistribute it and/or modify  
it under the terms of the GNU General Public License as published by  
the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or  
(at your option) any later version.
```

```
This program is distributed in the hope that it will be useful,  
but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of  
MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the  
GNU General Public License for more details.
```

```
You should have received a copy of the GNU General Public License along  
with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc.,  
51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA.
```

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

```
Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author  
Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w`.
```

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type ``show c'` for details.

The hypothetical commands ``show w'` and ``show c'` should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than ``show w'` and ``show c'`; they could even be mouse-clicks or menu items—whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a “copyright disclaimer” for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program ``Gnomovision'` (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1989  
Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Lesser General Public License instead of this License.

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

### ■ GNU Lesser General Public License Version 2.1

対象となるソフトウェアモジュールは、ご要望に応じ納品後3年以内に限り媒体提供いたします。提供を希望される場合は、販売店までお問い合わせください。なお、媒体提供の際に別途実費を申し受ける場合があります。

### ■ pjproject ver 2.9

#### GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.1, February 1999

Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc.  
51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA  
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies  
of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts  
as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence  
the version number 2.1.]

#### Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software—to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages—typically libraries—of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

### GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- a) The modified work must itself be a software library.
- b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
- d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.



## 付録 B OSS ライセンスについて

---

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a “work that uses the Library”. Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a “work that uses the Library” with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a “work that uses the library”. The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a “work that uses the Library” uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a “work that uses the Library” with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer’s own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable “work that uses the Library”, as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)

b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user’s computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.

c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.

d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.

e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the “work that uses the Library” must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.

b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

### NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

### END OF TERMS AND CONDITIONS

#### How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>

Copyright (C) <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1990  
Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

### ■ GNU Library General Public License Version

#### ■ pjproject ver 2.9

#### GNU LIBRARY GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991

Copyright (C) 1991 Free Software Foundation, Inc.  
51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA  
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies  
of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the library GPL. It is  
numbered 2 because it goes with version 2 of the ordinary GPL.]

#### Preamble

The licenses for most software are designed to take away your  
freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public  
Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change  
free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Library General Public License, applies to some  
specially designated Free Software Foundation software, and to any  
other libraries whose authors decide to use it. You can use it for  
your libraries, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not  
price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you  
have the freedom to distribute copies of free software (and charge for  
this service if you wish), that you receive source code or can get it  
if you want it, that you can change the software or use pieces of it  
in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid  
anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights.  
These restrictions translate to certain responsibilities for you if  
you distribute copies of the library, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis  
or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave  
you. You must make sure that they, too, receive or can get the source  
code. If you link a program with the library, you must provide  
complete object files to the recipients so that they can relink them

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

with the library, after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

Our method of protecting your rights has two steps: (1) copyright the library, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

Also, for each distributor's protection, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free library. If the library is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original version, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that companies distributing free software will individually obtain patent licenses, thus in effect transforming the program into proprietary software. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License, which was designed for utility programs. This license, the GNU Library General Public License, applies to certain designated libraries. This license is quite different from the ordinary one; be sure to read it in full, and don't assume that anything in it is the same as in the ordinary license.

The reason we have a separate public license for some libraries is that they blur the distinction we usually make between modifying or adding to a program and simply using it. Linking a program with a library, without changing the library, is in some sense simply using the library, and is analogous to running a utility program or application program. However, in a textual and legal sense, the linked executable is a combined work, a derivative of the original library, and the ordinary General Public License treats it as such.

Because of this blurred distinction, using the ordinary General Public License for libraries did not effectively promote software sharing, because most developers did not use the libraries. We concluded that weaker conditions might promote sharing better.

However, unrestricted linking of non-free programs would deprive the users of those programs of all benefit from the free status of the libraries themselves. This Library General Public License is intended to permit developers of non-free programs to use free libraries, while preserving your freedom as a user of such programs to change the free libraries that are incorporated in them. (We have not seen how to achieve



## 付録 B OSS ライセンスについて

---

this as regards changes in header files, but we have achieved it as regards changes in the actual functions of the Library.) The hope is that this will lead to faster development of free libraries.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, while the latter only works together with the library.

Note that it is possible for a library to be covered by the ordinary General Public License rather than by this special one.

### GNU LIBRARY GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Library General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- a) The modified work must itself be a software library.
- b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
- d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

However, linking a “work that uses the Library” with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a “work that uses the library”. The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a “work that uses the Library” uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also compile or link a “work that uses the Library” with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer’s own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

- a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable “work that uses the Library”, as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)

b) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.

c) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.

d) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the “work that uses the Library” must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.

b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Library General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

### NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

### How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

```
<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>  
Copyright (C) <year> <name of author>
```

```
This library is free software; you can redistribute it and/or  
modify it under the terms of the GNU Library General Public  
License as published by the Free Software Foundation; either  
version 2 of the License, or (at your option) any later version.
```

```
This library is distributed in the hope that it will be useful,  
but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of  
MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU  
Library General Public License for more details.
```

```
You should have received a copy of the GNU Library General Public  
License along with this library; if not, write to the Free Software  
Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA
```

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if



## 付録 B OSS ライセンスについて

---

necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1990  
Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

- The License by ""Jutta Degener and Carsten Bormann, Technische Universitaet Berlin""
- pjproject ver 2.9

Copyright 1992, 1993, 1994 by Jutta Degener and Carsten Bormann,  
Technische Universitaet Berlin

Any use of this software is permitted provided that this notice is not removed and that neither the authors nor the Technische Universitaet Berlin are deemed to have made any representations as to the suitability of this software for any purpose nor are held responsible for any defects of this software. THERE IS ABSOLUTELY NO WARRANTY FOR THIS SOFTWARE.

As a matter of courtesy, the authors request to be informed about uses this software has found, about bugs in this software, and about any improvements that may be of general interest.

Berlin, 28. 11. 1994  
Jutta Degener  
Carsten Bormann

oOo

Since the original terms of 15 years ago maybe do not make our intentions completely clear given today's refined usage of the legal terms, we append this additional permission:

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose with or without fee is hereby granted, provided that this notice is not removed and that neither

the authors nor the Technische Universitaet Berlin are deemed to have made any representations as to the suitability of this software for any purpose nor are held responsible for any defects of this software. THERE IS ABSOLUTELY NO WARRANTY FOR THIS SOFTWARE.

# 付録 B OSS ライセンスについて

---

Berkeley/Bremen, 05. 04. 2009  
Jutta Degener  
Carsten Bormann

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

### ■ The MIT License

- TopViewController ver 0.0.1
- YTKKeyValueStore ver 0.1.0
- pjproject ver 2.9
- ssziparchive ver 0.2.2

The MIT License (MIT)

Copyright (c) <year> <copyright holders>

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

### ■ License: ~~permissive-long-disclaimer~~

対象となるソフトウェアモジュールは、ご要望に応じ納品後3年以内に限り媒体提供いたします。提供を希望される場合は、販売店までお問い合わせください。なお、媒体提供の際に別途実費を申し受ける場合があります。

- pjproject ver 2.9

This Makefile.in is free software; the Free Software Foundation gives unlimited permission to copy and/or distribute it, with or without modifications, as long as this notice is preserved.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY, to the extent permitted by law; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

---

- The License by “Massachusetts Institute of Technology”
  - pjproject ver 2.9

Copyright <year> by the Massachusetts Institute of Technology

Permission to use, copy, modify, distribute, and sell this software and its documentation for any purpose is hereby granted without fee, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of M. I. T. not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission. M. I. T. makes no representations about the suitability of this software for any purpose. It is provided “as is” without express or implied warranty.

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

### ■ Cisco Systems, License

#### ■ pjproject ver 2.9

- \* Copyright (c) 2001–2006 Cisco Systems, Inc.
- \* All rights reserved.
- \*
- \* Redistribution and use in source and binary forms, with or without
- \* modification, are permitted provided that the following conditions
- \* are met:
- \*
- \* Redistributions of source code must retain the above copyright
- \* notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- \*
- \* Redistributions in binary form must reproduce the above
- \* copyright notice, this list of conditions and the following
- \* disclaimer in the documentation and/or other materials provided
- \* with the distribution.
- \*
- \* Neither the name of the Cisco Systems, Inc. nor the names of its
- \* contributors may be used to endorse or promote products derived
- \* from this software without specific prior written permission.
- \*
- \* THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS
- \* "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT
- \* LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS
- \* FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE
- \* COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT,
- \* INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES
- \* (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR
- \* SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
- \* HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT,
- \* STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE)
- \* ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED
- \* OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

### ■ Info-ZIP license (version 2009-Jan-02)

#### ■ sziparchive ver 0.2.2

This is version 2009-Jan-02 of the Info-ZIP license. The definitive version of this document should be available at <ftp://ftp.info-zip.org/pub/infozip/license.html> indefinitely and a copy at <http://www.info-zip.org/pub/infozip/license.html>.

Copyright (c) 1990-2009 Info-ZIP. All rights reserved.

For the purposes of this copyright and license, "Info-ZIP" is defined as the following set of individuals:

Mark Adler, John Bush, Karl Davis, Harald Denker, Jean-Michel Dubois, Jean-loup Gailly, Hunter Goatley, Ed Gordon, Ian Gorman, Chris Herborth, Dirk Haase, Greg Hartwig, Robert Heath, Jonathan Hudson, Paul Kienitz, David Kirschbaum, Johnny Lee, Onno van der Linden, Igor Mandrichenko, Steve P. Miller, Sergio Monesi, Keith Owens, George Petrov, Greg Roelofs, Kai Uwe Rommel, Steve Salisbury, Dave Smith, Steven M. Schweda, Christian Spieler, Cosmin Truta, Antoine Verheijen, Paul von Behren, Rich Wales, Mike White.

This software is provided "as is," without warranty of any kind, express or implied. In no event shall Info-ZIP or its contributors be held liable for any direct, indirect, incidental, special or consequential damages arising out of the use of or inability to use this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the above disclaimer and the following restrictions:

?Redistributions of source code (in whole or in part) must retain the above copyright notice, definition, disclaimer, and this list of conditions.

?Redistributions in binary form (compiled executables and libraries) must reproduce the above copyright notice, definition, disclaimer, and this list of conditions in documentation and/or other materials provided with the distribution. Additional documentation is not needed for executables where a command line license option provides these and a note regarding this option is in the executable's startup banner. The sole exception to this condition is redistribution of a standard UnZipSFX binary (including SFXWiz) as part of a self-extracting archive; that is permitted without inclusion of this license, as long as the normal SFX banner has not been removed from the binary or disabled.

?Altered versions—including, but not limited to, ports to new operating systems, existing ports with new graphical interfaces, versions with modified or added functionality, and dynamic, shared, or static library versions not from Info-ZIP—must be plainly marked as such and must not be misrepresented as being the original source or, if binaries, compiled from the original source. Such altered versions also must not be misrepresented as being Info-ZIP releases—including, but not limited to, labeling of the altered versions with the names "Info-ZIP" (or any variation thereof, including, but not limited to, different capitalizations), "Pocket UnZip," "WiZ" or "MacZip" without the

## 付録 B OSS ライセンスについて

---

explicit permission of Info-ZIP. Such altered versions are further prohibited from misrepresentative use of the Zip-Bugs or Info-ZIP e-mail addresses or the Info-ZIP URL(s), such as to imply Info-ZIP will provide support for the altered versions.

Info-ZIP retains the right to use the names "Info-ZIP," "Zip," "UnZip," "UnZipSFX," "WiZ," "Pocket UnZip," "Pocket Zip," and "MacZip" for its own source and binary releases.

### ■ zlib/libpng license

#### ■ sziparchive ver 0.2.2

The zlib/libpng License

Copyright (c) <year> <copyright holders>

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.